

文字、音、正書法

著者名(日)	菅野 裕臣
雑誌名	韓國語學年報
巻	3
ページ	139-237
発行年	2007-03-25
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000871/

文字, 音, 正書法

菅野裕臣

元神田外語大学

2.1.1. 文字

現在朝鮮語で用いられている文字は次のものからなる.

基本的な子音字(14字): ㄱ ㅋ ㆁ ㄷ ㄱ ㄴ ㄷ ㄴ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ

基本的な母音字(10字): ㅏ ㅑ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅡ ㅣ

ただしこれ以外に次の文字もある.

合成された子音字(5字): ㄲ ㄴㅇ ㄴㅇ ㄴㅇ ㄴㅇ

合成された母音字(11字): ㅘ ㅙ ㅚ ㅛ ㅜ ㅝ ㅞ ㅟ ㅠ ㅡ ㅢ

合成された母音字は(1)基本的な母音字(ㅛとㅠを除く) + ㅣ (7字),

(2)基本的な母音字ㅛ/ㅜ + ㅏ/ㅑ (2字), (3)基本的な母音字ㅛ/ㅜ + ㅏ/ㅑ + ㅣ (2字)からなる. (2), (3)ではㅛとㅏ, ㅜとㅑが結合する.

このように朝鮮の文字はラテン字(ローマ字)と同じく単音文字である. ただしラテン字とは違ってこれらの文字は単独で用いられることはなく, 実際には必ず音節ごとにまとめて音節文字として実現される. 音節文字としての朝鮮の文字は必ず初声(子音字), 中声(母音)の2つの部分からなるか, あるいは初声(子音字), 中声(母音), 終声の3つの部分からなる.

初声の位置に立ち得る子音字は基本的な子音字 14 個 + 合成された子音字 5 個 = 19 個である.

中声の位置に立ち得る母音字は基本的な母音字 10 個 + 合成された母音字 11 個 = 21 個である.

終声の位置に立ち得る子音字は基本的な子音字 14 個 + 合成された子音字のうち ㄲ, ㄴㅇ の 2 個 + 2 つの子音字からなる終声字 ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄴ, ㄹ, ㄹ, ㄹ, ㄹ, ㄹ, ㄹ, ㄹ, ㄹ 11 個 = 27 個である.

基本的な母音字は初声の右に書かれるもの(ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅣ 5 個)と下に書かれるもの(ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ 5 個)とがある.

音節文字の具体例を示せば次のようになる. C: 基本的な子音字, V: 基本的な母音字. -: 中声と終声の境界.

CV	가 고	CVV	개 괴	CVVV	괘
CCV	까 꼬	CCVV	깨 켜	CCVVV	꽤
CV-C	각 곡	CVV-C	객 관	CVVV-C	괘
CCV-C	깍 꼭	CCVV-C	깡 꺾		
CV-CC	닭 톡	CVV-C	냈 냐	CVVV-CC	꽤

CCV-CC ㄱ ㅎ CCVV-C ㄹ ㅅ

現在朝鮮語のコンピューターでは合成された子音字(5字): ㅍ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗと合成された母音字のうち4字: ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, 合計9字だけがキーボードに基本的なものとして組み込まれている。

論理的には初声字 19 個, 中声字 21 個, 終声字 27 個を組み合わせると膨大な数の音節字ができることになるが(10,773 個), 実際には音節字はさほど多くはない。コンピューターには普段は用いられない音節文字まで入っているが, かつて印刷所で準備した活字はせいぜい 3~4 千個程度だった。

2.1.2. 文字の名称と位置づけ

朝鮮の文字はやっと 15 世紀中葉李氏朝鮮王朝第 4 代国王世宗(在位 1418-50)の勅令によって作られた。ブラーフミー文字(インド)前 4-3 世紀, , ジャワ文字 4 世紀, アラビア文字, チベット文字, クメール文字(カンボジア)7 世紀, 日本の仮名 9 世紀, 契丹文字 10 世紀, 西夏文字, ビルマ文字 11 世紀, 女真文字 12 世紀, モンゴル文字, パクパ文字(パスパ文字といふことが多い), タイ文字 13 世紀, ヴェトナムのチュノム 13-14 世紀, 満洲文字は 17 世紀が大まかな成立年代だから, これを見ても朝鮮の文字の成立はかなり遅い。朝鮮語の資料が極度に少ないことは固有の文字の成立が遅れたことで説明される。朝鮮語の姿は, 文字の成立した 15 世紀以前は漢字資料しかなく, ほとんど明らかでない。

現在南北朝鮮には古代朝鮮に独自の文字があったとする説があるが, これは明らかに偽書である書目によって述べられているもので, まるで信用に値しない。朝鮮には日本と同様漢字の伝来以前に文字があったという証拠がない。日本には固有の文字がなかったことを慨嘆した者らが江戸時代末期に神代(じんだい)文字なるものをでっち上げたことがあり, その一部は朝鮮の文字に似ており, あたかも日韓共通の文字が日本と朝鮮で現在に至っているかのような説を振りまく者がいるが, これもとんでもないデマである。朝鮮には日本のかたかなのように漢字の部分を取って作った「口訣구결(こうけつ)」という文字が, 漢文を読む際に, 日本の送り仮名のように付けられたが, この文字は, 朝鮮語の音節の構造があまりにも複雑なために, 独自の文字へとは発展しなかった。

朝鮮の文字は世宗の命を受けた当時一流の学者たちによって突如独創的に作られ, 1443 年に公布された『訓民正音』という書籍(大韓民国の国宝に指定されている)により当初から完璧な姿を世に知らしめたが, これは最初は訓民正音(民に訓ずる正しき音)あるいは正音と呼ばれた。この文字ははじめてから漢字に対して副たる位置しか与えられず, 漢文のテキストの朝鮮訳に用いられるのみであり, いわば男性の用いる漢文(漢字)に対して女性と子供の用いる文字としての地位に甘んじ, 諺文언문(おんもん)とも呼ばれてきた。この文字は 1894 年甲午の改革の時に公用文にもちいられることになり, 当時国文とも呼ばれた。その頃 한글(ハングル。「韓の文字」あるいは

「大いなる文字」の意)という名称が作られ、民間で用いられてきたが、大韓民国ではそのままそれが踏襲され、北朝鮮では조선글(チョソンクル。「朝鮮の文字」の意)と呼ばれる。本書では「ハングル」という名称を用いることにする。

ハングルは、男性にあつては漢文を書くための前段階として、女性にあつてはせいぜいハングルだけによる書写と読書の目的のために(従って女性が漢字を知る機会はない)、用いられるに過ぎず、ハングルと漢字の混用文はわずかに詩歌にしか見出せず、李朝時代は漢文だけかハングルだけの文かしかなく、漢字ハングル混用文(国漢文)は甲午の改革ごろに現われた。

南北朝鮮の独立後当初からハングル専用文が南北で法制化されたが、韓国では今でも民間では漢字ハングル混用文が一部で用いられ、公的には廃止された漢字はまだ勢力を保っている。朝鮮では伝統的に小説、手紙等は全文ハングル書きであり、漢字不使用の場面が日本より格段広がった。加えてハングル・タイプライター、そしてその後のコンピュータの大々的な普及は漢字の日常的な使用を狭めており、もはやハングル専用文が漢字ハングル混用文に逆戻りする可能性は皆無と言ってよい。

ハングルは世界の文字史の中で極めて特殊な位置を占めている。第1にそれは、製作者が不明である場合が大部分を占める文字の中にあつて、製作者を特定し得、製作原理をほぼ明らかにし得る(すなわちハングルは人工的である)数少ない例である。第2にハングルは世界のどの文字とも直接結びつくものがない、すなわちハングルは世界の文字の中で孤立した存在である。第3にハングルは表音文字でありながらも音節文字としての性格をも併せ持つ特殊な文字である。この種の典型的な文字としては恐らくはハングルしかない。ついであるが漢字は表意文字であるが、漢字の持つ音(おん)が皆1音節からなっているために、漢字から派生した日本の仮名も、朝鮮のハングルも音節文字の性格を持つに至ったと言ひ得る。この点では仮名もハングルも中国的側面から脱却できていないのだが、この2つの文字ともそれぞれ日本語と朝鮮語の音韻組織に実にうまく適合しているとも言えるのである。

ハングルの音節文字的な性格はかつて多くの活字の準備を不可欠にし、そのためハングルの純粋にラテン文字と同じく横に並べて書く方式(가로폴어쓰기分解横書き)を推進する運動が起きたが、まずハングル・タイプライター、そしてその後のコンピュータの大々的な普及はそのような運動をほとんど無に帰せしめた。朝鮮語によく適合したハングルのおかげで朝鮮ではついぞローマ字運動が起きなかった。

文字に関する学問を文字論という。文字論的観点からなされたハングルについての研究はまだ不十分である。

日本では漢字に似せた擬似漢字が作られたが(「峠(とうげ)」とか「畑(はたけ)」とか「鰯(いわし)」のようなもの。これを国字という)、朝鮮にも似たようなものがある(例えば「畚」。これは논(水田)という意味だが、답という音を持つ。なお朝鮮の漢字は訓を持たない)。普通これは固有漢字と呼ばれる。

0.1. 朝鮮語のタイプライター

コンピューター全盛時代の昨今ではタイプライターなどというのは博物館行きになってしまった。さりとてコンピューターのラテン字やキリル字(ロシア文字他)のキーボードの文字の配列はタイプライターのそれと同じだし、まさにタイプライターがコンピューターの先駆けとしての役割も果たしたのである。

朝鮮語も日本語もタイプライターといえば、かなと漢字、ハングルと漢字の活字のぎっしり詰まった箱の上を上下左右に機械を動かして文字をいちいち拾っては紙に文字を打ったものである。真にその技は技術ともいふべきものだった。きれいな文字と引き換えに多くの時間が犠牲にされた。

日本語のカナタイプはラテン字タイプライターのキーを改良することでいち早く開発されていたが、漢字のないかたかなだけの文章は読みづらく、さほど普及しなかった。

韓国ではやはりラテン字タイプライターのキーを改良する方法でハングル・タイプライターの開発が目覚ましい発展を遂げた。この際(1)文字の打ち方の速さと(2)文字の美しさという相反する要素にどう決着を付けるかが問題となった。

ハングルは子音字 14 字、母音字 10 字とはいうが、実際には音節文字の中ではそれぞれの文字の位置も大きさも変わってくる。同じ子音字は最大限①初声(左), ②初声(上), ③終声の 3 種類の文字を用意しなければならず、母音字も④下に終声を持つものと⑤持たないものの 2 種類は最低限必要である。これらのうち①, ②, ④はデッド・キーとしなければならず, ③と⑤で初めて次の文字に移るのである。しかしながら 2 文字からなる子音字は速度を考慮すれば, なるべく 1 つのものとしてキーを作りたいところであり, さらに合成された母音字も頻度の高いものは 1 つのものとして作りたいところである。結果としてある種のハングル・タイプライターは終声ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇ, ㅈ, ㅊ, ㅊ, ㅊ, ㅇ, ㅈ, ㅈ, ㅈ, ㅈ, ㅇ: 中声 ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂなどがそれぞれ特別なキーとして取り立てられ, ㅁとㅂは④と⑤の他にㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂ, ㅂの前に立ち得る形⑥(デッド・キー)を 1 つずつ作った。このようにして打たれたハングルの文章はかなり綺麗だが, これまたタイピストの使う神経は並大抵のものではない。子音字も母音字も常に次に来る文字を意識しなければ打てないのである。(2) 文字の美しさは(1)速度を犠牲にするのである。

①と②を区別せず、かつ④、⑤、⑥とを区別しなくてよいとする画期的なタイプライターが現われた。その名を孔打字機(コン・タイプライター)という。孔(공コン)という研究熱心な歯医者が開発した。朝鮮におけるハングル以来の大発明であると本人は言っている。結局母音字は1種類、子音字は2種類(すなわち初声と終声)、しかも子音字は初声と終声とを同時に打てるというのだから(すなわち初声と終声とが同時に飛び出せるよう活字の穴をあらかじめ2つ作ってある)、1つの文字を作るのに2回キーを打てば足りるのである(すなわち初声+中声[あるいは中声+終声])。確かにこれは速い(1)。しかし逆に美しさ(2)を犠牲にしていることも事実である。このタイ

プライターで打つと、終声だけが下に不恰好に突き出ている。普通横書きにされた文字は下の線がそろっていさえすれば視覚的に楽に読めるのだが、これは上の線がそろっていても下の線が不ぞろいだから、読みづらいこと限りない。それでも漢字を使わない朝鮮語の世界ではハングル・タイプライターは爆発的に普及し、日本とは違って、作家はそれで小説を執筆したし、警察でも警官は犯人のことはたちどころにタイプする。

朝鮮語のコンピューターの登場はさらに状況を一変させた。今や初声と終声の区別さえ必要がなく、ただ文字の順序に、すなわち音節文字を作るための一切の配慮もなしに、言うならばラテン字の配列通りに打つが如く、打っていけば機械がおのずと音節文字を作ってくれるのである。こうなるともはや가로풀어쓰기分解横書きも漢字廃止運動も一切不必要なものとなる。あたかもコンピューターの出現が日本においてあらゆる漢字廃止運動(カナモジ運動, ローマ字運動を含む)を決定的に無効にしてしまったのと同じように。

いろいろと紆余曲折を経た文字盤でのハングルの配列は現在のコンピューターでの次のような配列に落ち着いたようである。

Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P
ㅅ(ㅅ)	ㅈ(ㅈ)	ㅊ(ㅊ)	ㅋ(ㅋ)	ㅌ(ㅌ)	ㄴ(ㄴ)	ㅇ	ㅍ	ㅎ(ㅎ)	ㅊ(ㅊ)
A	S	D	F	G	H	J	K	L	
ㅏ[ㅏ]	ㅓ	ㅗ{ㅗ}*	ㅕ	ㅛ[ㅛ]	ㅜ	ㅑ	ㅓ[ㅓ]	ㅗ[ㅗ]	ㅓ
Z	X	C	V	B	N	M			
ㅗ[ㅗ]	ㅓ[ㅓ]	ㅕ[ㅕ]	ㅛ[ㅛ]	ㅜ[ㅜ]	ㅑ[ㅑ]	ㅓ[ㅓ]	ㅗ[ㅗ]	ㅓ	

()はシフト・キーを用いたもの, []は古ハングルの場合シフト・キーを用いたもの、ただし*をつけたものは“ㅗ[ㅗ]”となっている。

普通のコンピューターでは無符号のもの及び[]はシフト・キーの使用, 不使用にかかわらず文字は同一である。

0.2. 訓民正音成立時に朝鮮人はどういう文字を知っていたか？

ハングルを作った人たちがどれほどの外国の文字を知っていたかはたいへん興味ある問題である。当時世宗の命により新しい文字の製作にたずさわった人々は単なる高級官僚であるにとどまらず、朝鮮で指折りの一級の知識人だった。彼らはまず中国音韻学の豊かな知識を持っていたと推測される。しかも彼らは当時の哲学も幅広

い分野の学問的知識も持っていた博物学者だっただろうと思われる。

彼らは『訓民正音』という書籍の中で新しく作った文字について当時の哲学の用語をふんだんに用いて説明しているが、韓国の一部の哲学者が主張するように、当時の哲学が彼らの文字製作に肯定的な働きをしたというよりは、彼ら自身が何よりも朝鮮語の音的側面に対して非常にきめ細やかな観察をした功績が大であることを評価すべきである。彼らの説明についてはいまだによく分からない点がある。

彼らは当然のこと中国の漢字、日本の仮名、インドの梵字、チベット文字、パクパ文字、モンゴル文字等を知っていたと思われる。これらの文字資料はすべて朝鮮の地に書籍、文書、碑文などの形で残っている。勿論彼らは女真、契丹、西夏などが文字を持っていたことは知っていたが、それらが読めたとする証拠はない。韓国の一部の民族主義者が主張するように彼らがラテン字を知っていたという可能性はまったくない。

漢字とそれに起源を持つ仮名だけが中国に発生した文字だとするならば、梵字、チベット文字、パクパ文字等のインド系統の文字(これは遠くエジプトの表意文字に起源を持つ)は南から、モンゴル文字(これもまた遠くエジプトの表意文字に起源を持つアラム文字、ソグド文字、ウイグル文字からの発展である)は北から朝鮮を取り囲んでいた。ついでながらこれらの文字は日本にも中国経由で入っており、一部の知識人の知るところだった。

文化としての文字もまた他の文化現象と同じく周囲の文化現象の影響から自由ではあり得ず、この意味ではハングルもまた字形(四角形)の上で、またその音節文字的性格において漢字の影響を蒙り、また表音文字としての側面(字形)は間接的に例えばインド系の文字であるパクパ文字の影響を蒙り、文字製作の原理はインドの音声学>中国音韻学の影響を受けた可能性を想定せざるを得ないのである。ハングルは朝鮮語の表記には実に適した優れた文字だが、さりとてあらゆる文字よりも優れているという主張は当たらない。まったくの独自性というものは、朝鮮の民族主義者の言とは異なり、普通存在しないものである。

ハングルをもしもインド的なもの(文字の字形)と中国的なもの(文字製作の原理と四角い字形)との融合の結果と見るならば、ハングルともっとも関係のありそうな文字はパクパ文字である。パクパ文字(縦書き)はチベット文字(横書き)のヴァリエントと言ってよく、しかもこれらが子音字に必ず母音 a が付いている文字であるという点でインド系の文字(梵字をも含む)と共通している。チベット文字は符号(l)で音節の境界を分かち、パクパ文字は音節ごとに文字を結合させる(従って音節の境は文字間の空白となる)という点はハングルの音節文字的性格と似ている。ただハングルは子音字と母音字とを別個のものとして分離しているし、母音 a を表す文字を作った点が母音を符号としてしか扱っていないインド系文字とは異なる。

『訓民正音』という書籍は何度読んでも興味の尽きないものである。学問的にきちんとした注釈のついた日本語訳あるいは英訳の刊行が待たれる。

2.1.3. 字母

文字体系をなす各々の文字(普通一定の配列を持つ)を字母(アルファベット)という。字母は各字の名称を持つ。現在ハングルは次のような名称を持つ。〃は左に同じであることを示す。

子音字	韓国名称	北朝鮮名称①	同②	母音字	母音字名称
ㄱ	기역	기읍	그	ㅏ	아
ㄴ	니은	〃	느	ㅑ	야
ㄷ	디귄	디은	드	ㅓ	어
ㄹ	리을	〃	르	ㅕ	여
ㄴ	미읍	〃	므	ㅗ	오
ㄷ	비읍	〃	브	ㅛ	요
ㅅ	시읏	시읏	스	ㅜ	우
ㅇ	이응	〃	으	ㅠ	유
ㅈ	지읏	〃	즈	ㅡ	으
ㅊ	치읏	〃	츠	ㅣ	이
ㅋ	키읍	〃	크	ㅐ	애
ㅌ	티을	〃	트	ㅒ	에
ㅍ	피읍	〃	프	ㅖ	예
ㅎ	히읍	〃	흐	ㅗ	외
ㅍ	쌍기역	된기읍	꼬	ㅜ	위
ㅌ	쌍디귄	된디은	뜨	ㅓ	의
ㅍ	쌍비읍	된비읍	쁘	ㅕ	와
ㅅ	쌍시읏	된시읏	쓰	ㅗ	워
ㅈ	쌍지읏	된지읏	쯔	ㅑ	왜
				ㅓ	웨

北朝鮮の子音字の名称は“C ㅣ ㅡ C”という構造を持つ。

これらの名称のうちㄱ-ㅇのそれは16世紀の『訓蒙字会』という辞書(崔世珍著)に載っているものであるが, ㄱ, ㄷ, ㅅの名称のうち後半の部分が一般的な原則通り(“ㅡ C”)にいかないのは, そのような音節をぴったり表す漢字がなかったためと思われる(2.1.4.1 参照)。

ㄱ-ㅇの部分に後半の部分があるのは, これらの文字が当時の正書法で終声として用いられたためと思われる。つまり字母の名称は初声と終声の場合の音(おん)を示したものである。ㅈ以降は初め後半の部分がなかった可能性がある。

韓国ではㅐ, ㅒなどは아이, 어いのように言われることがある。

上記の字母表は北朝鮮及び中国延辺朝鮮族自治州のものであり, 字母の配列もそ

の通りである. 子音字 19 字(基本的なもの 14 字+合成されたもの 5 字), 母音字 21 字(基本的なもの 10 字+合成されたもの 11 字), 合計 41 字と計算する.

韓国では字母としては子音字は基本的なもの 14 字, 母音字は基本的なもの 10 字 (合計 24 字) しか認めていない.

辞典での字母の配列について述べる.

北朝鮮では子音字の後ろに母音字を配列する。ただし子音字○には単語が配列されず、韓国の辞典なら○に入るべきもの(すなわち母音で始まるもの)は事実上すべてㄱの後ろに配列される(ただし母音字の配列も韓国とは大いに異なる)。北朝鮮の辞典では○は終声でのみ順序性が問題となる。

終声字の配列は北朝鮮では次のようになる。ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅆ, ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㆁ, ㄷㅇ, ㄴㅇ, ㄹㅇ, ㅁㅇ, ㅂㅇ, ㅅㅇ, ㅆㅇ, ㅈㅇ, ㅊㅇ, ㅋㅇ (韓国ではㄱㅇはㄱの後ろ、ㆁはㅇの後ろに来る)。

韓国では合成された子音字(濃音字)は(1)平音字に混ざるか(ただしㄷはㄴより前. “가닥”, “까닥”, “까딱”, “가득”, “가뜩”), (2)平音字の次に入れられる(ㄷはまとめてㄴの後ろに入れられる. 例えば“가닥”, “가득”, “가뜩” ; “까닥”, “까딱” のように). (1)の方式は日本の国語辞典で例えば「か」と「が」とを混ぜると似ており(ただし「か」が「が」より前. 「かく」, 「かぐ」, 「がく」, 「がぐ」, 「かけ」, 「かげ」, 「がけ」の順), (2)の方式を取る日本の辞典はないが, もしもそのようにするのなら「かく」, 「かぐ」, 「かけ」, 「かげ」; 「がく」, 「がぐ」, 「がけ」のようになるだろう. 現在(2)の方式が一般的である.

韓国では母音字の順序は次のようになる. ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅟ, ㅢ, ㅤ, ㅥ, ㅦ, ㅧ, ㅨ, ㅩ, ㅪ, ㅫ, ㅬ, ㅭ, ㅮ, ㅯ, ㅰ, ㅱ, ㅲ, ㅳ, ㅴ, ㅵ, ㅶ, ㅷ, ㅸ, ㅹ, ㅺ, ㅻ, ㅼ, ㅽ, ㅾ, ㅿ, ㅿ, ㅿ.

2.1.4. ハングルのその他の文字

以上現代語に用いられる文字について述べてきたが、訓民正音が公布された時には文字はもっと多かった。以下に『訓民正音』の説明を整理して示せばおおよそ次のようになる。

		牙音	舌音	唇音	齒音	喉音
全清	ㄅ	ㄆ	ㄇ	ㄏ	ㄏ	ㄏ
次清	ㄆ	ㄆ	ㄇ	ㄏ	ㄏ	ㄏ
全濁	ㄆ	ㄆ	ㄇ	ㄏ	ㄏ	ㄏ
不清不濁	ㄆ	ㄆ	ㄇ	ㄏ	ㄏ	ㄏ

ここで用いられている術語はすべて中国音韻学のものである。牙音は現代の術語では軟口蓋音、舌音は齒音、唇音はそのまま唇音、齒音は齒茎音、喉音はほぼ声門

音に当たる. これを五音という.

この文字は固有語にも中国漢字音にも用いられているので、同じ文字でも固有語の場合と漢字語の場合とで意味が異なった可能性があるし、細部は異なった意見も多く、分からないというのが実情である。ここでは詳しく述べる余裕がないので、とりあえずの説明だけしておく。

全清は現代の術語では無気音，次清は有気音，全濁は有声音，不清不濁は鼻音あるいは有声音を表す．ただし全濁(=有声音)の文字は現代語の濃音字と同じだが，果たして当時有声音だったかどうかは疑わしく，現代語と同じだった可能性もある．

歯音ス, ズ, フは現代語のほとんどの方言の後部歯茎音 [tʃ] ではなく, 例えば平安道方言の [ts] だったと思われる.

ㇿは声門閉鎖音(初声, 終声) [ʔ], 𐄌は摩擦音(初声) [x], 𐄍は摩擦音(初声, 終声) [ɣ], 𐄎は摩擦音(初声) [β], 𐄏(終声)は [w] あるいは無音だった可能性がある。

他に oo という初声あらわれるが、恐らく音価は [ij] だったであろうと思われる。

終声としては㇀, ㇁, ㇂; ㇃; ㇄, ㇅, ㇆の他に入, ㇇も現われた。入, ㇇の音価ははっきりしない。漢字音の場合は㇂, ㇇も終声の位置に来られるが、読まれなかった可能性がある。㇂[ŋ] は初声にも現われた。㇇もまたインテリ以外には発音は難しかったであろうから、読まれなかった可能性もある。

初声にも終声にも2つ乃至3つの子音結合があった。初声: $\alpha\epsilon$, $\beta\alpha$, $\beta\alpha\eta$, $\beta\alpha\epsilon$ 等; 終声: $\epsilon\eta$, $\eta\alpha$, $\epsilon\eta\alpha$ 等(これらは文字のままに読まれたと思われる)。

他に中国語音を表すための特殊な文字もあった(ㄆ, ㄊ, ㄒ, ㄓ, ㄔ, ㄕ).

母音字としては他に・[ʌ]があった。ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅣ等は二重母音あるいは三重母音だった。単母音の音価については異論もあり、細かなことは不明である。

音節の高低すなわちアクセント(朝鮮では声調と言った)も表記された. □(無符号)－低, ・□－高, :□(=□+・□)－低高.

16 世紀の辞書『訓蒙字会』(崔世珍著)の凡例には次のようなハングルの順序と名称が挙げられている(原文は漢文による).

ㄱ 기억, ㄴ 니은, ㄷ 디글, ㄹ 리을, ㅁ 미음, ㅂ 비읍, ㅅ 시읏, ㅇ 이응.
 ㅋ 키, ㅌ 티, ㅍ 피, ㅊ 지, ㅌ 치, ㅍ 피, ㅇ 이, ㅎ 히.
 ㅏ 아, ㅑ 야, ㅓ 어, ㅕ 여, ㅗ 오, ㅛ 요, ㅜ 우, ㅠ 유, ㅡ 으, ㅣ 이,
 . 으

訓民正音作成当時ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇの名称は『訓蒙字会』での名称の前半部であった可能性がある(河野六郎説).

ハングルは次のような手順で作られたと『訓民正音』に記されている。ハングルが独創的といわれる所以である。

牙音 舌音 唇音 齒音 喉音

①	ㄱ	ㄴ	ㅇ	ㄷ	ㄹ
②	ㅋ	ㆁ	ㅁ	ㅌ	ㄾ
③		ㅂ	ㅅ	ㅈ	ㅊ
④		ㅊ		ㅌ	ㅇ

はじめに基準となるべき①を発音器官を模して作った. ㄱとㄴは人間の唇を左に置いた時の舌の形を模したもの, ㅇは唇を真正面から見たもの(四角), ㄷは歯を模したもの, ㄹは口を開けた時の空の状態を模したもの, ②は①の文字の上に(ㆁ, ㅁ, ㅌ),あるいは真ん中に(ㅋ)に棒を置いたもの, ㅁは四角の左右に棒を上につき立てたもの, ③は②にさらに横の棒を加え(ㅂ), 縦の棒を加え(ㅅ, ㅈ), ㅅは四角の左右四隅に横の棒を加えたもの, ④は①になんらかの追加を行ったもの(ㅊ, ㅌ), ㅇは①に縦の棒を加えたものである.

母音字は点(・), 横の棒(一), 縦の棒(丨)の3つの要素からなるが, これはそれぞれ天(陽性), 地(陰性), 人(中性)をかたどったものである. そしてㅏ, ㅑ(丨の右, 一の上に1点を追加), ㅓ, ㅕ(丨の左, 一の下に1点を追加)を作り, それらの1点を2点とすることにより, 二重母音字を作った(ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ). つまり次のような体系である.

陽 性	・	ㅏ	ㅑ	丨
陰 性	一	ㅓ	ㅕ	中 性

母音字の構成については不明の点が多いが, 注目されるのはここで陽性母音どうし, 陰性母音どうしは共存し得ず, 中性母音は陽性母音とも陰性母音とも共存し得ることである. このことは文字製作者たちが間違いなく当時朝鮮語に存在した母音調和の現象を知っていたことを意味する. しかも天(陽性)と地(陰性)の間に人(中性)が立っているのを縦の棒で示したのである.

現在中期朝鮮語を読む時は, 日本で古典語を現代語式に読むように, 今様の読み方に従う. ㅌはㄷ, ㆁはㅇ, ㅏはㅏに, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ等は濃音ㅑ, ㅓ, ㅕ等に置き換えて読む. 文字の名称としてはㅌは삼각형<三角形>, ㆁは여린 히읏<切れたㅎ>, ㅏは아래 아<下のㅏ>と呼ぶ.

2.1.5. 半切表 日本の五十音図に似た半切表というものがある. 基本的な子音字 14字×基本的な母音字 10字=140字からなる.

가	갸	거	겨	고	교	구	규	그	기
나	냐 [○]	너	녀 [○]	노	뇨 [○]	누	뉴 [○]	느	니 [○]
다	다 ^{**}	더	더	도	도 ^{**}	두	듀 ^{**}	드	디

라 [○]	랴 [○]	러 [○]	려 [○]	로 [○]	료 [○]	루 [○]	류 [○]	르 [○]	리 [○]
마	먀	머	며	모	묘	무	뮤	므	미
바	바	버	벼	보	보	부	뷰	브	비
사	샤 ^{**}	서	셔	소	쇼 ^{**}	수	슈 ^{**}	스	시
아	야	어	여	오	요	우	유	으	이
자	자 [*]	저	저	조	조 [*]	주	쥬 [*]	즈	지
차	차 [*]	처	처	초	쵸 [*]	추	쥬 [*]	츠	치
카	카	커	커	코	코	쿠	큐	크	키
타	타 ^{**}	터	터	토	토 ^{**}	투	튜 ^{**}	트	티
파	파	퍼	퍼	포	포	푸	퓨	프	피
하	하	허	허	호	호	후	휴	흐	히

[注]* 現在の韓国の正書法では事実上まったくあらわれない。

** 現在の正書法では外来語にしかあらわれない。

○ 現在の韓国の正書法では外来語の場合を除いて語頭に現われることはない(ただし北朝鮮では語頭にも現われ得る)。

以上のうち発音の上からは자=자, 저=저, 조=조, 주=쥬; 차=차, 처=처, 초=쵸, 추=쥬 である。ただし平安道方言では違いがある。자[tsa]—차[tʃa]。

半切表は가가, 거거, 고교, 구규, 그기のように切って読まれる。

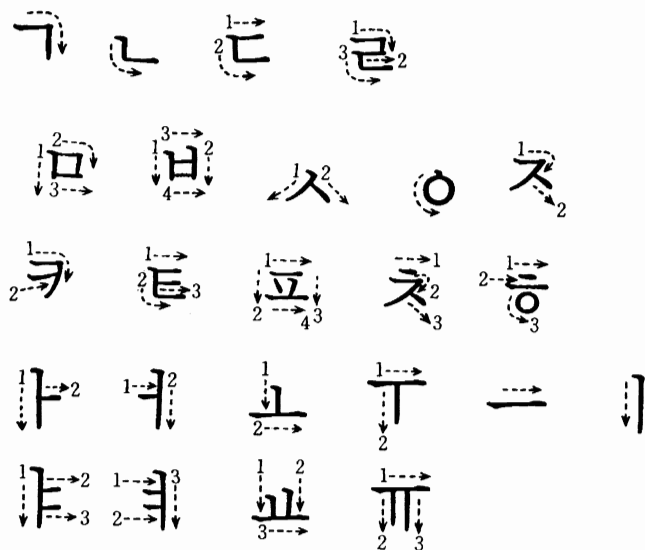
半切表はかつて各行とも11番目に母音字・を含む文字があった。ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇ, ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㅌ, ㅍ, ㅎ. これらは가, 나, 다, 라, 마, 바, 사, 아, 자, 차, 카, 타, 파, 하 と読まれる。・をㅏと区別するために어래아(下の아)と呼ぶ。かつて半切表は次のように読まれた。가이가, 거이거, 고이교, 구이규, 그기ㄱ。

半切表は、ちょうど日本人にとって五十音図の音(音節)が発音上の最小の単位であるように、朝鮮人にとってはまず取り出される音(音節)である。CVC(子音+母音+子音)のような音節は CV+C のように半切表の音節+子音と認識される。日本人とは異なり、朝鮮人は終声にはとても敏感であり、よくそれらを区別する。李朝まで続いた「口訣」というかたかなに似た文字がやはり CV+C のように終声だけを表す文字があるのはこのことと関係あるかも知れない。

初声, 中声, 終声という術語は音(おん)を表したり, 文字を表したりさまざまなので, 特に文字を示す場合に初声字, 中声字, 終声字と呼ぶことにする。

2.1.6. 文字の書き方と書体

ハングルの個々の文字の書き順はだいたい次の通りである。次ページの表を参照のこと(菅野裕臣,『朝鮮語の入門』, 東京:白水社, 1981, 18-23 ページから引用)。



子音字は、書き順の 3 が 2 となり、2 が 3 となるものがある。

子音字ㅓは、書き順の 3 が 2 となり、2 が 3 となるものがある。さらに特に北朝鮮では 1 と 3 との間(すなわち横の棒の中間)が空いている字形がある。

子音字 \circ は普通は上から左回りで書かれるが、筆で書く時は、まず上から左回りで真下まで書き、次に上から右回りで真下まで書き、円の下の線を合わせる。ペンで書く時もそのように書く人がある。ペン、ボールペン、鉛筆などで書く時は \circ の頭の突起は付けずにまん丸を書けばよい。

子音字ㄷは漢字の「己」のように最後の画を跳ね上げてはいけない。

子音字ハは漢字「人」のように右の画が下の方にそりかえるのではなく、逆に、\のよう
にそった方がよい。

母音字 Π の左側の縦の棒を ノ の字のように曲げて書く人もいる。

合成された母音字のうち縦棒のものからなるもの(ㄹ, ㅍ, ㅑ, ㅓ)は第 1 の母音字の縦棒が第 2 の母音字(ㅣ)より短い.

初声字+中声字の文字の書き方は以下の点に留意すべきである(1.5. 半切表を参照).

中声字は縦棒のもの(卜, 𠂔, 𠂔, 𠂔, 𠂔)と横棒のもの(𠂔, 𠂔, 𠂔, 𠂔, 𠂔)とがある.

初声字ㄅ, ㄆ, ㄇ, ㄏ, ㄏ, ㄏ, ㄏ, 中声字ㄊ, ㄊ, 一は縦棒の中声字の前で形が少し変わる. ㄅ, ㄆは縦の棒が左側に曲がり, その他の文字ㄇ, ㄏ, ㄏ, ㄏ, 中声字ㄊ, ㄊ, 一は横の棒の右肩が挙がる.

가갸거겨기;카캬켜켜키;개갸게겨;캐케.

나나너너니, 내내네네; 다다더더디, 대데; 라라러러리, 래레레; 타터터티,
태테; 파파퍼퍼피, 패페페.

와와외;워워워 (書く時には丁の縦の棒が左側に曲がる形もある);의.

以上のうちㄥ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㅍ, ㅊ, ㅍ, ㅊと接合する際, 横の棒が

縦棒の中声字と接触する. 나내나내니, 다대다디, 라래라리, 타태타티, 파패파피, 와왜외, 의. 위위위では丁の横の棒が次の横棒 ㅓ, ㅕ, ㅣ と接触する. なおこの場合丁の横の棒が ㅓ, ㅕ の横の棒より上にあることに注意せよ.

初声字 ㄱ, ㄴ, ㅇ は縦棒の中声字 ㅓ, ㅕ の横の棒と接触する. 머메, 버베, 어에, 허헤.

初声字 ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㄱ, ㄴ, ㅇ, ㅌ, ㅍ, ㅎ は横棒の中声字 ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ と接触する. 노나노, 도다노, 로라노, 모파노, 보봐노, 오와왜외, 토타티, 포파피, 호화회회.

初声字 ㅍ, ㅋ は縦の棒が横棒の中声字 ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ と接触する. 구귀귀구, 쿠퀴퀴구. この場合の ㅍ, ㅋ がカタカナの「フ」のようにならないように注意せよ.

初声字 ㅍ, ㅋ は縦の棒が横棒の中声字 ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ とほとんど接触する. 고과과, 코과과.

初声字(合成された子音字(濃音字))と中声字との結合に際してもほぼ上の原則が当てはまる. 까따, 깨때, 끼띠.

初声字(合成された子音字(濃音字) ㅍ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ)の 2 つの子音字の間は横棒の中声字 ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ の中間に対応する. その際 ㅍ の 中間 に 横棒 の 母音字 の 縦 の 棒 が 入 る こ と に 留 意 せ よ. 꼬파페피꼬꾸피피꾸, 또파페피또꾸피피꾸.

合成された子音字 ㅓ は, 縦の棒を 3 本まず書き, 次に横の棒を 2 本書く字体もある.

次に中声字と終声字との結合について述べる.

一般に終声字は 1 字であれ 2 字であれ音節字の下部の中央に書かれる.

終声字 ㅍ, ㅋ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㅍ; ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ は中声字 ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ の下に来る時は, 終声字の縦の棒が中声字の縦棒(合成された母音字の場合は最後の縦棒)と一直線になるようにする.

악액악억억익, 억, 알엘알얼엘월월월일, 암암암엄엄엄웜웜웜임, 앵압압압엷엷엷임, 앞앞앞, 낚, 낚엷엷, 삶, 밭넙넙.

しかし民間では終声字 ㅍ, ㅋ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㅍ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ の中間点を中声字の縦棒(合成された母音字の場合は最後の縦棒)に接触させて書く場合も多い. 上記の文字及び 낚읏, 달읏민, 밭읏.

終声字 ㅓ, ㅕ はその出だしの部分を初声字と中声字の中間に置くことが多い. 안앤안언언언완완완원원원인, 앳앳앳엷엷엷잇잇잇. 읏では終声字 ㅓ の出だしの部分を中声字 ㅓ の縦の棒の左に置く. 읏では終声字 ㅕ の出だしの部分を中声字 ㅓ の縦の棒の中間に置く.

終声字 ㅍ, ㅋ, ㄷ, ㄹ, ㅌ, ㅍ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ は中声字 ㅓ, ㅕ の縦の棒と接触する(この際終声字 ㅓ は第 1 の横の棒に接触する). 옥옥, 울울, 움움, 읏, 금, 굿, 문, 물.

ハングル専用文, ハングル漢字混用文とも本来は縦書きされたが, 南北朝鮮とも公用文は横書きされ, 民間でも北朝鮮では全文横書きであり, 韓国でも 1970 年代頃からは新聞に至るまで横書きが行われている。

漢字系の文字のように楷書, 行書, 草書, 隸書等いろいろな書体がある。李朝以来宮体といわれる主として女性に好まれた流麗な書体がある。活字の書体もさまざまなものが開発されている。南北朝鮮の分裂以後ハングルの書体も差が出来ている。

2.2.1. 音(おん)

例えば次のように日本語と朝鮮語で意味も発音もよく似た単語, 及び意味は違うが発音の異なる単語の発音を比較してみる。以下に日本語と朝鮮語の音(おん)を [] の中に記号で示すが, この記号は大雑把なものを伝えるに過ぎない。以下に音は「おん」と読むものとする。

1. 日本語「さんぽ(散歩)」[sampo]: 朝鮮語“산보(散歩)”[san²po]/[sam²po], 2. 日本語「パン」[pan]: 朝鮮語“빵”<パン>[²paŋ],
3. 日本語「インド(印度)」[indo]: 朝鮮語“인도(印度)”[indo],
4. 日本語「かな」[kanna]: 朝鮮語“갔다”<行ったか>[kanna],
5. 日本語「しも(下)」[fimo]: 朝鮮語“시모(媳母)”<姑>[fimo],
6. 日本語「はな(鼻, 花)」[hana]: 朝鮮語“하나”<1 つ>[hana].

これらは発音は互によく似ているが, 細かく観察すると, 微妙に違う。3. 以降は特に発音が似ているが, 母音の [o] は朝鮮語の方が日本語よりも唇が狭い (1, 3, 5)。日本語の [p] も [k] も (1, 2, 4) 気音と呼ばれる息の漏れがあるのに, 朝鮮語の [²p] も [k] も (1, 2, 4) それがない代わりに, [²p] (1, 2) の場合は日本語とは異なる独特のつまるような感じがある。さらに日本語の「ン」([m] (1), [N] (2), [n] (3, 4)) は朝鮮語の [m] (1), [n] (1,3,4), [ŋ] (2) よりもちょっと長い。また日本語では [m], [N], [n] は皆同じ音だと意識されるのに, 朝鮮語の [m], [n], [ŋ] は皆異なる音と意識されている。同じように日本語の [p], [k] は同じ無声音に属するが, 朝鮮語の [k] は平音, [²p] は濃音という部類に入るというように微妙に違う。他に例えば 6 のような単語の発音を比較しても, 微妙にどこかが違うはずである。

どの異なった言語の間でも音は多かれ少なかれ違うものであり, だから日本語の上手な外国人でもどこか音が日本人のものとは違うものだが, 勿論日本語と朝鮮語の間もそういう関係は同じである。われわれは朝鮮語を眺める時に常に日本人及び大部分の在日朝鮮人の母語たる日本語と比較しなければならない。以下にこのように微妙に異なる点を問題にしつつも, とても似ている要素は, 差しさわりのない限りにおいて, 同じものとして扱うことにする。

さらに朝鮮語の単語の綴りを見ると, 濃音 [²p] が濃音字 ㅃ (2) だけでなく平音字 ㅍ (1) にも対応していること, 濃音字 ㅃ が鼻音 [n] に対応していること, さらに鼻音の終声字 ㄴ が [n] だけでなく [m] にも対応していることにより, 文字と音が一致していないことを示している。朝鮮語はこのように文字と音との不一致の甚だしい言語であ

る。

仮に日本語と朝鮮語の微細な点を問題としないとしても、2つの言語の音の間にはかなり本質的な違いがあることに気づく。

日本語では「か(蚊)」[ka] と「が(蛾)」[ga] とでは音も意味も違う単語であり、誰でもこれを区別するが、朝鮮人はこれの聞き取りが難しく、大抵の人は同じ音に聞こえてしまう。つまり日本語の [k], [g] の区別が朝鮮語にないことになる。他方朝鮮語 “달” <月>[tal]: “탈” <仮面>[tʰal]: “딸” <娘>[ʔtal] の意味の違いは [t], [tʰ], [ʔ] の違いにあると言ってもよいが、これらは日本人にはみな同じように聞こえてしまう。

ここで日本語では [k]:[g] の違い(すなわち無声音と有声音との違い)が意味の違いを引き起こすのに奉仕し、朝鮮語では [t], [tʰ], [ʔ] の違い(すなわち無気音 / 有気音 / 喉頭化音)が意味の違いを引き起こすことを知る。それにも拘わらず[k]:[g] の違いは普通の朝鮮人には難しく、[t], [tʰ], [ʔ] の違いは普通の日本人には難しい。また朝鮮語にも“달” <月>[tal]: “이달” <今月>[idal] のように無声音 [t] と有声音 [d] があるが、日本語「たく(炊く)」[taku]: 「だく(抱く)」[daku] のように、意味を区別することがなく([tal] も [dal] も意味は同じく「月」)、しかも普通の朝鮮人にとって両者はまったく同じ音として聞こえる。ついでながら日本語の [t], [d] は語頭でも語中でも現われるのに(「はた(旗)」[hata]: 「はだ(肌)」[hada]), 朝鮮語では語頭に [t], 語中に [d] が現われる。だから普通の朝鮮人は日本語の「だく(抱く)」を「たく(炊く)」のように、日本語「はた(旗)」を「はだ(肌)」のように発音してしまう(ついでながら [t] と [d] は日本語と朝鮮語で微妙に異なる)。朝鮮語 “달” <月>[tal]: “탈” <仮面>[tʰal]: “딸” <娘>[ʔtal] を日本人が日本語式に「タル」と発音すると、朝鮮人にはなんのことだか分からない。逆に日本語「はた(旗)」を朝鮮人が [hatʰa] あるいは [haʔta] と発音すると、日本人の耳にはちょっとおかしく感じられるが、「はた(旗)」と理解される。同じように朝鮮語 “달” <月>[tal] を日本人が「ダル」と発音すると、朝鮮人の耳にはちょっとおかしいが、“달” <月>と了解してくれる。

また上の例で挙げたが、日本語では音節末の [m], [n], [ŋ] は皆同じ音だと意識されるのに、朝鮮語では [m], [n], [ŋ] は皆異なる音と意識されている(なお日本語の [ŋ] を朝鮮人は [ŋ] と理解する)。このことは日本語の音節末の [m], [n], [ŋ] には意味を識別する機能がないが、朝鮮語では似た音 [m], [n], [ŋ] は意味を識別することを意味する。日本語では例えば「パン」[pan], 「パンも」[pammo], 「パンと」[panto], 「パンが」[panga] で [ŋ] [m], [n], [ŋ] は意味の違いを引き起こさないのに、朝鮮語 “밤” [pam] <夜, 栗>: “반(半)” [pan] <半分> “방(房)” [paŋ] <部屋>ではみな意味が違う。この場合日本人はある状況では[pam], [pan], [paŋ]と発音しているのに、自分ではその発音上の違いを認識していないのである。

意味の識別に奉仕する音を「音素」と名づけ、意味の識別に奉仕しない音(これを音声ということがある)から区別する。音声は [], 音素は / / で示すことに普通になっている。上げた例では日本語の音素は /k/ : /g/ (カ, ガの子音), /t/ : /d/ (タ, ダの子音), /n/ (ン) であり、朝鮮語の音素は /t/, /tʰ/, /ʔ/ (ㄷ, ㅌ, ㅌ); /m/, /n/, /ŋ/

(ロ, ㄴ, ㅇ) である. 日本語の音素 /N/(ン)は [N], [m], [n], [ŋ]という音(音声)が現われ, 朝鮮語の音素 /t/(ㄷ)は [t], [d] という音(音声)が現われることになる. このように1つの音素に2つ以上の音(音声)が対応する場合に, 音(音声)を異音と呼ぶ. 多くの場合音素は1つの文字を持つ. 多くの場合その言語の話し手は1つの音素(=2つ以上の異音)を同じ音と意識している. 朝鮮語でも音素と音(音声), 異音との関係を知る必要がある.

音(音声)を研究する学問を音声学, 音素を研究する学問を音韻論(音素論)という. 両者を併せて音論という.

2.2.2. 朝鮮語の音素と異音

以下に朝鮮語の音素と異音の関係を, 必要に応じて日本語などと比較しながら, 述べる.

2.2.2.1. 子音

以下の表を参照されたい.

ここでは術語は朝鮮語の伝統的なものに従っている. 術語というものは便利であって正確でさえあれば, 必ずしも言語学のそれを用いなくてもよい.

これらの伝統的な術語(丸括弧で示す)を現代の音声学の術語と対照するならば, 次の通りである(前項がここでの術語, 後項が他の術語). (平音)―無気音, (濃音)―喉頭化音, (激音)―有気音, (鼻音)―鼻音, 流音―[l] は側面音 / [r] は弾音; 両唇音―(唇音), (歯音)―ㄷの系列とㄴの系列は歯茎音, ㅌの系列は後部歯茎音, 軟口蓋音―(牙音), 声門音―(喉音); (初声)―音節の頭 (終声)―音節末; 音―音 / 音声, 有―有声音, 無―無声音.

	平 音					濃 音		激 音		鼻 音			流 音								
	音 素	異 音				音 素	音 初 声 無	音 素 初 声 無	音 初 声 無	音 素 初 声 無	異 音		音 素 初 声 無	異 音							
		初 声		終 声							初 声	終 声		初 声	終 声						
		語 頭	語 中	ㄴ の 前	其 他																
		無	有	無	有																
両唇音	ㅍ	p	b	p	p ^h	ㅂ	² p	ㅃ	p ^h	ㅁ	m										
歯音	ㄷ	t	d	s	t	ㄸ	² t	ㅌ	t ^h	ㄴ	n	ㄹ ¹	r, l ²	l, r ³							
	ㅌ	tʃ	dʒ	—	—	ㄹ	² tʃ	ㅍ	tʃ ^h	—	—	—	—	—	—						
	ㄴ	s / ʃ ¹	—	—	—	ㄴ	² s / ² ʃ ¹	—	—	—	—	—	—	—	—						
軟口蓋音	ㄱ	k	g	k	k ^h	ㅋ	² k	ㆁ	k ^h	ㅇ	—	ŋ	—	—	—						
声門音	—	—	—	—	—	—	—	ㅎ	h	—	—	—	—	—	—						

[注]¹ 母音/i (ㅣ)/, /wi (ㅟ)/の前で.² /ㄷ/の後ろで.³ /ㅎ/の前で.

平音のうちㄹ系統, ㄷ系統, ㅌ系統は破裂音(閉鎖音), ㅃ系統は摩擦音, ㅆ系統は破擦音と言われる.

流音のうち側面音 [l] は舌をかなり奥に引いて作られる(そり舌音 [ɭ]). 時に口蓋化が甚だしく, 日本人の耳に「ル」よりも「リ」に近く聞こえることがある([ɭ]). 朝鮮独立前に朝鮮にいた日本人がこの音をしばしば「リ」と聞いている(「ポリスリ」보리슬 [porisuɭ] <ビール>). 弾音 [r] は日本語の語中のラ行の子音と似ている([r]). しばしば朝鮮人は, 自分たちは日本人とは違って英語の [r] と [l] とを区別すると言うが, 朝鮮語ではそれらは異音であるから, 普通の朝鮮人にはそれらの区別はつかない. 朝鮮人は外来語で [l] をしばしば /rr/ [ll] で表記する. 콜레라 /korrera/ [kʰollera] (cholera) <コレラ>.

後部歯茎音 [ʃ], [tʃ], [dʒ] は日本語の「シ」「チ」「ジ / ズ」の子音と似ている([ɕ], [tɕ], [dʒ]).

この表から朝鮮語の音素の特徴が読み取れる. まず終声すなわち音節末に現われる音素は7つしかない(口音=平音 /ㅏ/, /ㅓ/, /ㅗ/; 鼻音 /ㅗ/, /ㅓ/, /ㅗ/; 流音/ㄹ/). 終声の口音は普通はいわゆる内破音(発音器官が閉じられたまま)であるが, 摩擦音の前では外破音(発音器官が閉じられてからまた開く)となる. 日本人の耳には内破音は普通ほとんど聞き取れない.

7つのうち鼻音 /ㅗ/ だけは終声にしか現われず, 残りの6つは初声にも現われ得る. それ以外の平音 /ㅓ/, /ㅗ/, 濃音, 激音は初声にのみ現われる. このことは朝鮮語で極めて重要なことである. 整理すると次のようになる. 太字のものは初声にのみ現われるもの, 及び終声にのみ現われるものである.

初声に現われるもの: 平音(/ㅏ/, /ㅓ/, /ㅗ/, /ㅗ/, /ㅗ/),
 濃音(/ㅓ/, /ㅓ/, /ㅓ/, /ㅓ/, /ㅗ/),
 激音(/ㅓ/, /ㅓ/, /ㅓ/, /ㅓ/, /ㅓ/),
 鼻音(/ㅗ/, /ㅓ/),
 流音(/ㄹ/).

終声に現われるもの: 平音(/ㅏ/, /ㅓ/, /ㅗ/),
 鼻音(/ㅗ/, /ㅓ/, /ㅗ/),
 流音(/ㄹ/).

これらのうち本来の朝鮮語では語頭に /ㅓ/ が現われることはない. 梅田博之氏は /ㅗ/ も初声に現われるとしている. 朝鮮語の子音の総数は19個である.

ここで音の記号としては国際音声学協会(英 The International Phonetic Association, 仏 L' Association Phonétique Internationale)の記号(日本の英語等の教育で用いるもの. 普通 IPA と略称)を用いるが, これとても個人差が大きい. 例えば濃音 [p], [t], [tʃ], [s] / [ʃ], [k] は梅田博之氏は [p'], [t'], [tʃ'], [s'] /

[ɸ'], [k']とするし, 激音 [pʰ], [tʰ], [tɕʰ], [kʰ] を [p'ʰ][t'ʰ][tɕ'ʰ][k'ʰ] とし, 終声の [p], [t], [k] は [pʰ], [tʰ], [kʰ] あるいは [p], [t], [k] とする. また声門音 [h] は有声音に挟まれた時の有声化した音を表すために [ɦ] を用いることがある. いずれにせよここでも便利さを考慮して, ある程度 of 了解さえ得られれば, 記号はなるべく簡単なものがよい.

音素の記号としてここでハングルを用いたのはその方が便利だからである. 音素記号は, 音の記号とは異なり, 決められた権威あるものではなく, 学者の数だけある. その点ハングルは, 基本的な読み型さえ分かればだれでもそれで正確に音素を表記できるから, 便利である. 朝鮮の辞典が発音をハングルで記している所以である. 参考までにここにハングルと梅田博之氏の音素記号の対照を示す. ㅁ /b/, ㅂ /β/, ㅅ /p/, ㅈ /m/; ㄷ /d/, ㅌ /δ/, ㅊ /t/, ㄴ /n/, ㄹ /r/; ㅇ /ɕ/, ㅍ /ɟ/, ㅑ /c/; ㅓ /s/, ㅕ /s/; ㅗ /g/, ㅛ /γ/, ㅋ /k/, ㆁ /ŋ/; ㅎ /h/. ㄹ は /r/ ではなく /l/ を用いる韓国人も多いが, どちらでもよい. S. E. Martin は次のような記号を用いるが, これは音素をさらに component に割ったものである. ㅁ /p /, ㅂ /pq/, ㅅ /ph/, ㅈ /m/; ㄷ /t/, ㅌ /tq/, ㅊ /th/, ㄴ /n/, ㄹ /l/; ㅇ /c/, ㅑ /cq/, ㅓ /ch/; ㅕ /s/, ㅕ /sq/; ㅗ /k/, ㅛ /kq/, ㅋ /kh/, ㆁ /ng/; ㅎ /h/.

/스/ は朝鮮の多くの地域で後部歯茎音 [tʃ] だが, 平安道其の他では歯茎音 [ts] である. これは中期朝鮮語の音が現在も残っているものである. ソウルの特に女性の発音では /스/ は日本人の耳に「ツ」の子音のように聞こえることがあるが, それは真似しない方がよい.

2.2.2.2. 母音

単母音(短母音): ㅣ [i], ㅓ [e], ㅕ [ɛ], ㅗ [a], ㅛ [ɔ], ㅜ [o], ㅠ [u], ㅡ [ɨ], ㅡ [w].

長母音: ㅗ [i:], ㅓ [e:], ㅕ [ɛ:], ㅗ [a:], ㅛ [ɔ:], [ɤ:] ㅜ [o:], ㅗ [i:], ㅛ [u:], ㅛ [w:].

二重母音: ㅓ [wi] (短母音), ㅓ [wi:] (長母音).

単母音は二重母音に対立する概念であり, 短母音は長母音に対立する概念である. 現代朝鮮語では単母音は事実上短母音でもある.

長母音は日本語の長母音ほど長くない. 長母音の音素表記として日本人の中には同じ母音字のダブリで示す者がいるが(한글 /haangug/<韓国>), それが日本語と同じように 2 モーラと取られる恐れがあるから, 好ましくない.

母音は次のように規定できる.

平唇前舌狭母音	ㅣ [i]	平唇中舌狭母音	ㅡ [w]	円唇後舌狭母音	ㅠ [u]
平唇前舌半狭母音	ㅓ [e]			円唇後舌半狭母音	ㅜ [o]
平唇前舌半広母音	ㅕ [ɛ]			平唇後舌半広母音	ㅛ [ɔ]

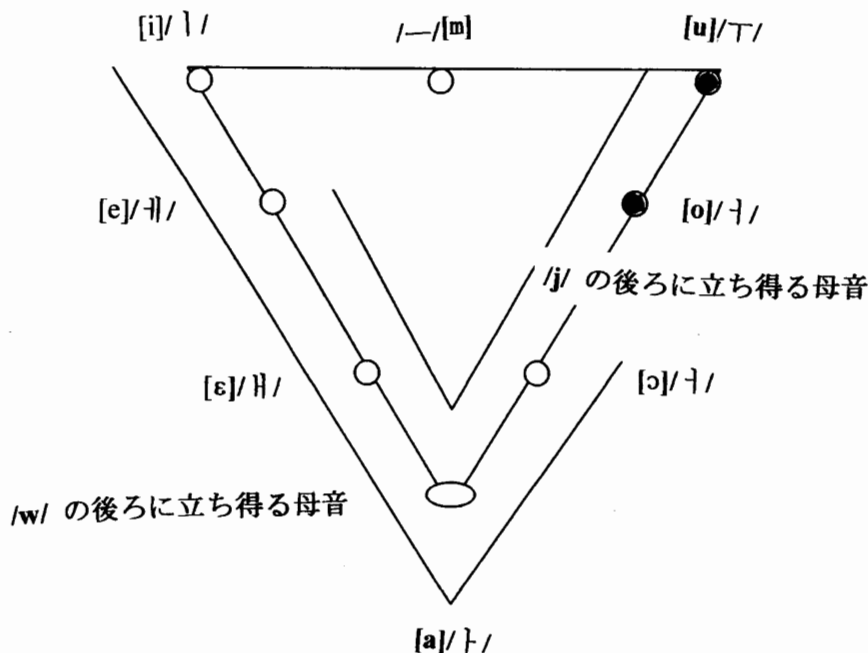
平唇中舌広母音 ㅏ[a]

多くの韓国の学者はㅏ[w] を /i/ と表記するが、それでもかまわない。
 現在ソウルその他広い地域で ㅑ[e]とㅓ[ε] の区別がほぼなくなっている。
 実際にはもはや7母音しか存在しないといってよい。ㅑ[e]とㅓ[ε] の表記上の
 間違いの多いことはそのことを物語っている。

[j] の後ろに立ち得る母音: ㅑ[je], ㅓ[jε], ㅑ[ja], ㅓ[jo], ㅓ[ju], ㅓ[ju]. [j] は
 [i] とは結合しない。

[w] の後ろに立ち得る母音: ㅑ[we], ㅓ[wε], ㅑ[wa], ㅓ[wo], ㅓ[wi] / [ɥi]. [w] は
 円唇母音とは結合しない。

[j], [w]+母音を二重母音(上昇的二重母音)と呼ぶ人が韓国に多いが、その考え
 は否定出来ない。ㅑ[wɪ] も上昇的だから、現代朝鮮語には下降的二重母音(英語の
 [ei], [ai], [ɔi], [ui]; [au], [ou] 等)はない。中期朝鮮語にあった下降的二重母音は単
 母音化した(ㅓ[ai]>[ε], ㅑ[ɔi]>[e])。



地域によっては ㅑ[y] (円唇前舌狭母音), ㅓ[ø] (円唇前舌半狭母音)がある。多くの
 の地域ではこれらは上昇的二重母音に変化した。ㅑ[ui]>[y]>[wi] / [ɥi], ㅓ[oi]>[ø]
 >[we]. 結果として現在円唇母音は ㅑ[u] と ㅓ[o] の2種類だけである(上の表で
 黒丸のものだけ)。さらに /e/ と /ε/ の区別がなくなったためにㅑ, ㅓ, ㅓの区別が
 事実上なくなってしまい、この点についての書き誤りが多い。例: ㄹ다<ㄹ다<よろ
 しい>の誤り。

現在ソウルでは長母音は70歳代以上の世代で、原則として第1音節にのみ存在す

る, 北朝鮮では長母音はすでに認めていない. 韓国では長母音を一応正音法で認めているが, ほとんどの地域, 世代でもはや曖昧なものとなっている. 実用的には学習者は長母音を完全に無視してよい. また年長者にのみㅏの長音として [ɔ:], [ɛ:] の区別があるが, 後者は多くの場合-ㅓに合流している.

二重母音は文章語にだけあると言ってよい. 朝鮮語の話し言葉には二重母音がまったくないとも言える.

2.2.2.3. 音節

[j], [w] を便宜上半母音と呼んでおこう.

一息に発音し得る単位を音節と呼ぶ.

そうすると現代朝鮮語の音節の構造は最大限次の通りである. C: 子音(初声). S: 半母音, V: 母音, C': 子音(終声).

V 아 SV 야 CV 가 CSV 가
VC' 악 SVC' 약 CVC' 각 CSVC' 각

半切表は V 아, SV 야, CV 가, CSV 가の大部分を含むものといえる.

梅田博之氏は V 아, SV 야, VC' 악, SVC' 약の場合に初声の /o/ /' / を子音音素として認める. 結果として音節構造は半減して, CS 가, CSV 가, CVC' 각, CSVC' 각だけとなる. 多くの学者はこの説を認めない. なおついでながら子音音素 /' / 説(故服部四郎博士による)はハングルの子音字「ㅇ」からヒントを得たものらしい. 故服部四郎博士は /' / に積極的に子音としての性格を求めたが, 訓民正音作成者たちはこれをゼロと見なしていた可能性がある. ゼロに記号を与えた例として極めて興味深い.

ㅅ[tʃ], ㅆ[ʰtʃ], ㅈ[tʃʰ] は後ろに /j/ を従えることはない(ただし平安道方言では ㅅ[ts], ㅆ[ʰts], ㅈ[tsʰ] は後ろに /j/ を従えて[tʃ], [ʰtʃ], [tʃʰ] となる). ㅅ[s], ㅆ[ʰs] は /i/ の前で, あるいは後ろに /j/ を従えて [ʃ], [ʰʃ] となる. 次のものに注意: ㅅ [ʃwi], ㅆ [ʃwe]. ただし ㅆ [swe].

[ni], [nj] が語頭に立つことはない. ㄷ/djo/, ㅌ/tjo/, ㅍ/δ jo/, ㅅ/sjo/ という音節以外に /dj/, /tj/, /δ j/, /sj/ という結合は存在しない. ただし外来語にはそれらは存在し得る(2.1.5. 半切表参照).

普通子音の後ろに [je] が来ることはない.

ソウルで二重母音 ㅟ[wi] が子音の後ろに来ることはない. ただし方言ではㅟ[nʰi] /ni/ ([n] に口蓋化がある), ㅟ[ni] /nui/ ([n] に口蓋化がない) を区別するものがある.

자, 자*	저, 저	조, 조*	주, 주*	즈	지
tʃa/dʒa	tʃɔ/dʒɔ	tʃo/dʒo	tʃu/dʒu	tʃw/dʒw	tʃi/dʒi
차, 차*	처, 처	초, 초*	추, 추*	츠	치
tʃʰa	tʃʰɔ	tʃʰo	tʃʰu	tʃʰw	tʃʰi

ㅅ	ㅅ ^{**}	ㅆ	ㅆ	소	소 ^{**}	수	수 ^{**}	스	시
sa	ʃa	so	ʃo	so	ʃo	su	ʃu	sw	ʃi

[注]* 現在の韓国の正書法では事実上まったくあられない。

** 現在の正書法では外来語にしかあられない。

上で同じ発音で異なる字があると述べたが, 平安道出身者でない朝鮮人でそれらは異なる音であり, 自分は区別できると主張する者が出てくる. そのような人は確かにその場では区別してみせることもあるが, 大抵は意識しなければ両者の区別はついていないのである. 日本人でも例えば「じ」「ぢ」「ず」「づ」の区別が付けられると言いつ張る人がいるのと同じである. このように文字が異なると必ず音も異なるという錯覚が生じやすい.

今 C は 18 個, S は 2 個, V は 8 個, C' は 7 個だから, 論理的にあり得る音節数は 2,016 個だが, 事実上存在し得ない音素の結合をここから引かなければならない. 朝鮮語の音節の数は勿論日本語や中国語(普通話)よりも多いが, 音節構造が単純なことから, 特に多いわけではない.

なお標準語では終声は子音 1 個しかないが, 朝鮮人は /ㄷ/ , /ㄷ/ , /ㄷ/ は終声として発音できるようである. 例えば北朝鮮 “말스” (韓国 “말크스”) <マルクス> は [mal²sw] と読まれるものらしい. 얇다 [jɔl²ta] / [jɔl²ta] <薄い>. ほとんど音素表記に徹していた朝鮮総督府の正書法(終声字は普通ㅁ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅇ の 7 字)でも ㄷ, ㄷ, ㄷ という終声字が認められていたのはこのことと関係あるかも知れない.

2.2.2.4.1. 終声と初声の結合 (ゆっくりした発音)

朝鮮語の 2 つの音節の境界における終声と初声の結合には, 以上の表に見られるように, いろいろな規則がある.

終 初	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ	ㄷ
ㅁ	—	p ² p	p ² p ^h	—	—	p ² t	p ² t ^h	—	—
ㄷ	—	t ² p	t ² p ^h	—	—	t ² t	t ² t ^h	—	—
ㅂ	—	k ² p	k ² p ^h	—	—	k ² t	k ² t ^h	—	—
ㅇ	mb	m ² p	mp ^h	mm	md	m ² t	mt ^h	mn	(mr)
ㄴ	nb	n ² p	np ^h	nm	nd	n ² t	nt ^h	nn	(nr)
ㅇ	ɳb	ɳ ² p	ɳp ^h	ɳm	ɳd	ɳ ² t	ɳt ^h	ɳn	(ɳr)
ㄹ	lb	l ² p	lp ^h	lm	ld	l ² t	lt ^h	—	ll
終 初	ㅅ	ㅅ	ㅅ	ㅅ	ㅅ	ㅅ	ㅅ	ㅅ	ㅅ
ㅁ	—	p ² tʃ	p ² tʃ ^h	—	p ² s	—	p ² k	p ² k ^h	—
ㄷ	—	t ² tʃ	t ² tʃ ^h	—	s ² s	—	t ² k	t ² k ^h	—

ㄱ	—	k^2t	kt^h	—	k^2s	—	k^2k	k^h	—
ㅋ	md3	m^2t	mt^h	ms	m^2s	mg	m^2k	mk^h	mh^*
ㄴ	nd3	n^2t	nt^h	ns	n^2s	ng	n^2k	nk^h	nh^*
ㄷ	ɲd3	η^2t	ηt^h	ɲs	η^2s	ɲg	η^2k	ηk^h	ηh^*
ㄹ	ld3	l^2t	lt^h	ls	l^2s	lg	l^2k	lk^h	rh^*

[注]* [h] は有声音 [ɦ] である. 速い会話ではしばしば脱落する. ()内は北朝鮮にのみ存在する結合. [s] は [i], [j] との結合に際し [ʃ] に変わる.

音節の境界は 2 つの子音の間にあるが, 鼻音+h, 流音+h の場合だけは速い発音で鼻音や流音の前に前に境界が置かれることがある. 담 화 (談話) <談話> [ta-mɦwa]/[ta-mwa] /담 화/, 은행 (銀行) <銀行> [w-nɦɛŋ]/[w-nɛŋ] /은행/, 무궁 화 (無窮花) <むくげ> [mugu-ŋɦwa]/[mugu-ŋwa] 무궁 화, 결 핵 (結核) <結核> [kjo-rɦɛ^k]/[kjo-rɛ^k] 결 핵

現代朝鮮語には次の子音の結合は許容されない. →印はそのような場合に行われる変化. (a) 前項の音が後項の音に影響を及ぼす場合 (1, 3, 4 i, iii, 5, 6) と (b) 後項の音が前項の音に影響を及ぼす場合 (2, 3, 4 ii) とがあり, (a) を順行同化, (b) を逆行同化と呼ぶ. 朝鮮語は順行同化の多い言語である. (3) のように同時に (a) と (b) が起こるものを (c) 相互同化とも呼ぶ (1.2.2.5. 参照).

- (1) 平音(口音)+平音 → 平音(口音)+濃音
- (2) 平音(口音)+鼻音 → 鼻音+鼻音
- (3) 平音(口音)+流音(/ㄹ/) → 鼻音+/ㄹ/
- (4) i 鼻音(/ㄹ/ 以外)+流音* → 鼻音+/ㄹ/
- ii 鼻音/ㄹ/+流音 → 流音+流音
- iii 鼻音/ㄹ/+流音 → 鼻音/ㄹ/+鼻音/ㄹ/
- (5) 流音+鼻音/ㄹ/ → 流音+流音
- (6) 平音(口音)+声門音 → 平音(口音)+激音

[注] *ただし北朝鮮の正音法ではこの結合は許容される.

従って次のことが言える.

- (i) 鼻音 /ㄹ/ と流音 /ㄹ/ とは隣接することがない. ただし北朝鮮の正音法では /ㄹ/+ㄹ/ は許容される(しかし /ㄹ/+ㄹ/ は許容されない).
- (ii) 語中で流音 /ㄹ/ が立ち得るのは鼻音 /ㄹ/ 以外のすべての子音の前(終声の場合)と母音の間(初声の場合)だけである.
- (iii) 語中で終声の鼻音は鼻音(初声)の前にしか立たない.
- (iv) 語中で初声の平音が立ち得るのは有声音(母音, 鼻音, 流音)の後ろだけである.

(v) 語中で声門音が立ち得るのは有声音(母音, 鼻音, 流音)の後ろだけである. 話し言葉ではそれは語中にまったく現われないとさえ言い得る.

2.2.2.4.2. 終声と初声の結合(速い発音)

終声の脱落 / 交替が生じ得る.

(1) /ㄷ / の脱落: 있 습니다 <あります> / 일 습니다 / [isʰsumnida] → /이 습니다 / [iʰsumnida], 있 고 <あつて> / 일 고 / [iʰko] → /이 고 / [iʰko].

(2) /ㅍ / + /ㅂ, ㅅ /, /ㄴ / + /ㄴ, ㄹ / における /ㅍ /, /ㄴ / の脱落:

십 팔 (十八) <十八> / 십 팔 / [ʃipʰal] → /시 팔 / [ʃipʰal], 죽 고 <死んで> / 죽 고 / [tʃuʰko] → /주 고 / [tʃuʰko].

(3) 唇音 + 軟口蓋音での唇音の軟口蓋音化: 잠 관, [北]잠 관 <しばらく> / 잠 관 / [tʃamʰkan] → /장 관 / [tʃaŋʰkan], 입 고 <着て> / 입 고 / [iʰko] → /익 고 / [ikʰko] → /이 고 / [iʰko]. 逆行同化の例である(1.2.2.4.1. 参照)

(4) /ㄴ / + 唇音あるいは軟口蓋音の前における /ㄴ / の唇音化: 신 문 (新聞) <新聞> / 신 문 / [ʃinmun] → /심 문 / [ʃimmun]. 한 국 (韓國) <韓国> / 한 국 / [hanguʰ] → 향 국 / [hanguʰ]. これまた逆行同化の例である(1.2.2.4.1. 参照).

(5) 初声の /ㅎ / は話し言葉で語中で脱落することがあり得る: 은 행 (銀行) <銀行> / 은 행 / [unhɛŋ] → /으 냥 / [unɛŋ].

(1), (2), (4) の結果として話し言葉では次の諸単語は事実上同音異義語となる. 있 고 <いて> / id γ o / [iʰko], 익 고 <熟して> / ig γ o / [ikʰko], 입 고 <着て> / ib γ o / [ipʰko] → / i γ o / [iʰko].

上記の (1) のようにあらゆる濃音と激音の前で /ㄷ / の脱落が起こり得る. このことは現代朝鮮語において「母音 + 濃音あるいは激音」を「母音 + /ㄷ / + 濃音あるいは激音」のように発音しても, 多くの朝鮮人が違和感を持たないことを意味する. 例: 이쁘 다 <綺麗だ> / 이쁘 다 / ~ / 일쁘 다 /, 아프 다 <痛い> / 아프 다 / ~ / 알쁘 다 /. また(2)のように /ㅍ / + /ㅂ, ㅅ /, /ㄴ / + /ㄴ, ㄹ / における /ㅍ /, /ㄴ / の脱落は, 「母音 + /ㅂ, ㅅ /, 「母音 + /ㄴ, ㄹ /」を「母音 + /ㅍ / + /ㅂ, ㅅ /, 「母音 + /ㄴ / + /ㄴ, ㄹ /」と発音しても多くの朝鮮人が違和感を持たないことを意味する. 結果として次の例を参照. 例: 이쁘 다 <綺麗だ> / 이쁘 다 / ~ / 일쁘 다 / ~ / 입쁘 다 /, 아프 다 <痛い> / 아프 다 / ~ / 알쁘 다 / ~ / 압쁘 다 /. 朝鮮独立以前の表記잇쁘다, 아프다 ~ 앓쁘다 ~ 압쁘다を参照せよ.

0.3. 日本語と朝鮮語の音の比較

一応朝鮮語の音素を理解したところで, それを日本語その他と簡単に比較してみよう.

日本語の音素は次のとおりである。

(1) 子音 (i) [音節の頭]

	破裂音 (閉鎖音)		摩擦音	鼻音	弾音	半母音
	無声音	有声音	無声音	有声音	有声音	有声音
両唇音	p	b	f*	m		w
歯茎音	t	d		n	r	y
	c	z	s			
軟口蓋音	k	g	h	(ŋ) **		

[注]* 外来語にのみ現われる。 ** この音素を持つ個人がいる。

歯茎音音素 /t/, /d/, /c/, /z/, /s/ について述べる(故服部四郎博士による)。

/ta/ [ta] タ /ti/ [ti] ティ /tu/ [tu] トウ /te/ [te] テ /to/ [to] ト
 /da/ [da] ダ /di/ [di] ディ /du/ [du] ドウ /de/ [de] デ /do/ [do] ド
 /ca/ [tsa] ツァ /ci/ [tʃi] チ /cu/ [tsu] ツ /ce/ [tse] ツェ /co/ [tso] ツォ
 /za/ [dʒa]/[za] * ザ /zi/ [dʒi]/[zi] ジ , ギ /zu/ [dʒu]/[zu] ズ , ズ /ze/ [dʒe]/[ze] ゼ
 /zo/ [dʒo]/[zo] ゾ

/sa/ [sa] サ /si/ [ʃi] シ /su/ [su] ス /se/ [se] セ /so/ [so] ソ
 /cya/ [tʃa] チャ /cyu/ [tʃu] チュ /cyo/ [tʃo] チョ
 /zya/ [dʒa]/[ʒa] * ジャ, ギャ /zyu/ [dʒu]/[ʒu] ジュ, ギュ /zyo/ [dʒo]/[ʒo] ジョ, ギョ
 /sya/ [ʃa] シャ /syu/ [ʃu] シュ /syo/ [ʃo] ショ

[注]* 概して前者が語頭, 後者が語中に現われる。

このことにより現代日本語の子音の体系は五十音図を上のように修正したものとなる。これは極めて重要なことである。

上の表で分かるように, 縦の系列は日本語も朝鮮語もよく似ている。

日本語の破裂音は無声音と有声音との対立からなる。この点では基本的に英語と似ている。しかし朝鮮語は平音, 激音, 濃音との対立からなるところが根本的な違いである。

激音は中国語の有気音と似ている。平音 + [h] (このようなもれる息を気音という) のような感じである。厳密に観察すると, それは気音が中国語の場合よりも弱いように感じられる。しかし日本人は常に気音を強く出すように努力した方がよい。なぜならば, 語学が本国人のことばの模倣であるとはいえ, 常にそうであるが, 自分が聞こえたように発した音が必ずしも聞こえた音とイコールではないことがあるからである。

(発音には自信のある著名な言語学者が朝鮮語の母音“ㅏ”を発音したつもりが、朝鮮人に“ㅏ”だと分からなかったことがある)。

濃音は喉を緊張させながら(日本語の促音(つまる音)のように)平音を発音する。朝鮮語“아까”<さっき>は日本人には「アッカ」と聞こえる。これも耳に聞こえた以上に喉に緊張を与えた方がよい。この音は非常に特殊な音で、これと似た音は世界の言語にもあまり例がなく、実はまだよく分かっていない。濃音には気音がない。

中国語は無気音と有気音の対立からなり、一見それは朝鮮語の平音と激音の対立に似ているように見える。実際に朝鮮語の平音に似て、中国語の無気音は語頭では無声音、語中では有声音のように聞こえることがしばしばである。それにもかかわらず多くの朝鮮人は中国語の無気音を濃音で聞く。中国語「北京」Běijīng — ㅁ 이 썩 [ˈpeɪˈtʃɪŋ] (ペイチン) — 「ペイチン / ペイジン」。

朝鮮語を学ぶ日本人と日本語を学ぶ朝鮮人との間で、日本人にとって有利なのは無声音と有声音との違いだけであり(この点は朝鮮人には苦手)、平音 / 激音 / 濃音の違いは最初はまず絶望的である(無気音と有気音の違いはどの朝鮮人も得意である)。

実を言うと一番難しい子音は平音である。日本語の無声音は特に関東では若干の気音を伴う。このことを多くの朝鮮人は敏感に聞き取り、日本語の無声音は朝鮮語の平音と激音の中間だと言う。日本人が朝鮮語を発音する時は、激音の気音にもっと注意すると同時に、平音では出来るだけ気音を除く努力をしなければならないのである。

日本人は激音も濃音も発音する際に過度に力んで、いつも気音を発しようとしてしまう。激音の場合は腹にためた気音を吐き出し(腹がへこむ)、濃音の場合は喉だけを緊張させて、決して息をもらさない努力(腹がへこまない)が必要である。

朝鮮人にとり日本語の語頭の有声音は特に難しい。語中の有声音も特に努力しないと、日本人には無声音のように聞こえてしまう。逆に努力の足りない朝鮮人は常に日本語の無声音を朝鮮語の平音のように発音するために、[paŋa] (馬鹿)、[wadaŋuʃi] (わたくし)のような発音になってしまう。

日本語の /c/, /z/, /s/ は歯茎音だが、朝鮮語(ソウル方言)の ㅈ /z/, ㅉ /tʃ/, ㅆ /c/ は後部歯茎音, ㅌ /s/, ㅍ /p/ は歯茎音だという違いがある。従って朝鮮人には日本語の「ツァ」と「チャ」の区別は無理で、両者とも [tʃa] のようになってしまう。

(2) 子音(ㄷ) [音節末]

撥音(はねる音)/ㄴ/, 促音(つまる音)/ㄷ/。

撥音は異音が子音([N], [m], [n], [ŋ]等)、鼻母音等にまたがり、数多い。それらは鼻音という共通点しかない。促音+子音は重子音で現われる(「さっき」/saŋki/ [sak·i] / [sakki])。

朝鮮人にとって日本語の撥音(はねる音)/ㄴ/も促音(つまる音)/ㄷ/も「モーラ」を

なすということが理解しにくい。ゆっくり発音すると、それらは母音 1 個分の長さを、あたかも 1 音節の如く、持つのである。撥音を日本人は単独で発音でき、どこまでも長く伸ばせる。歌を歌う時も 1 つの音符に撥音をおくことが可能である。従って日本語の「母音＋撥音」は朝鮮語の「母音＋鼻音」よりも長い。例えば日本語「しんぶんし（新聞紙）」/sinbunsi/ [ʃimbunʃi] を朝鮮語“신문지（新聞紙）”/sinmunzi/ [ʃinmundʒi] と比較すると、日本語の方は 5 モーラであるのに (/si-n-bu-n-si/), 朝鮮語の方は 3 音節である (/sin-mun-zi/)。日本人が朝鮮語の [ʃinmundʒi] を発音する際には, [ʃin] + [mun] + [dʒi] のように手で拍子をとって, 等間隔で発音してみることである。

ついでながら一見似たように見える音であってもそれらの現われる位置が異なると、それらの属する音素が異なり得るのである。日本語の音節末の [m], [n], [ŋ] が鼻音音素 /N/ に対応する(すなわちそれらは /N/ の異音)のに、それらが音節の頭にあれば、3 つの異なる音素なのである。もっとも日本語で音節の頭と音節末では厳密には [m], [n], [ŋ] は同じとは言えない(後者の方が長いし、それだけで 1 モーラを成し得る)。朝鮮語의 습니다 <あります> /일 습니다/ [isʰumnida] /id σ umnida/ — 소 <牛> /소/ [so] /so/ 参照。

促音もそれ自体で 1 モーラを成し得るから、例えば「じつと」は /zi-q-to/ のように発音するのだが、/q/ の部分は音が聞こえない。歌の場合は、「母音＋促音」に該当する 2 つの音符に「母音－母音＋/q/」のように割り振る。滝廉太郎の「春」という歌で「げに一刻も千金の」というくだりは /ge-ni-i-q-ko-ku-mo-se-N-ki-N-no/ [ge-ni-i-ik-ko-ku-mo-se-ŋ-ki-ŋ-no] となる。

日本語のようにモーラが重要な言語を「モーラを数える言語」といい、朝鮮語のように音節中心の言語を「音節を数える言語」と呼ぶ。古典ギリシャ語、サンスクリット、ペルシャ語、アラビア語などは前者で、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語などは後者である。

朝鮮語の終声のうち鼻音 (/m/, /n/, /ŋ/) を日本人は等しく撥音で聞き、口音 (/b/, /d/, /g/) を等しく促音で聞いてしまい、各々の 3 者の区別はまず不可能である。鼻音のうち /n/, /ŋ/ の区別が特に難しく、/n/ がもっとも難しい。

朝鮮語の終声 /b/, /d/, /g/; /m/, /n/, /ŋ/ の聞き取りは日本人にはまず無理で、日本人はそれらを発音する際に各々「ツプ」、「ットウ」、「ック」; 「ンム」、「ンヌ」、「ング」と発音するつもりで後半部を発音しないという努力が必要である。発音するつもりになると発音器官が自然にそのような位置になるからである。

終声のうち鼻音 (/n/, /ŋ/) は中国語(普通話)にある通りで、残りの終声 /b/, /d/, /g/; /m/ は中国語のうち福建語(台湾語)や広東語の /p/, /t/, /k/; /m/ のように発音すればほぼよい。ただ朝鮮語の終声 /b/, /d/, /g/ は、福建語(台湾語)や広東語の /p/, /t/, /k/ とは異なり、喉頭の緊張を伴うようである。

(3) 母音

(i) 短母音

平唇前舌狭母音 /i/ イ

平唇後舌狭母音 /u/ ウ

平唇前舌半狭母音 /e/ エ

円唇後舌半狭母音 /o/ オ

平唇中舌広母音 /a/ ア

母音 /u/ は, 朝鮮語の /u/ とは異なり, 唇のまるめを伴わず([ɯ] に近い), 多くの朝鮮人は日本語の /u/ を朝鮮語の /u/ と /ɯ/ の中間と感じるらしい. 朝鮮語の /u/ は英語の /u/ によく似て唇のまるめを伴う. 朝鮮語の /ɯ/ も日本語の /u/ に似ているが, 唇を狭めて横に引く努力をしたらよい.

日本人の感覚からすると, 「ウ」, 「エ」, 「オ」にそれぞれ2つずつ朝鮮語の母音があることになる. 次のように考えればよい.

「ウ」唇のまるめのあるもの(/u/)とまるめのないもの(/ɯ/).

「エ」唇の開きの狭いもの(/e/)と広いもの(/ɛ/).

「オ」唇の開きの狭いもの(唇のまるめがある)(/o/)と広いもの(唇のまるめがない)(/ɔ/).

「エ」に関しては, 朝鮮語でも区別がなくなりつつあるから, 気にしなくてもよい.

「オ」のうち /ɔ/ は, 英語のそれとは異なり, 唇のまるめがない. 発音に際して口を大きく開けると同時に舌を奥に引く努力をしたらよい.

(ii) 長母音 /ii/ イー, /ee/ エー, /aa/ アー, /oo/ オー, /uu/ ウー.

日本語の長母音は朝鮮人には難しい. 日本語の長母音は2モーラ分あるので, 朝鮮人はこれを発音するに際し思い切り長くのばした方がよい.

(iii) 二重母音 /ai/ アイ, /oi/ オイ, /ui/ ウイ; /au/ アウ. 二重母音も2モーラ分の長さである.

(4) 半母音

/y/: /i/ 以外の母音と結合し得る. ただし /ye/ は外来語にのみ現われる.

/w/: /u/ 以外の母音と結合し得る. ただし /wa / 以外は外来語にのみ現われる.

(5) 音節 V: 母音, S: 半母音, C: 子音(音節の頭), VV: 長母音,

Vi: 二重母音. N: 子音(音節末).

数字はモーラ数を表す.

V SV CV CSV; VV SVV CVV CSVV; Vi SVi CVi CSVi

/a/ /ya/ /ka/ /kya/ /aa/ /yaa/ /kaa/ /kyaa/ /ai/ /yai/ /kai/ /kyai/

1

2

2

VN SVN CVN CSVN; VVN SVVN CVVN CSVVN; ViN SViN CViN CSViN

/aŋ/ /yaŋ/ /kaŋ/ /kyaŋ/ /aɑŋ/ /yaɑŋ/ /kaɑŋ/ /kyaɑŋ/ /aiŋ/ /yaiŋ/ /kaiŋ/
/kyaiŋ/

2

3

3

次のようなものもある: /VNQ/[3 モーラ] (「ロンドンっこ(ロンドンっ子)」
/rondonQko/), /ViQ/[3 モーラ] (「せんだいっこ(仙台っ子)」/sendaiQko/).

2.2.2.5. 対立と中和

先に朝鮮語では“달” <月>[tal]: “탈” <仮面>[tʰal]: “딸” <娘>[ʔtal] の意味の違いは [t], [tʰ], [ʔ] の違い, すなわち /d/“ㄷ”, /t/“ㅌ”, /δ/“ㄸ”にあると言ったが, このことは<月>, <仮面>, <娘>という意味の対立が音素 /d/“ㄷ”, /t/“ㅌ”, /δ/“ㄸ”, すなわち平音, 激音, 濃音の対立によると言える. このように言語の単位はすべて対立の中にあるといえるが(日本語では無声音:有声音の対立がある), 朝鮮語の終声の位置には平音しか現われないから, その位置では平音, 激音, 濃音の対立がなくなることになる. このようにいくつかの項(member)の対立がなくなことを中和するという. 中和(=中立化)(neutralization)とはあっちにもつかず, こっちにもつかず, どちらでもない, どっちつかずなのだが, どれかがその代表となってあらわれるというものである. 終声では平音, 激音, 濃音の対立が中和して平音があらわれる. 例えば日本語では促音の後ろには無声音と有声音が中和して無声音があらわれた(「さつき」, 「あつた」, 「あっぱれ」, 「あつさり」等. もっとも現在この原則は外来語でくずれつつある. 「ブツダ」, 「ホットドッグ」等).

以下に朝鮮語の「中和」について述べる. []は中和の位置での代表者.

- (i) 終声での平音: 激音: 濃音[平音]. /ㅁ/:/ㅍ/:/ㅂ/[ㅁ],
/ㄷ/:/ㅌ/:/ㄸ/[ㄷ], /ㄴ/:/ㄹ/:/ㄴ/[ㄴ]. 1.2.2.1. 参照.
- (ii) 終声の歯音での3つの平音/ㄷ/:/ㄴ/:/ㄹ/[ㄷ]. 従ってこの位置では
/ㄷ/, /ㅌ/, /ㄸ/, /ㄴ/, /ㄹ/, /ㅍ/, /ㅌ/, /ㅂ/ の 8 個が中和する. 2.2.2.1. 参照.
- (iii) 鼻音の前の口音: 鼻音[鼻音]. /ㅇ/, /ㄴ/の前の /ㅁ/:/ㅇ/[ㅇ],
/ㄷ/:/ㄴ/[ㄷ], /ㄴ/:/ㅇ/[ㅇ]. /ㅇ/, /ㄴ/の前では事実上/ㅁ/, /ㅍ/, /ㅂ/, /ㅇ/ の4個, /ㄷ/, /ㅌ/, /ㄸ/, /ㄴ/, /ㄹ/, /ㅍ/,
/ㅌ/, /ㅂ/, /ㄴ/ の9個, /ㄴ/, /ㅍ/, /ㅌ/, /ㅂ/ の4個が中和する. 2.2.2.4.1.(2) 参照. (vi) 参照.
- (iv) 口音の後ろの平音: 濃音[濃音]. /ㅁ/:/ㅂ/[ㅂ], /ㄷ/:/ㄸ/
[ㄷ], /ㅌ/:/ㅂ/[ㅂ], /ㄴ/:/ㅂ/[ㅂ], /ㄴ/:/ㅂ/[ㅂ]. 2.2.2.4.1.(1) 参照.
- (v) 口音の後ろの/ㅍ/: 激音[激音]. /ㅍ/:/ㅍ/[ㅍ], /ㅍ/:/ㅍ/
[ㅍ], /ㅍ/:/ㅍ/[ㅍ]. 2.2.2.4.1.(6) 参照.
- (vi) 口音及び鼻音(/ㅇ/, /ㅇ/)の後ろの鼻音 /ㄴ/: 流音 /ㄴ/[ㄴ].

2.2.2.4.1.(3) (4 i) 参照. (iii) 参照. この場合北朝鮮の正音法では両者の中和を認めていない.

(vii) 流音 /ㄹ/ の前の鼻音 /ㄴ/: 流音 /ㄹ/[ㄹ]. 2.2.2.4.1. (4 ii) 参照. (ix) 参照.

(viii) 流音 /ㄹ/ の後ろの鼻音 /ㄴ/: 流音 /ㄹ/[ㄹ]. 2.2.2.4.1. (5) 参照.

(ix) 鼻音 /ㄴ/ の後ろの流音 /ㄹ/: 鼻音 /ㄴ/[ㄴ]. 2.2.2.4.1. (4 iii) 参照. (vii) 参照.

(x) 濃音, 激音の前の口音: ゼロ[ゼロ]. 2.2.2.4.2.(1) (2) 参照.

(vii)と(viii)は流音 /ㄹ/ と /ㄴ/ の相互の関係のものであるが, (vii)と(ix)はまったく同じ環境にありながら, 代表される音素が異なるものである. もっとも同じ環境といっても, (vii)は語幹形態素内部, (ix)は語幹+接尾辞の境界というように異なる.

さらに速い発音を考慮に入れると, 次のような中和もある.

(xi) 唇音の前の鼻音 /ㄴ/: /ㄴ/[ㄴ]. 2.2.2.4.2.(4) 参照.

(xii) 軟口蓋音の前の唇音: 歯音: 軟口蓋音[軟口蓋音]. 2.2.2.4.2.(3) 参照.

(xiii) 有声音の後ろの /ㄹ/: /ゼロ子音/[ゼロ子音]. 2.2.2.4.2.(5) 参照.

•

以上は子音の中和だが, 母音の中和として次のものがある.

(xiv) 子音の後ろの /ㄴ/: /ㄴ/[ㄴ].

(xv) 話し言葉では子音の後ろの /ㄴ/: /ㄴ/[ㄴ].

半母音 [j] の後ろには /i/ が立たず, [w] の後ろには /u/ が立たず, 両者の後ろには /w/ が立たない. S. E. Martin が“—”を /u/, “ㅜ”を /wu/ としたのは [w] の後ろで /w/ も /u/ も立たないことと関係があろうが, さりとて [j] の後ろで /w/ も /i/ も立たないことは考慮されない. こういうことを考慮すると, 朝鮮語も日本語も [j] と [w] がそれぞれ /i/ と /u/ の異音であって, [ja], [wa] 等は /ia/, /ua/ のように上昇的二重母音をなすと見た方がよいのかも知れない. 忠清道方言には /yw/ という結合がある(なおここには /ni/ [nʲi]:/nwi/ [ni] もある).

/e/ と /ɛ/ は位置に関係なく対立を失ったから (/e/ が現われる), これは中和とは言えず, /ɛ/ の消滅というべきだろう. 従ってこの際本来的な同音異義語が生ずる. /ge/ <蟹> “개”, <犬> “개” (</ge/).

朝鮮語は中和の激しい言語である. 中和には本来のものもあるし((i), (ii)), 同化によるものもある((iii)~(x)). 逆に中和を起こさない位置の方が少ないくらいである. 朝鮮語を聞き分けることを難しくしている要因のほとんどは中和が多いことによる. 朝鮮語が中和を起こしやすい言語だということは同音異義語や同音異義形を生みやすい言語だということであり, それだけコンテキストに理解を負わざるを得ないことを意味する.

中和を起こさない位置を列挙すると, 以下の通りである.

- (a) 語頭でのすべての子音 (/ㅇ/ を除く. 外来語以外では /ㄹ/ も除く).
- (b) 鼻音, 流音の後ろのすべての子音 (ただし鼻音+鼻音, 鼻音+流音, 流音+流音を除く).
- (c) 口音の後ろのすべての激音.

以下に中和を起こさない位置での音素及び音素の結合を列挙する.

以下の符号を用いる. 無符号: 固有語 (固有語と漢字語, 漢字語と固有語の合成語も固有語扱いとする). *: 漢字語でもあり得る. [漢]: 漢字語でのみあり得る. [外]: 外来語でのみあり得る. [北]: 北朝鮮で用いられる. [南]: 韓国で用いられる. []: 速い発音でさらに一部が中和し得る (一部が他の音素に変化し得る). 下線: 特殊な表記 (後に述べる).

ここからは原則として音素は / / の中にハングルで示し (必要に応じて記号を示す), 朝鮮語の現行の綴りは “ ” の中に示し, 意味を < > の中に示す. () には漢字語における漢字を示す. s は /i/, /y/ と結合する時は ㅅ となる.

(a) 語頭

- Ø*: /아 이/ “아 이” <子供>, /온 도/ “온 도 (溫度)” <溫度>.
- p*: /발/ “발” <すだれ>, /방/ “방 (房)” <部屋>.
- ²p: /뼈/ “뼈” <骨>.
- p^h*: /파/ “파” <ねぎ>, /팔/ “팔 (八)” <八>.
- t*: /달/ “달” <月>, /당/ “당 (黨)” <党>.
- ²t: /딸/ “딸” <娘>.
- t^h*: /탈/ “탈” <仮面>, /탕/ “탕 (湯)” <スープ>.
- tʃ*: /잘/ “잘” <よく>, /자기/ “자기 (自己)” <自分>.
- ²tʃ: /쪽/ “쪽” <側>.
- tʃ^h*: /참/ “참” <本当に>, /차/ “차 (茶)” <茶>.
- s*: /살/ “살” <肌>, /산/ “산 (山)” <山>.
- ²s: /쌀/ “쌀” <米>.
- k*: /가을/ “가을” <秋>, /강/ “강 (江)” <川>.
- ²k: /꼬리/ “꼬리” <尾>.
- k^h*: /칼/ “칼” <刀>, /쾌속/ “쾌속 (快速)” <快速>.
- m*: /말/ “말” <馬>, /만/ “만 (萬)” <万>.
- n*: /날/ “날” <日>, /남자/ “남자 (男子)” <男>.
- r [外, 北] [漢: 南] /라디오/ “라디오” ([北] /라지오/ “라지오”) <ラジオ>, [北] /로동/ “로동 (勞動)” ([南] /노동/ “노동 (勞動)”) <労働>.

北/러행/“러행(旅行)”(南/여행/“여행(旅行)”) <旅行>.

h*: /하나/“하나” <1つ>, /한/“한(恨)” <恨(ハン)>.

(b) 語中

Ø*: /아이/“아이” <子供>, /호응/“호응(呼應)” <呼応>, /조은/“조은” <よい>. [h*参照]

b*: /아버지/“아버지” <父親>, /거부/“거부(拒否)” <拒否>, /지보/“집요하다(執拗-)” <執拗だ>, /지븐/“집은” <家は>, /이븐/“입은” <着た>, /아발피/“앞앞이” <一人ひとり>, /가버치/“값어치” <価値>.

²p: /예쁘다/“예쁘다” <きれいだ>. [²p*, ²p参照]

p^h: /아프다/“아프다” <痛い>, /출판/“출판(出版)” <出版>.
[p^h*, p^h参照]

d*: /바다/“바다” <海>, /지도/“지도(地圖)” <地図>, 만아들/마다들 <長男>, 파달/팔알 <小豆の粒>, 허두슴/헛웃음 <うわべの笑み>.

²t: /으뜸/“으뜸” <頭>. [²t参照]

t^h: /바탕/“바탕” <素質>, /설탕/“설탕(雪糖)” <砂糖>. [t^h参照]

dʒ*: /아버지/“아버지” <父親>, /토지/“토지” <土地>, 나제/낮 <昼に>, 지즌/짓은 <吼えた>, 마지/말이 <長子>.

²tʃ: /어찌/“어찌” <どうして>. [t²tʃ参照]

tʃ^h: /아침/“아침” <朝>, /갈채/“갈채(喝采)” <喝采>. [tʃ^h参照]

s*: /가시/“가시” <棘>, /도시/“도시(都市)” <都市>, 오슨/웃은 <服は>, 히으슨/히울은 <히울は>.

²s: /아가씨/“아가씨” <娘>. [s²s参照]

g*: /아가씨/“아가씨” <娘>, /화가/“화가(畫家)” <画家>, 아공/악용(惡用) <惡用>, 싸근/싸은 <芽は>.

²k: /아까/“아까” <さっき>. [k²k*, k², p²k*参照]

k^h: /조카/“조카” <甥>, /유쾌하다/“유쾌하다(愉快-)” <愉快だ>.
[k^h, k^h, p^hk^h参照]

m*: /아마/“아마” <多分>, /하마/“하마(河馬)” <河馬>, 가목/감옥(監獄) <監獄>, 바은/밤은 <夜は>. [mh*参照]

n*: /하나/“하나” <一つ>, /수녀/“수녀(修女)” <修道女>, 산악/산 <山岳>, 사는/산은 <山は>, 마는/많은 <多い>. [nh*参照]

ŋ*: /덩어리/“덩어리” <塊>, /강이/“강의(講義)” <講義>, /멍이/“멍이” <痣が>, /강이/“강이” <河が>. [ŋh*参照]

r*: /흐르다/“흐르다” <流れる>, /기로/“기로(岐路)” <岐路>. 北

/우열하다/“우열하다(愚劣一)”(南 /우열하다/ “우열하다(愚劣一)”) <愚劣だ>, 北 /비률/“비률(比率)”(南 /비율/ “비율”) <比率>, /바락/ “발악(發惡)” <あがき>, /다른/“달은” <月は>, /아른/“알은” <病んだ>. [rh*参照]

h*: /혜화/“회화(會話)” <會話>.

mb*: /담배/“담배” <タバコ>, /남북/“남북(南北)” <南北>. [nb*参照]

nb*: /단비/“단비” <慈雨>, /난방/“난방(暖房)” <暖房>.

nb*: /장보다/“장보다(場一)” <市場で買い物をする>, /양반/“양반(兩班)”(北 /량반/“량반(兩班)”) <兩班(ヤンバン)>.

lb*: /갈비/“갈비” <あばら肉>, /절벽/“절벽(絶壁)” <絶壁>, /올바르다/“올바르다”(北 “옳바르다”) <正しい>, /열븐/“얇은” <薄い>.

m²p*: /짬뽕/“짬뽕” <チャンポン>, /심뽕/“심보(心一)” <底意地>. [n²p*参照]

n²p*: /뽕뽕스럽다/“뽕뽕스럽다” <ずうずうしい>, /찐빵/“찐빵” <蒸しパン>, /문뽕/“문법(文法)” <文法>.

n²p*: /장뽕/“장뽕(長一)” <親指と中指を最大限に伸ばした長さ>, /용뽕/“용법(用法)” <用法>.

l²p*: /올빼미/“올빼미” <ふくろう>, /대들뽕/“대들보” <大黒柱>.

mp^h*: /곰팡이/“곰팡이” <かび>, /남편/“남편(男便)” <夫>. [np^h*参照]

np^h*: /한편/“한편(一便)” <一方>, /간판/“간판(看板)” <看板>.

np^h*: /양파/“양파(洋一)” <たまねぎ>, /상품/“상품(商品)” <商品>.

lp^h*: /갈팔질팡/“갈팔질팡” <うろうろ>, /발표/“발표(發表)” <発表>, /을픈/“을은” <詠じた>.

mm*: /암만/“<いくら(…しても)>”, /암묵/“암묵(暗黙)” <暗黙>, /임맛/“입맛” <食欲>, /염면/“염면(一面)” <側面>, /임문/“입문(入門)” <入門>, /감만/ 값만 <値段だけ>. [nm*参照]

nm*: /산마루/“산마루(山一)” <山頂>, “신문(新聞)” <新聞>, 간무 “갓무” <大根の一種>, /만며느리/“만며느리” <長男の嫁>, /반만/ “발만” <畑だけ>, /곶무늬/“꽃무늬” <花模様>, /낮만/“낮만” <鎌だけ>, “낮만” <昼だけ>, /히은만/“히을만” <히을모>, /바닷물/“바닷물”(北 “바다물”) <海の水>.

gm*: /영망/“영망 <めちやくちや>”, /앙망/“앙망(仰望)” <期待>, /앙몽/“악몽(惡夢)” <惡夢>, /방만/ 밖만 <外だけ>, /부영만/ 부영만 <台所だけ>.

lm*: /얼마/“얼마” <いくら>, /갈망/“갈망(渴望)” <渴望>, /절은/ “젊은” <若い>.

- md*: /감 돌다 / “감 돌다” <漂う>, /감 동 / “감 동 (感動)” <感動>.
- nd*: /반드시 / “반드시” <必ず>, 반대 “반대 <反對>” <反対>.
- ŋd*: /강 다리 / “강 다리” <つっぱり>, /장 단 / “장 단 (長短)” <チャンダン, 拍子>.
- ld*: /멀다 / “멀다” <遠い>, /시찰 단 / (あるいは /시찰 탄 /) “시찰 단 (視察團)” <視察団>.
- m²t*: /감 때 사납 따 / “감 때 사납 다” <手に負えないほど荒っぽい>, /넘 따 / “넘 다” <越える>, /점 따 / “점 다” <若い>.
- n²t*: /산 딸 기 / “산 딸 기” <山イチゴ>, /안 따 / “안 다” <抱く>.
- ŋ²t*: /낭 떠 러 지 / “낭 떠 러 지” <断崖>.
- l²t*: /알 뜰 하다 / “알 뜰 하다” <つつましい>, /열 따 / “열 다” <薄い>, /할 따 / “할 다” <舐める>, 발 딸 “발 달 (發達)” <發達>.
- mt^h*: /곰 탕 / “곰 탕 (一湯)” <コムタン>, /검 토 / “검 토 (檢討)” <検討>.
- nt^h*: /문 턱 / “문 턱 (門一)” <敷居の上部>, /만 타 / “만 다” <多い>, /선택 / “선택 (選擇)” <選択>.
- ŋt^h*: /영 터 리 / “영 터 리” <でたらめ>, /강 탈 / “강 탈 (強奪)” <強奪>.
- lt^h*: /헐 타 / “헐 타 (歇一)” <安い>, /탈 퇴 / “탈 퇴 (脫退)” <脱退>, /올 타 / “올 다” <正しい>, /할 틈 / “할 은” <舐めた>.
- mn*: /엄 니 / “엄 니” (北 /엄 니 / “엄 이”) <牙>, /심 니 / “심 니” <植えるか>, /금 년 / “금 년 (今年)” <今年>, /임 네 / “임 네” <着るよ>, /십 년 / “십 년 (十年)” <十年>, /감 네 / “감 네” <報いるよ>, /삼 네 / “삼 네” <煮るよ>, /밤 네 / “밤 네” <踏むよ>, /심 니 / “심 리 (心理)” (北 /심 리 / “심 리 (心理)) <心理>, /임 녁 / “임 력 (入力)” (北 /임 력 / “임 력 (入力)) <入力>, /짐 닐 / “집 일” <家の仕事>, /짐 녀 울 / “짚 여 울” <稲の藁によるまぐさ>. [mr 参照]
- nn*: /언 니 / “언 니” <姉 (妹から見て)>, /듣 는 / “듣 는” <聞く>, /만 는 / “말 는” <引き受ける>, /웃 는 / “웃 는” <笑う>, /인 는 / “있 는” <ある>, /인 는 / “잊 는” <忘れる>, /쫓 는 / “쫓 는” <追う>, /논 는 / “놀 는” <置く>, /끈 는 / “끊 는” <絶つ>, /생 산 량 / “생 산 량 (生産量)” (北 /생 산 량 / “생 산 량 (生産量)” <生産量>, /난 날 치 / “날 날 이” <一つ一つ>, /반 니 량 / “밭 이 량” <畑の畔>, /늦 녀 름 / “늦 여 름” <晩夏>, /난 녀 름 / “낮 었 ” <松の実の朝鮮飴>, /논 닐 / “논 일 ” <田仕事>, /밴 노 리 / “배 놀 이” (北 “배 놀 이”) <舟遊び>. [nr 参照]
- ŋn*: /강 냥 이 / “강 냥 이” <とうもろこし>, /강 남 / “강 남 (江南)” <江南>, /먹 는 / 먹 는 <食べる>, /당 는 / 닳 는 <磨く>, /읽 는 / 읽 는 <読む>. /강 녁 / “강 령 (綱領)” (北 /강 령 / “강 령” <綱領>) <綱領>, /동 닐 / “독 립 (獨立)” (北 /동 립 / “독 립 (獨立))” <独立>, /느

- 망념/“늑막염(肋膜炎)”(北 /릉망념/“릉막염(肋膜炎)”<肋膜炎>, /부엀닐/“부엀일”<台所仕事>, /공넌/“공엀”<大豆の朝鮮飴>, /맹장념/“맹장염(盲腸炎)”<盲腸炎>. [nr 参照]
- nr 北 漢: /심리/“심리(心理)”(南 /심니/“심리(心理)”<心理>, /임력/“입력(入力)”(南 /임넉/“입력(入力)”<入力>.
- nr 北 漢: /생산량/“생산량(生産量)”(南 /생산냥/“생산량(生産量)”<生産量>, /선렬/“선렬(先烈)”(南 /서넌/“선열(先烈)”<烈士>, /운를/“운를(韻律)”(南 /우눌/“운를(韻律)”<韻律>.
- nr 北 漢: /강령/“강령”<綱領>(南 /강녕/“강령(綱領)”<綱領>, /동립/“독립(獨立)”(南 /동넌/“독립(獨立)”<獨立>.
- ll*: /빨리/“빨리”<速>, /날섀력/“날섀넉”<夜明け頃>, /엀레/“엀네”<薄いね>, /할레/“할네”<舐めるね>, /일레/“일네”<失うね>, /똥리다/“똥리다”<(穴を)開けられる>, /여덜로/“여넌으로”<八つでもって>(書 /여덜브로/), /웨골로/“외곶으로”<一筋に>(書 /웨골쓰로/), /탈락/“탈락(脱落)”<脱落>, /찰라/“찰나(刹那)”<刹那>, /실라/“신라(新羅)”<新羅>, /물락/“물약(一藥)”<水藥>, /서울력/“사울역(一驛)”<ソウル駅>.
- md3*: /감자/“감자”<じゃがいも>, /검정/“검정(檢定)”<檢定>.
- nd3*: /만지다/“만지다”<触る>, /간장/“간장(干醬)”<醬油>, /안즌/“안은”<座った>.
- nd3*: /장조림/“장조림(醬一)”<牛肉の佃煮>, /공장/“공장(工場)”<工場>.
- ld3*: /알자/“알자”<知ろう>, /현실적/(あるいは/현실쩍/)“현실적(現實的)”<現實的>.
- m²tj: /남쪽/“남쪽(南一)”<南>, /넘찌/“넘지”<越えるよ>, /삼찌/“삼지”<煮るよ>, /몸찢/“몸짓”<身振り>, .
- n²tj*: /진짜/“진짜(眞一)”<本当>, /안찌/“안지”<抱くよ>, /안찌/“안지”<座るよ>, /지권짱/“직원증(職員證)”<職員証>, /손찢/“손짓”<手振り>.
- η²tj*: /공짜/“공짜(空一)”<ただ>, /초청짱/“초청장(招請狀)”<招請狀>.
- l²tj*: /살짜/“살짜”<こっそり>, /발찢/“발전(發展)”<發展>, /엀찌/“엀지”<薄いよ>, /할찌/“할지”<舐めるよ>, /실짱/“실증(一症)”<嫌疑>, /술찢/“술집”<飲み屋>, 여덜째 “여넌째”<八番目>.
- mtj^h*: /삼치/“삼치”<さわら>, /검찰/“검찰(檢察)”<檢察>.
- ntj^h*: /눈치/“눈치”<目つき>, /간첩/“간첩(間諜)”<スパイ>, /만

- 치/“많지”<多いよ>, /안치다/“앉히다”<座らせる>.
- ntʃʰ*: /망치다/“망치다”<駄目にする>, /경찰/“경찰 (警察)”<警察>.
- ltʃʰ*: /갈치/“갈치”(北/칼치/“칼치”)<太刀魚>, /갈채/“갈채 (喝采)”<喝采>, /올치/“올치”<正しいよ>, /할치다/“활이다”<舐められる>.
- ms*: /암소/“암소”<雄牛>, /감사/“감사 (感謝)”<感謝>.
- ns*: /안심/“안심”<牛のばら肉>, /건설/“건설 (建設)”<建設>.
- ŋs*: /동산/“동산”<小山>, /생산/“생산 (生産)”<生産>.
- ls*: 알살 “알살”<素肌>, /자살설/(あるいは/자살설/)“자살설 (自殺説)”<自殺説>.
- mʲs*: /감싸다/“감싸다”<包み隠す>, /김씨/“김씨 (金氏)”<金氏>, /위험성/“위험성 (危險性)”<危險性>, /넘습니다/“넘습니다”<越えます>, 삼습니다 “삶습니다”<煮ます>.
- nʲs*: /안씨/“안씨 (安氏)”<安氏>, /안전성/“안전성 (安全性)”<安全性>, /안습니다/“안습니다”<抱きます>, /안습니다/“안습니다”<座ります>, /만습니다/“만습니다”<多いです>.
- ŋʲs*: /성씨/“성씨 (姓氏)”<姓氏>, /공공성/“공공성 (公共性)”<公共性>.
- lʲs*: 갈씨 “갈씨 (葛氏)”<葛氏>, /올습니다/“올습니다”<正しいです>, /열습니다/“열습니다”<薄いです>, /할습니다/“할습니다”<舐めます>, /웨골쓰로/“외곶으로”<一筋に>(話 /웨골로/), /발썬/“발신 (發信)”<発信>.
- [mg*]: /넘기다/“넘기다”<渡す>, /감기/“감기 (感氣)”<風邪>.
- [ng*]: /안기다/“안기다”<抱かれる>, /건강/“건강 (健康)”<健康>.
- ŋg*: /멍개/“멍개”<ホヤ>, /공개/“공개 (公開)”<公開>. [ng*], [mg*]参照]
- lg*: /살구/“살구”<アンズ>, /발견/“발견 (發見)”<発見>, /일근/“일근”<呼んだ>.
- [mʲk]: /잠깐/“잠깐”(北/잠간 (暫間))<しばらく>, /넘고/“넘고”<越えて>, /삼고/“삼고”<煮て>.
- [nʲk*]: /관파니/“관파니”<しつこい人>, /만끽/“만끽 (滿喫)”<満喫>, /안과/“안과 (眼科)”<眼科>, /안고/“안고”<抱いて>, /안고/“안고”<座って>.
- ŋʲk*: /쌍꺼풀/“쌍꺼풀 (雙一)”<二重まぶた>, /성과/“성과 (成果)”<成果>, /학생과/“학생과 (學生課)”<学生課>. [nʲk*], [mʲk]参照]
- lʲk*: /갈까/“갈까”(北/갈가)<行こうか>, /열고/“열고”<薄くて>, /일고/“일고”(北/익고/“익고”)<読もうか>, /물까/“물가 (物價)”<物価>.
- [mkʰ*]: /삼키다/“삼키다”<飲み込む>, /흥쾌/“흥쾌 (欣快)”<欣快>.

[nk^h]: /신 코 / “신 코” <履物の先>, /만 코 / “많 고” <多くて> ,

[ŋk^{h*}]: /냉 큼 / “냉 큼” <直ちに>, /상 쾌 / “상 쾌 (爽快)” <爽快> .

[**[nk^h]**, **[mk^{h*}]** 参照]

[lk^{h*}]: /갈 퀴 / “갈 퀴” <熊手> . /불 쾌 / “불 쾌 (不快)” <不快> , /올 코 / “올 고” <正しくて> , /일 키 다 / “읽 히 다” <読まれる> .

[mh^{*}]: /감 히 / “감 히 (敢一)” <敢えて> , /감 행 / “감 행 (敢行)” <敢行> .

[nh^{*}]: /안 하 다 / “안 하 다” < し な い > , /은행 / “은행 (銀行)” <銀行> , **[北]** /안 해 / (**[南]** “안 해” / 아내 / “아 내”) <妻> .

[ŋh^{*}]: /망 하 다 / “망 하 다 (亡一)” <滅びる> , /공 항 / “공 항 (空港)” <空港> .

[rh^{*}]: /잘 하 다 / “잘 하 다” <上手だ> , /결 핵 / “결 핵 (結核)” <結核> .

[p²p^{*}]: /입 빠 르 다 / “입 빠 르 다” <口が軽い> , /집 빼 돌 기 / “집 비 돌 기” <家鳩> , /집 불 / “집 불” <藁火> . /갑 빼 싼 / “값 비 싼” <尊い> , /집 빼 / “집 배 (集配)” <集配> , /입 픈 / “잎 은” <葉は> , /갑 픈 / “값 은” <報いた> .

[t²p^{*}]: /올 뻐 / “옷 벌” <何着かの服> , /늦 뻐 / “늦 봄” <晩春> , /곧 뻐 / “꽃 발” <花園> , /말 빼 / “말 배” <家畜などの初産の仔> , /발 빼 / “발 버” <陸稻> .

[k²p^{*}]: /막 빠 지 / “막 바 지” <行き止まり> , /극 빼 / “극 비 (極秘)” <極秘> .

[p^hh^{*}]: /밥 풀 / “밥 풀” <糊用の飯粒> , /갑 판 / “갑 판 (甲板)” <甲板> , /입 파 고 / “입 하 고” <口と> , /압 파 고 / “앞 하 고” <前と> , /갑 파 고 / “값 하 고” <値段と> , /입 팍 / “입 학 (入學)” <入学> .

[t^hp^h]: /첼 판 / “첫 판” <はじめの局面> .

[k^hp^{h*}]: /독 판 / “독 판 (獨一)” <独り舞台> , /삭 풍 / “삭 풍 (朔風)” <朔風> .

[p²t^{*}]: /입 따 / “입 다” <着る> , /갑 따 / “값 다” <報いる> , /엎 따 / “없 다” <ない> , /밟 따 / “밟 다” <踏む> , /읍 따 / “ 읊 다” <詠ずる> , /압 또 / “압 도 (壓倒)” <压倒> .

[t²t^{*}]: /말 딸 / “말 딸” <長女> , /들 따 / “들 다” <聞く> , /말 따 / “말 다” <引き受ける> , /올 단 장 / “옷 단 장 (一丹粧)” <正装> , /늦 더 위 / “늦 더 위” <残暑> , /곧 따 발 / “꽃 다 발” <花束> .

[k²t^{*}]: /먹 따 / “먹 다” <食べる> , /닥 따 / “닥 다” <磨く> , /익 따 / “읽 다” <読む> , /부 억 때 기 / “부 억 대 기” <飯炊き女> , /부 억 또 / “부 억 도” <台所も> , /각 또 / “각 도 (角度)” <角度> .

[p^ht^{h*}]: /밥 통 / “밥 통 (一桶)” <飯櫃> , /엽 탁 / “엽 탁 (葉托)” <托葉> .

[t^ht^h]: /월 통 / “윗 통” **[北]** 옷 통 <上半身につける衣類> . /줄 타 / “줄 다” <よい> , /말 트 / “말 은” <引き受けた> , /말 텅 / “말 형” <長兄> , /몰 타 다 / “못 하 다” <出来ない> . /발 타 고 / “발 하 고” <畑と> , /날 타 고 / “낮 하 고”

- <昼と>, /곶타고 / “꽃하고” <花と>, /히을타고 / “히을하고” <히을と>.
- ^{kt}h*: /막토 / “막토 (一土)” <ありふれた土>, /박탈 / “박탈 (剥奪)” <剥奪>.
- ^{p2}tj*: /집찌비 / “집집이” <家ごとに>, /입짱 / “입장 (入場)” <入場>, /압쪽 / “앞쪽” <前側>, /압짱 / “앞장” <先頭>, /업찌 / “없지” <ないよ>.
- ^{t2}tj: /첼째 / “첫째” <第1の>, /올짱 / “웃장 (一機)” <箆笥>, /늘짱 / “늦잠” <朝寝, 朝寝坊>, /울찌 / “웃지” <笑うよ>, /일찌 / “있지” <あるよ>, /늘찌 / “늦지” <遅いよ>, /쫄찌 / “쫄지” <追うよ>, /틀찌 / “틀지” <聞くよ>, /말찌 / “말지” <引き受けるよ>.
- ^{k2}tj*: /막짱 / “막집 (幕一)” <仮小屋>, /학짜 / “학자 (學者)” <学者>, /먹따 / “먹자” <食べよう>, /닥짜 / “닥자” <磨こう>, /익짜 / “읽자” <読もう>.
- ^{pt}tj^h*: /합치다 / “합치다 (合一)” <合わせる>, /잡채 / “잡채 (雜菜)” <チャプチェ (春雨を使った料理)>.
- ^ttj^h: /첼차 / “첫차 (一車)” <始発の車>, /죠회 / “줄지” <よいよ>, /곶 / “꽃은” <花は>, /난날치 / “날날이” <一つ一つ>, /굳치다 / “굳히다” <固める>, /절치다 / “젯히다” <反らす>, /말추다 / “맞추다” <合わせる>.
- ^{kt}tj^h*: /막차 / “막차 (一車)” <終車>, /악취 / “악취 (惡臭)” <惡臭>.
- ^{p2}s*: /밥쌀 / “밥쌀” <米>, /집썬 / “짚신” <わらじ>, /입습니다 / “입습니 / “다” <着ます>, /갑습니다 / “값습니 / “다” <報います>, /밟습니다 / “밟습니 / “다” <踏みます>, /읍습니다 / “ 읍습니 / “다” <詠じます>, /업습니다 / “업습니 / “다” <ありません>, /갑썬 / “갑신 (甲申)” <甲申>, /갑썬 / “값은” <値段は>.
- ^{s2}s: /웁습니다 / “웃습니 / “다” <笑います>, /일습니다 / “있습니 / “다” <あります>, /잊습니다 / “잊습니 / “다” <忘れます>, /쫄습니다 / “쫄습니 / “다” <追います>, /틀습니다 / “틀습니 / “다” <聞きます>, /말습니다 / “말습니 / “다” <引き受けます>, /놀습니다 / “놀습니 / “다” <置きます>, /일썬 / “있은” <あった>.
- ^{k2}s*: /먹습니다 / “먹습니 / “다” <食べます>, /닥습니다 / “닥습니 / “다” <磨きます>, /익습니다 / “읽습니 / “다” <読みます>, /삭썬 / “샅은” <賃金は>, /낙썬 / “낙시” <釣り>.
- ^{p2}k*: /입꼬 / “입고” <着て>, /갑꼬 / “값고” <報いて>, /업꼬 / “없고” <なくて>, /밟꼬 / “밟고” <踏んで>, /읍꼬 / “읍고” <詠じて>, /입꼭 / “입국 (入國)” <入国>, /압낄 / “앞길” <将来>.
- ^{t2}k: /울꼬 / “웃고” <笑って>, /일꼬 / “잊고” <忘れて>, /쫄꼬 / “쫄고” <追って>, /틀꼬 / “틀고” <聞いて>, /말꼬 / “말고” <引き受けて>, /늘까울 / “늦가을” <晩秋>, /늘깍끼 / “늦깎이” <晩学の人>.

$[k^?k]$ *: /북까지 / “북까지” <北まで>, /밖까지 / “밖까지” <外まで>, /부엌까지 / “부엌까지” <台所まで>, /부엌칸 / “부엌칸 (一間)” <台所>, /밖꾼 / “밖은” <外は>, /닥꾼 / “닥은” <磨いた>.

$[p k^h]$: /팝콘 / “팝콘” <ポップコーン>.

$[t^h k^h]$: /첫케이스 / “첫케이스” <最初のケース>, /잘코 / “잘고” <よくて>.

$[k^h k^h]$: /식칼 / “식칼 (食一)” <包丁>, /부엌칼 / “부엌칼” <包丁>, “” <スープと>, “” <外と>, “” <台所と>, “” <賃金と>, “(閣下)” <閣下>.

(c) 語末

\emptyset^* : /무 / “무” <大根>, /구 / “구 (九)” <九>.

p^* : /입 / “입” <口>, /앞 / “앞” <前>, /값 / “값” <値段>, /답 / “답 (答)” <答 え>.

t^* : /옷 / “옷” <服>, /날 / “날” <昼>, /꽃 / “꽃” <花>, /곧 / “곧” <す ぐ>, /반 / “반” <畑>, /히읇 / “히읇” <히읇 (字母名)>.

k^* : /꼭 / “꼭” <きつと>, /밖 / “밖” <外>, /부엌 / “부엌” <台所>, /샅 / “샅” <賃金>, /약 / “약 (約)” <約>.

m^* : /감 / “감” <柿>, /삼 / “삼 (三)” <三>, /삼 / “삼” <生>.

n^* : /한 / “한” <一つの>, /산 / “산 (山)” <山>.

η^* : /멍 / “멍” <痣>, /강 / “강 (江)” <河>.

l^* : /달 / “달” <月>, /굴 / “굴” <道筋>, /여덟 / “여덟” <八つ>, /일 / “일 (一)” <一>.

2.2.3.1. 音素の交替—終声と初声との間で—

朝鮮語には例えば次のように, 同じ意味を持つ部分が位置によって形を若干変えることがある. 例: /푼-나물 / “푼나물” <春の新しい若菜>, /푼-싸랑 / “푼사랑” <かりそめの恋>; /사랑 / “사랑” <愛, 恋>; /출판-부 / 출판부 (出版部), /조직-부 / “조직부 (組織部)”, /넘-기-다 / “넘기다” <渡す> ~ /웃-끼-다 / “웃기다” <笑わす>; /멀-다 / “멀다” <遠い>, /익-따 / “익다” <慣れている>; /밤-도 / “밤도” <夜も>, /밥-또 / “밥도” <飯も>.

以上から接頭辞 /푼- / ~ /푼- / <新しい, 未熟な>, 語幹 /사랑 / ~ /싸랑 / <愛, 恋>, 接尾辞 /-기- / ~ /-끼- / <使役>, /-부 / ~ /-부 / (部), 語尾 /다 / ~ /따 / <基本形>, 助詞 /-도 / ~ /-또 / <-も>などの形態素が同じ意味を持ちながらも形を若干変えていることを知る. 接頭辞 /푼- / は語幹 /나물 / “나물” <山菜>の頭音 /ㄴ / の前で末音が鼻音化して /푼- / となった. 名詞 /사랑 / “사랑” は接頭辞 /푼- / の後ろに来て語頭の平音が濃音に変わり, /싸랑 / となった. 接尾辞 /-부 / (部) は頭音が口音の後ろで濃音化して /-부 / となる. 用言の接尾辞 /-기- / も同様に /-끼- / となり, 語尾 /-다 / も同様に /-따 / となり, 助詞 /-도 / <-も>も同様に /-또 / となる.

朝鮮語には接頭辞であれ, 語幹であれ, 接尾辞であれ, 語尾であれ, 助詞であれ, 音的環境に応じて形を変えた形態素のあるものがある. このように形は異なるが意味は同じというものを異形態と呼ぶ. 複数の異音が音素をなすように, 複数の異形態は形態素をなす. 音素が1つの記号で書かれるように, 形態素も1つの形で書かれ得る. こうして上記の異形態 /ㅍ-/~/ㅍㅍ-/, /사랑~/~/사랑/, /-기-/~/-끼-/, /-부~/~/-뿌/(部), /-다~/~/-따/, /-도~/~/-또/ はそれぞれ“ㅍ-”(入終声字については後で述べる), “사랑”, “-기-”, “-부”, “-다”, “-도”と書かれることになる.

朝鮮語の音素の交替にはもっとも基本的なものとして次のものがある. 下線を引いたものは代表として現われるもの. 下線を引かないものが表記として現われる(ただし /ㄷ/ 終声は必ずしもそうではなく, “ㄷ”とも書かれる).

- (1) 平音と濃音の交替(口音の後ろで)2.2.2.4.1.(1), 2.2.2.5. (iv)参照.
- (2) 口音と鼻音の交替(①鼻音の前で)2.2.2.4.1.(2), 2.2.2.5. (iii)参照.
(②流音の前で)2.2.2.4.1.(3), 2.2.2.5. (vi)参照.
- (3) 鼻音/ㄴ/と流音/ㄹ/の交替
I /ㄹ/が現われるもの(①/ㄹ/の前)2.2.2.4.1.(4 ii), 2.2.2.5. (vii)参照.
(②/ㄹ/の後ろ)2.2.2.4.1.(5), 2.2.2.5. (viii)参照.
II /ㄴ/が現われるもの(①口音の後ろ)2.2.2.4.1.(3), 2.2.2.5. (vi)参照.
(②鼻音(/ㄴ/以外)の後ろ)2.2.2.4.1.(4 i), 2.2.2.5. (vi)参照.
(③/ㄴ/の後ろ)2.2.2.4.1.(4 iii), 2.2.2.5. (ix)参照.
- (4) 声門音と激音の交替(口音の後ろで)2.2.2.4.1.(6), 2.2.2.5. (v)参照.

以上はゆっくりした発音の場合であるが, 速い発音ではさらに次のような交替まである.

- (5) 鼻音 /ㄴ/ と /ㄹ/ の交替(唇音の前で)2.2.2.4.2. (4), 2.2.2.5. (xi)参照.
- (6) 唇音と軟口蓋音の交替(軟口蓋音の前で)2.2.2.4.2. (3), 2.2.2.5. (xii)参照.
- (7) 口音とゼロの交替(濃音, 激音の前で)2.2.2.4.2. (1)(2), 2.2.2.5. (x)参照.
- (8) 声門音とゼロの交替(有声音の後ろで)2.2.2.4.2. (5), 2.2.2.5. (xiii)参照.

これらは音素と音素が隣り合っただけで同化を起こした結果として音素の交替が起きたものである(同時にそれは音素の中和を引き起こした).

以下に音素の交替の例を示す. * 漢字語にも現われる. ** 漢字語にのみ現われる. □: 速い発音でさらに一部が中和し得る(一部が他の音素に変化し得る).

- (1) 口音+平音 /ㅍ, ㅌ, ㅍㅍ/+ㅍ, ㅌ, ㅍㅍ, ㅌ, ㅍㅍ/

↓

濃音

↓

/ㅍㅍ, ㅌㅌ, ㅍㅍㅍ, ㅌㅌㅌ, ㅍㅍㅍㅍ/

/ㅍㅍ/+ㅍ/*: /입/+ㅍㅍㅍㅍ/ → /입/+ㅍㅍㅍㅍ/ “입버릇” <口癖>.

/압/+ㅍㅍㅍㅍ/ → /압/+ㅍㅍㅍㅍ/ “압박(壓迫)” <圧迫>.

/ㅁ /+ /ㄷ /*: /입- /+ /-다 / → /입- /+ /-따 / “입다” <着る>.

/잡 /+ /다 / → /잡 /+ /따 / “잡 다 (雜多)” <雜多>.

/ㅁ /+ /ㅈ /*: /임 -/+/-자/ → /임 -/+/-짜/ “임자” <着よう>.

/입 /+ /장 / → /입 /+ /짱 / “입 장 (立場)” 北 “립 장” <立場>.

/ㅁ /+ /ㄴ /*: /입-/+/-습니다/ → /입-/+/-습니다/“입습니다” <着ます>.

/답 /+ /사 / → /답 /+ /싸 / “답 사 (踏査)” <踏査, 研究旅行>.

$\boxed{/ㅁ/+/-ㅓ/*}$: $/ㅁ-/+/-고/ \rightarrow \boxed{/ㅁ-/+/-꼬/}$ “입 고” <着て>.

/입/+/국/ → /입/+/꺾/ “입국 (入國)” <入国>.

ㄷ/+/ㅁ/: /ㄹ-+/ㅁ다/ → /ㄹ-+/ㅁ다/ “엇보다” <うかがい見る>.

$\boxed{\text{ㄷ}} \text{ } \boxed{\text{+}} \text{ } \boxed{\text{ㄷ}} \text{ } \boxed{\text{:/}} \text{ } \boxed{\text{ㄷ}} \text{ } \boxed{\text{-}} \text{ } \boxed{\text{+}} \text{ } \boxed{\text{-}} \text{ } \boxed{\text{ㄷ}} \text{ } \boxed{\text{/}} \rightarrow \boxed{\text{ㄷ}} \text{ } \boxed{\text{-}} \text{ } \boxed{\text{+}} \text{ } \boxed{\text{-}} \text{ } \boxed{\text{ㅌ}} \text{ } \boxed{\text{/}} \text{ } \text{“ㄷ ㄷ”} \langle \text{聞} \rangle .$

$\boxed{\text{ㄷ}}/\text{+}/\text{ㅈ}/$: $\boxed{\text{ㄷ}}-\text{+}/-\text{자}$ / \rightarrow $\boxed{\text{ㄷ}}-\text{+}/-\text{ㅈ}$ / “ $\boxed{\text{ㄷ}}$ 자” <聞こう>.

/ㄷ /+ /ㅅ /: /듣-/+/-습니다/ → /듣-/+/-ㅅ니다/ “듣습니다” <聞きます>.

$\boxed{\text{ㄷ} / + / \text{ㄱ}} : \text{ㄷ} - / + / - \text{고} / \rightarrow \boxed{\text{ㄷ} - / + / - \text{꼬}} / \text{“ㄷ 고”} < \text{聞いて} > .$

/ㄱ/+/ㅁ/*: /말-+/ㅁ-바지/ → /말-+/ㅁ-바지/ “말바지” <行き止まり>.

/각 /+ /본 / → /각 /+ /뿐 / “각본” <脚本>.

/ㄱ/+/ㄷ/∗: /먹-/+/ㄷ/ → /먹-/+/ㄷ/ “먹다” <食べる>.

/각 /+ /도 / → /각 /+ /또 / “각도 (角度)” <角度>.

/ㄱ/+/ㅈ/※: /먹-/+/ㅈㅅ/ → /먹-/+/ㅈㅅㅅ/ “먹ㅅㅅ” <食べよう>.

/학 /+ /자 / → /학 /+ /짜 / “학 자 (學者)” <学者>.

/ㄱ/+/ㅅ/*: /먹-/+/--습니다/ → /먹-/+/--습니다/“먹습니다”<食べます>.

/학 /+ /술 / → /학 /+ /술 / “학 자 (學術)” <學術>.

$/\neg/+/\neg/^*$: $/\text{먹-}/+/-\text{고}/ \rightarrow / \boxed{\text{먹-}/+/-\text{고}}/$ “먹고” <食べて>.

/학 /+ /교 / → /학 /+ /교 / “학 교 (學校)” <学校>.

(2) ①口音+鼻音 /ㄇ, ㄋ, ㄣ/ + /ㄒ, ㄌ/

↓
鼻音

↓

/□, L, O/

/ㅁ /+ /ㅁ /*: /ㅁ /+ /-ㅁ / → /ㅁ /+ /-ㅁ /“ㅁㅁ” <ㅁだけ>.

/입 /+ /문 / → /임 /+ /문 / “입문 (入門)” <入門>.

/ㅁ/+/-/: /입-/+/-는 다/ → /임-/+/-는 다/ “입는다” <着る>.

/입 /+ /문 / → /임 /+ /문 / “입문 (入門)” <入門>.

$\boxed{/\text{ㄷ}/+\text{ㅁ}/}$: $/\text{온}/+/-\text{만}/ \rightarrow \boxed{/\text{온}/+/-\text{만}/}$ “옷만” <ㅁだけ>.

/ㄷ / + / ㄴ / : / ㄴ ㄷ - / + / - 는 다 / → / ㄷ ㄷ - / + / - 는 다 / “ㄴ ㄷ 는 다” <聞>.

/ㄱ/+/ㅁ/*: /먹/+/ㅁ/ → /멍/+/ㅁ/ “먹ㅁ” <墨だけ>.

/학/+/ㅁ/ → /항/+/ㅁ/ “학ㅁ (學問)” <學問>.

/ㄱ/+/ㄴ/*: /먹-/+/ㄴ/ → /멍-/+/ㄴ/ “먹ㄴ” <食べる>.

/학/+/ㄴ/ → /항/+/ㄴ/ “학ㄴ (學年)” <學年>.

(2) ② 南 口音+流音 /ㅁ, ㄷ, ㄱ/+/ㄹ/ 北 口音+流音 /ㅁ, ㄷ, ㄱ/+/ㄹ/
 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 鼻音 /ㄴ/ /ㅁ, ㄴ, ㅇ/ /ㄴ/ 鼻音 /ㅁ, ㄴ, ㅇ/

/ㅁ/+/ㄹ/**: /십/+/리/ → /심/+/니/ (北/심리/) “십리 (十里)” <一里>.

/ㄷ/+/ㄹ/: /천/+/로동/ → 北/천/+/로동/ “첫로동 (勞動)” (南/천/+/노동/ “첫노동 (勞動)”) <最初の労働>.

/ㄱ/+/ㄹ/**: /독/+/립/ → /동/+/닙/ (北/동립/) “독립 (獨立)” <獨立>.

(3) I ① /ㄴ/+/ㄹ/ ② /ㄹ/+/ㄴ/
 ↓ ↓
 /ㄹ/ /ㄹ/

/ㄴ/+/ㄹ/**: /관/+/리/ → /괄/+/리/ “관리 (官吏)” <官吏>.

/ㄹ/+/ㄴ/*: /칼/+/날/ → /칼/+/랄/ “칼날” <刀の刃>.

/찰/+/나/ → /찰/+/라/ “찰나 (刹那)” <刹那>.

(3) II ① 南 口音+/ㄹ/ ②③ 鼻音+/ㄹ/
 ↓ ↓ ↓
 鼻音 /ㄴ/ /ㄴ/

(2) ①を見よ.

/ㅁ/+/ㄹ/**: /심/+/리/ → /심/+/니/ (北/심리/) “심리 (心理)” <心理>.

/ㅇ/+/ㄹ/**: /강/+/령/ → /강/+/녕/ (北/강령/) “강령 (綱領)” <綱領>.

/ㄴ/+/ㄹ/**: /생산/+/력/ → /생산/+/녁/ (北/생산력/) “생산력 (生産力)” <生産力>.

最後の例と(3) I ① /ㄴ/+/ㄹ/** との違いは, 前者が語幹(생산 (生産))+接尾辞(력 (力))の間に起こるのに対し, 後者は漢字語語幹(관리 (官吏))の内部で起こるということにある. 圧倒的多数は後者である. しかし曖昧な例もある. /ㄴ/+/ㄹ/**: /으문/+/론/ → /으문/+/논/ (北/음운론/) “음운론 (音韻論)” <音韻論>. ただし韓国では/으물론/もある.

(4) 口音+声門音 /ㅁ/, /ㄷ/, /ㄱ/+/ㅎ/
 ↓ ↓

激音

/ㅍ/, /ㅌ/, /ㄱ/

/ㅍ/+/ㅎ/*: /입/+/하 고/ → /**입**+/파 고/“입 하 고”<口と>.

/입/+/학/ → /**입**+/팍/“입 학 (入學)”<入学>.

/ㄷ/+/ㅎ/: /온/+/하 고/ → /**온**+/타 고/“옷 하 고”<服と>.

/ㄱ/+/ㅎ/*: /먹/+/하 고/ → /**먹**+/카 고/“먹 하 고”<墨と>.

/학/+/웨/ → /**학**+/웨/“학 회 (學會)”<学会>.

以上はあくまでも交替を起こす場合であるから, 交替を起こさない場合, すなわち1つの形態素内部では次の場合はこの限りではない.

(2) 鼻音+鼻音 /ㅇ/+/ㅇ/: /엄 마/“엄 마”<おかあちゃん>, /ㄴ/+/ㄴ/:

/언 니/“언 니”<姉(妹から見て)>, /ㅇ/+/ㅇ/: /방 망 이/“방 망 이”

<棒>, /ㅇ/+/ㄴ/: /송 늉/“송 늉”<스نيン(ご飯を炊いた後の米粒の付いた釜にミズを入れて沸かしたもの)>;ただし /ㅇ/+/ㄴ/: /남 남/“남 남”<(幼児が)舌鼓を打つ音>. /ㄴ/+/ㅇ/: /만 만 하 다/“만 만 하 다”<くみしやすい>.

(3) I 流音+流音 /ㄹ/+/ㄹ/: /물 령 물 령/“물 령 물 령”<ふにやふにや>.

II /ㄴ/+/ㄴ/ (2) を参照せよ.

しかし (1) 口音+濃音の場合は現行正書法ではこのような時にも「口音+口音」と表記する. /ㅍ/+/ㅌ/: /넵 따/“넵 다”<激しく>, /ㅍ/+/ㅍ/: /갑 짜 기/“갑 자 기”<いきなり>, /ㅍ/+/ㅍ/: /몹 씨/“몹 시”<とても>, /ㄱ/+/ㅍ/: /낙 찌/“낙 지”<蛸>, /ㄱ/+/ㅍ/: /색 씨/“색 시”<年頃の娘>.

また/ㅍ/+/ㅍ/, /ㄱ/+/ㄱ/とか/ㄷ/+/濃音, (4) 口音+声門音の類は必ず形態素の境界にのみ現われる.

2.2.3.2. 音素の交替—漢字語で—

すでに 2.2.2.5. 及び 2.2.3.1. に示したように(*は漢字語を含むもの, **は漢字語にのみ現われるもの)朝鮮語は日常語にもおびただしい量の漢字語を含む言語だが, 漢字語にのみ現われる特殊な交替がある. 2.2.3.1. (2), (3) I ①, ②, II ①, ②, ③はすべて漢字音に関するものである.

(1) 語頭:/ㄹ/+/i/ あるいは /y/ /ㄴ/+/i/ あるいは /y/ /ㄹ/+/その他の母音

↓
ゼロ

↓
ゼロ

↓

/ㄴ/

/ㄹ/+/i/: /리/+/유/ → /이/+/유/“이 유 (理由)”<理由>(北)리 유/“리 유”).

/ㄹ/+/y/: /량/+/반/ → /양/+/반/“양 반 (兩班)”<兩班>(北)량 반/“량 반”).

/ㄴ / + /i:/ /니 / + /탄 / → /이 / + /탄 / “이 탄 (泥炭)” <泥炭> (北 / 니 탄 / “니 탄”).
 /ㄴ / + /y:/ /녀 / + /성 / → /여 / + /성 / “여 성 (女性)” <女性> (北 / 녀 성 / “녀 성”).
 /ㄹ / + その他の母音:

/락/+/째/ → /낙/+/제/“낙 제 (落第)”<落第>(北/락 째/“락 제”).

/로/+동/ → /노/+동/“노동(勞動)”<労働>(北/로동/“로동”).

この場合韓国と北朝鮮では表記も読み方も異なることに注意されたい。

南北朝鮮とも以下の単語では一部の漢字音は慣用音を用いている. /노/“노(櫓)”
 <櫓>(本来「櫓」は“로”である), /나사/“나사(螺絲)”<ばね>(本来「螺」は“라”で
 ある), 예속“예속(隸屬)”<隸屬>, 노예“노예(奴隸)”<奴隸>(本来「隸」は“레”
 である).

“내 일 (來日)”＜明日＞は北朝鮮では“래 일”と書き、そう発音することになっているが、現実には韓国と発音が同じらしい。

(2) 語中: /ㄉ / + /ㄘ / /ㄉ / + /ㄙ / /ㄉ / + /ㄣ /

↓ ↓ ↓

/ ɕ / / ɲ / / ɳ /

/ㄹ/+/ㄷ/: /발/+/달/ → /발/+/달/ “발달 (發達)” <發達>.

/ㄹ /+ /ㅈ / : /발 /+ /전 / → /발 /+ /편 / “발 전 (發展)” <發展>.

/ㄹ /+ /ㅅ /: /발 /+ /신 / → /발 /+ /썸 / “발신 (發信)” <發信>.

この交替は漢字語語幹の内部(i)あるいは漢字語語幹+漢字語接尾辞の間(ii)で起こり得るが、漢字語接頭辞+漢字語語幹の間(iii)では起こらない。

(i) 漢字語語幹の内部 上記 (2) を参照せよ.

(ii) 漢字語語幹＋漢字語接尾辞の間

“시찰-단 (視察團)” <視察団>/시찰-단/あるいは/시찰-단/.

“현실-적 (現實的)” <現實的>/현실-적/あるいは/현실-적/.

“자살-설 (自殺說)” <自殺說> / 자살-설 /あるいは/ 자살-설 /.

(iii) 漢字語接頭辞 + 漢字語語幹の間

“탈-당파적 (脫黨派的)” <脱党派的> /탈-당파적/.

(3) 語中: 母音あるいは / ㄴ / + / ㅁ / 母音あるいは / ㄴ / + / ㅂ /

\downarrow
 $\frac{1}{\sqrt{2}}$

\downarrow
 $\frac{1}{\sqrt{2}}$

母音+/ㅈㅅ/: /파/+/ㅈㅅ/ → /파/+/ㅅ/“파ㅅ(破裂)”<破裂>(北/파ㅅ/“파ㅅ”).

/ㄱ / + /ㅈㅍ / : /파괴 / + /ㅈㅍ / → /파괴 / + /ㅍㅍ / “파괴 (破裂)” <破裂> (北 /파괴 / “파괴”).

母音+/을/: /비 /+/을/ → /비 /+/을/ “비율 (比率)” <比率> (北) 비를 / “비를”.
 /ㄴ /+/을/: /운 /+/을/ → /운 /+/을/ “운율 (韻律)” <韻律> (北) 운를 / “운를”.

韓国と北朝鮮とで表記も読み方も異なることに注意されたい. ただし現実にはこの点に関する限り北朝鮮でも韓国の発音が通用しているようである.

また次のものも参照せよ. /열 씩 / “열 성 (熱誠)” <熱意>, /정 널 / “정 열 (情熱)” <情熱>, /백 널 / “백 열 (白熱)” <白熱>. これは漢字音“열”と“열”とが混同されたものである.

(4) 地名と人名で: 母音+/녕 / (寧) 母音+/룡 / (龍) /ㄴ /+/룡 / (龍)

↓ ↓ ↓
 /령 / /용 / /용 /

母音+/녕 / (寧): “회 령 (會寧)” <会寧> (北朝鮮地名), “의 령 (宜寧)” <宜寧> (韓国地名), “이 어 령 (李御寧)” <李御寧> (人名). 参照: “안 녕 (安寧)” <安寧>

母音+/룡 / (龍): “이 재 용 (李在龍)” <李在龍> (人名). 参照: “어 룡 (魚龍)” <魚龍>.

/ㄴ /+/룡 / (龍): “정 판 용 (鄭判龍)” <鄭判龍> (人名).

2.2.3.3. 音素の交替—終声+母音の間で—

すでに 2.2.2.5. で次の中和について述べた.

(i) 終声での平音: 激音: 濃音 [平音]. /ㅁ /:/ㅍ /:/ㅂ /:/ㅍ /, /ㄷ /:/ㅌ /:/ㄸ /:/ㄷ /, /ㄴ /:/ㄹ /:/ㄴ /:/ㄴ / [ㄷ]. 2.2.2.1. 参照.

(ii) 終声の歯音での 3 つの平音 /ㄷ /:/ㄴ /:/ㄹ /:/ㄷ / [ㄷ]. 従ってこの位置では /ㄷ /, /ㅌ /, /ㄸ /, /ㄴ /, /ㄹ /, /ㄴ /, /ㄹ /, /ㄴ / の 8 個が中和する. 2.2.2.1. 参照. これと関連のある交替を以下に示す.

I. 表記が 1 つの文字からなるもの:

(1) 終声+初声(激音, 濃音) /ㅁ /+/ㅍ / /ㄷ /+/ㅌ / /ㄴ /+/ㄹ / /ㄴ /+/ㄴ /
 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 終声(平音) /ㅁ / /ㄷ / /ㄴ / /ㄴ /

/ㅁ /+/ㅍ /: /집 픈 / “집 은” <藁は> : /집 / “집 ” <藁>.

/ㄷ /+/ㅌ /: /깊 픈 / “깊 은” <深い> : /깊 따 / “깊 다 ” <深い>.

/ㄷ /+/ㅌ /: /받 픈 / “받 은” <畑は> : /받 / “받 ” <畑>.

/ㅁ /+/ㅍ /: /맡 픈 / “맡 은” <引き受けた> : /맡 따 / “맡 다 ” <引き受ける>.

/ㄱ/+/ㅋ/: /부억큰/“부억은”<台所は>:/부억/“부억”<台所>.
 /ㄱ/+/ㅋ/: /박끈/“박은”<台所は>:/박/“박”<台所>.
 /ㄷ/+/ㅌ/: /닥끈/“닥은”<磨いた>:/닥따/“닥다”<磨く>.

(2) 初声 /ㄴ/ /ㄷ/ 終声+初声 /ㄷ/+/ㄴ/ /ㄷ/+/ㄷ/

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

終声 /ㄷ/ /ㄷ/ 終声 /ㄴ/ /ㄷ/

/ㄴ/: /오슨/“옷은”<服は>:/온/“옷”<服>.
 /씨슨/“씻은”<洗った>:/씻따/“씻다”<洗う>.
 /ㄷ/: /나즌/“낮은”<昼は>:/날/“낮”<昼>.
 /이즌/“잊은”<忘れた>:/일따/“잊다”<忘れる>.
 /ㄷ/+/ㄴ/: /일쓰/“있은”<あった>:/일따/“있다”<ある>.
 /ㄷ/+/ㄷ/: /빌즌/“빛은”<光は>:/빌/“빛”<光>.
 /쫄즌/“쫄은”<追った>:/쫄따/“쫄다”<追う>.

II. 表記が2つの文字からなるもの:

(3) 終声+初声 /ㅁ/+/ㄴ/ /ㄱ/+/ㄴ/ /ㄴ/+/ㄷ/ /ㄹ/+/ㄷ/ /ㄹ/+/ㅁ/

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

終声 /ㅁ/ /ㄱ/ /ㄴ/ /ㄷ/ /ㄷ/

/ㅁ/+/ㄴ/: /값쓰/“값은”<値段は>:/값/“값”<値段>.
 /업쓰/“없은”<なかった>:/업따/“없다”<ない>.
 /ㄱ/+/ㄴ/: /삭쓰/“샷은”<賃金は>:/삭/“샷”<賃金>.
 /ㄴ/+/ㄷ/: /안즌/“앉은”<座った>:/안따/“앉다”<座る>.
 /ㄹ/+/ㄷ/: /할튼/“활은”<なめた>:/할따/“활다”<なめた>.
 /ㄹ/+/ㅁ/: /여덟븐/“여덟은”<八は>:/여덟/“여덟”<八>.
 /널븐/“넓은”<広い>:/널따/“넓다”<広い>.

(4) 終声+初声 /ㄹ/+/ㄱ/ /ㄹ/+/ㅁ/ /ㄹ/+/ㅍ/ /ㄹ/+/ㅍ/

↓ ↓ ↓ ↓ ↓

終声 /ㄱ/ /ㅁ/ /ㅍ/ /ㅍ/

/ㄹ/+/ㄱ/: /달근/“닭은”<鶏は>:/닭/“닭”<鶏>.
 /일근/“읽은”<読んだ>:/익따/*“읽다”<読む>.
 /ㄹ/+/ㅁ/: /발븐/“밧은”<踏む>:/밧따/*“밧다”<踏む>.
 /ㄹ/+/ㅍ/: /을픈/“ 읊은”<詠じた>:/읍따/“읊다”<詠ずる>.

/ㄷ/+/ㅁ/: /살은/“살은”<生は>:/삼/“삼”<生>.

“살은”<煮た>:/삼따/“삼다”<煮る>.

[注]* /익따/ を /일따/, /밥따/ を /발따/ と読む人が多い. しかし“읽는”を /잉는/ (“읽고”は /일고/), “밟는”を /빔는/ と読むから, とりあえずこうしておく.

I は現代朝鮮語の内的な法則に従ったものであり, II は2文字のうちの選択が前か後かについては法則性がないが, その他は法則に従う.

終声字“ㄹ”は北朝鮮では/ㅁ/と読むようである. 韓国では動詞“밟다”<踏む>1個だけが/ㅁ/, 体言(여덟 1個だけ)とすべての形容詞が/ㄷ/であると考えたらよい. なお次の発音に注意.“여덟-도”/여덟-도/<八も>.

III. /ㄷ/と/ㅁ/は次のように /i/ や /y/ の前で /ㅌ/ や /ㅍ/ に変わる. これを口蓋音化と呼ぶ.

/ㄷ/+/i/: “말-”/말-/<長子(接頭辞)>, “말-이”/마지/<長子>.

“굳-”/굳-/<固い>, “굳-이”/구지/<固く>.

“닫-”/닫-/<閉める>, “미-닫-이”미다지

/ㅁ/+/i/: “발”/발/<畑>, “발-이”/발치/<畑が>.

“밭”/밭/<畑>, “밭-이-다”/밭치다/<畑だ>.

“같-”/같-/<同じ>, “같-이”/같치/<同じく, 一緒に>.

“붙-”/붙/<付く>, “붙-이-”/붙치-/<付ける>.

/ㅁ/+/y/: “붙-”/붙/<付く>, “붙-여”/붙쳐/<付けて>.

/ㄷ/+/i/: “할-”/할/<なめる>, “할-이-”/할치-/<なめられる>.

/ㄷ/+/y/: “할-”/할/<なめる>, “할-여”/할쳐/<なめられて>.

次のものもある.

/ㄷ/+/히/: “닫-”/닫-/<閉める>, “닫-히-”/닫치-/<閉まる>.

/ㄷ/+/혀/: “닫-”/닫-/<閉める>, “당-혀”/당쳐/<閉まって>.

2.2.3.4. 音素の交替—強い位置と弱い位置—

2.2.3.1., 2.2.3.2., 2.2.3.3.で中和しない位置における異形態の音素と中和する位置における異形態の音素では基本的に前者の形が表記として採用されることを見た. このような中和しない位置を強い位置, 中和する位置を弱い位置と呼ぼう. 整理すると次のようになる.

	強い位置 (中和しない位置)	弱い位置 (中和する位置)
2.2.3.1. 固有語 初声	語頭あるいは形態素の頭	口音の後
	母音, 鼻音, 流音の後ろ	
固有語 終声	語末あるいは形態素末	鼻音, 流音の前
漢字語 /ㄷ/初声		口音, 鼻音の後

/ㄴ /初声		/ㄹ /の後	
/ㄴ /終声		/ㄹ /の前	
2.2.3.2. 漢字語	/ㄹ /初声	母音の後	語頭
	/ㄴ /初声	母音の後	語頭
2.2.3.3. 固有語	終声	母音の前	語末あるいは形態素末
口音の後			
/ㄷ /, /ㄹ /, /ㄷ /終声		/i/, /y/ 以外の前	/i/, /y/ の前

強い位置, 弱い位置というのは相対的なもので, 上の網のかかったものを見ても, 母音の前 > 語末あるいは形態素末 > 鼻音, 流音の前という風に強さが位階を持っていることが分かる. また強い位置(母音の前)の /ㄷ /, /ㄹ /, /ㄷ / 終声にしても /i/, /y/ の前はそれよりも弱いのである.

2.2.2.5. で下線を引いた箇所の大部分について述べる.

純粹に現代語の観点に立つならば, 用言の語幹末音と語尾の頭音の関係を考慮して次のような表が得られる. 各表の左端の第1の用言は母音語幹, 第2のものはㄹ 語幹, その他は子音語幹である. そのうち真ん中の段の最上位のものはいわゆる人変格用言である.

ここで子音で始まる語尾に平音, 濃音, 激音(ただし人系列だけは激音がなく, 濃音がそれを代行する)の3種類があることが分かる.

口音を末音とする子音語幹の後ろに濃音が現われるのは 2.2.3.1.(1) によって説明がつく. しかし流音と鼻音を末音とする子音語幹の後ろに濃音と激音が現われることは今までの規則によっては正当化し得ない. 現行正書法はこの際激音の語尾に関しては“ㄹ + 平音”という表記で解決したのだが, 濃音の語尾に関してはなんらの手立てもしなかった. 本来ならば“X + 平音”という表記が論理的に考え出されてしかるべきだが, 平音を濃音化させる要素の実体がないためか, 工夫をしなかった.

今“X + 平音”があるべき姿だとするならば, 1.2.3.3.(3), (4) の“ㄷ”, “ㄷ”, “ㄷ”, “ㄷ”はそれぞれ“ㄷ X”, “ㄷ X”, “ㄷ X”, “ㄷ X”のように考えなければならず, いわば“ㄷ”, “ㄷ”, “ㄷ”, “ㄷ”と“X”との複合だといえる. しかし“ㄷ”, “ㄷ”, “ㄷ”, “ㄷ”の強い位置は母音の前, “X”の強い位置は子音の前という大きな違いがある.

現行正書法が“X”を書かずにすむのは「鼻音を末音とする子音語幹 + 平音」という結合が用言に存在しないこと, 「流音を末音とする子音語幹 + 濃音」の場合語幹末音が2つの子音字を持っているのでㄹ 語幹とは区別されることが考えられる.

(a) 語尾の頭音にとって強い位置(子音の前)(しかし語幹末音にとっては弱い位置)

/-다 /	/-따 /	/-타 /
/지 다 / “지 다” < 負う >	/질 따 / “짓 다” < 作る >	/줄 타 / “줄 다” < よい >

/알다/“알다”<知る>	/얼따/“얇다”<薄い> /할따/“훅다”<なめる>	/올타/“옳다”<正しい>
——	/안따/“안다”<抱く> /안따/“앉다”<座る>	/안타/“않다”<しない>
——	/넘따/“넘다”<越える> /삼따/“삶다”<煮る>	——
——	/먹따/“먹다”<食べる> /닥따/“닦다”<磨く> /익따/“읽다”<読む>	——
——	/입따/“입다”<着る> /깊따/“깊다”<深い> /엷따/“얇다”<ない> /밟따/“밟다”<踏む> /읊따/“읊다”<詠ずる>	——
——	/닫따/“닫다”<閉じる> /갈따/“갈다”<深い> /씻따/“씻다”<洗う> /있따/“있다”<ある> /잊따/“잊다”<忘れる> /꼴따/“꼴다”<負う>	——

/-고/	/-꼬/	/-코/
/지고/“지고”<負って>	/짚꼬/“짓고”<作って>	/죃코/“죃고”<よくて>
/알고/“알고”<知って>	/얼꼬/“얇고”<薄くて> /할꼬/“훅고”<なめて>	/올코/“옳고”<正しくて>
——	/안꼬/“안고”<抱いて> /안꼬/“앉고”<座って>	/안코/“않고”<しないで>
——	/넘꼬/“넘고”<越えて> /삼꼬/“삶고”<煮て>	——
——	/먹꼬/“먹고”<食べて> /닥꼬/“닦고”<磨いて> /익꼬/“읽고”<読んで>	——
——	/입꼬/“입고”<着て> /깊꼬/“깊고”<深くて> /엷꼬/“얇고”<なくて> /밟꼬/“밟고”<踏んで>	——

	/음 고 / “ 읍 고 ” < 詠じて >	
——	/달 고 / “ 달 고 ” < 閉じて > /갈 고 / “ 갈 고 ” < 深くて > /씻 고 / “ 씻 고 ” < 洗って > /있 고 / “ 있 고 ” < あって > /잊 고 / “ 잊 고 ” < 忘れて > /꼴 고 / “ 꼴 고 ” < 負って >	——

/-지 /	/-찌 /	/-치 /
/지 지 / “ 지 지 ” < 負うよ >	/질 찌 / “ 짓 지 ” < 作るよ >	/죌 치 / “ 졸 지 ” < よいよ >
/알 지 / “ 알 지 ” < 知るよ >	/열 찌 / “ 엽 지 ” < 薄いよ > /할 찌 / “ 활 지 ” < なめるよ >	/올 치 / “ 읍 지 ” < 正しいよ >
——	/안 찌 / “ 안 지 ” < 抱くよ > /앉 찌 / “ 앉 지 ” < 座るよ >	/안 치 / “ 았 지 ” < しないよ >
——	/넘 찌 / “ 넘 지 ” < 越えるよ > /삼 찌 / “ 삶 지 ” < 煮るよ >	——
——	/먹 찌 / “ 먹 지 ” < 食べるよ > /닥 찌 / “ 닻 지 ” < 磨くよ > /익 찌 / “ 읽 지 ” < 読むよ >	——
——	/입 찌 / “ 입 지 ” < 着るよ > /깊 찌 / “ 깊 지 ” < 深いよ > /없 찌 / “ 엇 지 ” < ないよ > /밟 찌 / “ 밟 지 ” < 踏むよ > /읍 찌 / “ 읍 지 ” < 詠ずるよ >	——
——	/달 찌 / “ 달 지 ” < 閉じるよ > /갈 찌 / “ 갈 지 ” < 深いよ > /씻 찌 / “ 씻 지 ” < 洗うよ > /있 찌 / “ 있 지 ” < あるよ > /잊 찌 / “ 잊 지 ” < 忘れるよ > /꼴 찌 / “ 꼴 다 ” < 負うよ >	——
/-ㅁ니다 /	/-습니다 /	/-습니다 /
/집니다 / “ 집니다 ” < 負います >	/질 씌니다 / “ 짓 습니다 ” < 作ります >	/죌 씌니다 / “ 졸 다 ” < よい >
/알니다 / “ 압니다 ” < 知ります >	/열 씌니다 / “ 엽 습니다 ” < 薄いです > /할 씌니다 / “ 활 습니다 ” < なめます >	/올 씌니다 / “ 읍 다 ” < 正しい >
——	/안 씌니다 / “ 안 습니다 ” < 抱きます >	/안 씌니다 / “ 았 다 ”

	/안 씁니다 / “앉 습니다” <座ります>	<しない>
——	/넘 씁니다 / “넘 습니다” <越えます> /삼 씁니다 / “삶 습니다” <煮ます>	——
——	/먹 씁니다 / “먹 습니다” <食べます> /닥 씁니다 / “닦 습니다” <磨きます> /익 씁니다 / “읽 습니다” <読みます>	——
——	/입 씁니다 / “입 습니다” <着ます> /깊 씁니다 / “깊 습니다” <深いです> /엷 씁니다 / “없 습니다” <ないです> /밟 씁니다 / “밟 습니다” <踏みます> /을 씁니다 / “을 습니다” <詠じます>	——
——	/닫 씁니다 / “닫 습니다” <閉じます> /갈 씁니다 / “갈 습니다” <深いです> /씻 씁니다 / “씻 습니다” <洗います> /있 씁니다 / “있 습니다” <あります> /잊 씁니다 / “잊 습니다” <忘れます> /꼴 씁니다 / “꼴 습니다” <負います>	——

(b) 語尾の頭音によって弱い位置(母音の前)(しかし語幹末音にとっては強い位置)

/-ㄴ /	/-은 /	/-은 /
/진 / “진” <負った>	/지은 / “지은” <作った>	/조은 / “좋은” <よい>
/안 / “안” <知った>	/열븐 / “얇은” <薄い> /할튼 / “ħalten” <なめた>	/어른 / “옳은” <正しい>
——	/아는 / “안은” <抱いた> /안즌 / “안은” <座った>	/아는 / “않은” <しなかった>
——	/너은 / “넘은” <越えた> /살은 / “삶은” <煮た>	——
——	/머근 / “먹은” <食べた> /닥곤 / “닦은” <磨いた> /일근 / “읽은” <読んだ>	——
——	/이븐 / “입은” <着た> /깊픈 / “깊은” <深い> /엷쓴 / “없은” <なかった> /발븐 / “밟은” <踏んだ> /을픈 / “을은” <詠じた>	——
	/다튼 / “닫은” <閉じた>	

——	/갈튼/ “갈은” <深い> /씨슨 / “씻은” <洗った> /일썌/ “있은” <あった> /이즌 / “잊은” <忘れた> /쏟춘/ “쫓은” <負った>	——
----	--	----

これと関連して次のような場合を参照せよ. これも上の場合と似ている.

- “ㅁ + ㅎ” / ㅁ + ㅍ / “입히다” / 입 피다 / <着せる>.
 “ㄹ + ㅎ” / ㄹ + ㅍ / “넓히다” / 넓 피다 / <広げる>.
 “ㅈ + ㅎ” / ㅈ + ㅌ / “잊히다” / 잊 치다 / <忘れられる>.
 “ㅊ + ㅎ” / ㅊ + ㅌ / “앉히다” / 안 치다 / <座らす>.
 “ㄱ + ㅎ” / ㄱ + ㅋ / “익히다” / 익 키다 / <慣らす>.
 “ㄴ + ㅎ” / ㄴ + ㅋ / “읽히다” / 일 키다 / <読まれる>.

終声に関して次のように整理することが出来る. 下線を引いたものは速い発音で脱落する. * を付けたものはその項においては「第1次的に強い位置」が実は「第2次的に強い位置」に対して「弱い位置」である. /ㅎ/ は後続の平音を激音にするもの, /x/ は後続の平音を濃音にするもの.

文字	第1次的に強い位置 (母音の前)	第2次的に強い位置 (平音の前)	特殊に強い位置 (/i/, /y/の前)	弱い位置 (鼻音の前)
ㅁ, ㄷ, ㄱ	/ㅁ /, /ㄷ /, /ㄱ /			/ㅇ /, /ㄴ /, /ㅇ /
ㅂ, ㄱ	/ㅂㅍ /, /ㄱㅋ /	/ㅁ /, /ㄱ /		/ㅇ /, /ㅇ /
ㄴ, ㄴ	/ㄴ /, /ㄷㅌ /	/ㄷ /		/ㄴ /
ㅈ, ㅈ	/ㅈ /, /ㄷㅌ /	/ㄷ /		/ㄴ /
ㅂ	/ㅂㅌ /	/ㅁ /		/ㅇ /
ㄱ	/ㄱㅌ /	/ㄱ /		/ㅇ /
ㅌ	/ㄷㅌ /	/ㄷㅌ /	/ㄷ /	/ㄴ /
ㄷ ㅎ	/ㄷㅌ /	/ㄷㅌ /		
ㄹ	/ㄹㅌ / *	/ㄹㅌ /	/ㄹ x /	
ㄹ	/ㄹㅁ / *		/ㄹ x /	
ㄹ ㅎ	/ㄹㅌ /			
ㄹ	/ㄹㅌ /		/ㄹ x /	
ㄹ	/ㄹ ㄱ /		/ㄱ /, /ㄹ x /	/ㅇ /
ㄹ ㅎ	/ㄹ ㅋ /			

ㅎ	/ㄷㅅㅎ/*	/ㄷㅅㅎ/	/ㄴ/
ㄷㅎ	/ㄷㅅ/*	/ㄷㅅㅎ/	
ㅇ	/ㅇ/*	/ㅇ x/	
ㄹㅇ	/ㄷㅇ/*	/ㅇ x/	
ㄴ	/ㄴ/*	/ㄴ x/	
ㄴㅅ	/ㄴㅅ/*	/ㄴ x/	
ㄴㅎ	/ㄴ/*	/ㄴㅎ/	
ㅇ	/ㅇ/		

2.2.3.5. 音素の交替－リエゾンと enchaînement, 濃音化－

(1)すでに 2.2.3.4.(b) で見たように朝鮮語では「終声＋母音」が「初声＋母音」と発音されることが多い。例えば次の文を参照せよ。

“을 언닌 오늘 오후 역 앞에 꼭 안 와.”

/우런니노느로후 여가페 꼬가놔.

/＜うちの姉さんは今日午後駅前にきつと来ないわ＞.

このように「終声＋母音」が「初声＋母音」のようにどんどん繋がることを enchaînement と呼ぶ。朝鮮人のこの enchaînement の現象は著しいもので、彼らが朝鮮語式発音で英語を話す時でさえ起こる。例: “not only but also”/널 오운리 벌 올소우/ → /너도운니버돌소우/ [nɔdounni pɔdolsou] cf. [nɔt ounli bʌt ɔːlsou]. 要するに彼らは文中にポーズ(休止)を置く以外はいつも enchaînement の連続であり、このことも朝鮮語を聞き取りにくくさせている原因である。

ところでさらに「子音＋ /i/, /y/」が「子音＋ /ni/, /ny/」のように間に /ㄴ/ が挿入されることがある。この /ㄴ/ は /ㄷㅅ/ の後ろで /ㄷㅅ/ に変化する。例えば次の文を参照せよ。

“문 열어! 난 집 옆에서 기다려. 한국 요리 먹으러 가자.”

/문너려! 난 짐너페서 기다려. 한국뇨리 머그려 가자./

「ドアを開けろよ。ぼくは家のそばで待っている。韓国料理を食べに行こう。」

“나도 갈 일이 있어. 난 역시 못 가.”

/나도 갈리리 이씨. 난녁씨 모까./

「ぼくも行くことがあるんだ。ぼくはやっぱり行けないね。」

これらはいずれも2つの単語の間で起きている。これをリエゾンと呼ぶ。以上のうち_の部分がリエゾン、__の部分が enchaînement, ___の部分が多い発音である(なお녀페の部分も同様)。リエゾンについては次の例を参照。

(i) 単語の間: “문 옆 (門一) ”/문넙 /＜ドアのそば＞ “발 옆”/발넙 /＜足のそば＞, “집 옆”/집넙 /＜家のそば＞, “발 옆”/반넙 /＜畑のそば＞, “책 옆”

/챙 념 / <本のそば>.

(ii) 合成語の形態素の間: “콩-엿”/콩넬/<大豆の朝鮮飴>, “논-일”/논닐/<田の仕事>, “물-약”/물락/<水薬>, “잣-엿”/잔넬/<松の実の朝鮮飴>, “밭-일”/반닐/<畑仕事>.

(iii) 漢字語で語幹と接尾辞の間: “맹장-염(盲腸炎)”/맹장넬/<盲腸炎>, “지식-욕(知識欲)”/지식낙/<知識欲>, “서울-역(一驛)”/서울럭/<ソウル駅>.

(iv) 接頭辞と語幹の間: “신-역장(新驛長)”/신-넬짱/<新驛長>, “군-일”/군닐/<むだなこと>, “첫-여름”/천녀름/<初夏>.

リエーゾンと enchaînement との起こる位置の違いは次のとおりである.

リ:リエーゾン, E: enchaînement.

他の単語 | 接頭辞 語幹 接尾辞 語尾 | 他の単語
(形態素+形態素)

E E E E E
리 리 리 리 리

Enchaînement は語幹と語尾の間(1.2.3.3. と 1.2.3.4.で述べた)以外で起きる. 従って次の例を参照せよ.

“밭-은”/밭튼/<畑は>, “밭-이”/밭치/<畑が>; “밭”/밭/<畑>, “밭 앞”/바답/<畑の前>.

“올-다”/올타/<正しい>, “올-은”/오른/<正しい>; “올-바르다”(北“올-바르다”/올-바르다/<正しい>).

“싫-다”/싫타/<嫌だ>; “싫-증나다”/싫증나다/<嫌気がさす>.

形態素 /쯔/ は /실/ の後ろで濃音化したものと思われる. つまり실のㄹ終声はここでは生かない. “올-바르다”の場合も同様だから, 韓国の表記は非合理的である.

語幹内部, 語幹と(接尾辞と)語尾の間にはリエーゾンは原則として起きない. また /i/ を頭音とする形態素の前では必ずリエーゾンが起こるわけではない. 例: “첫-인상(一印象)”/처단상/<第一印象>, “조선-일보(朝鮮日報)”/조서닐보/<朝鮮日報> “조선 여성”(北“조선 녀성”)/조선녀성/<朝鮮女性>参照.

Enchaînement とリエーゾンを混同する人がいるから注意されたい. リエーゾンはフランス語が有名だが, 例えばフランス語 “vous” [vu] <あなた>と“vous aimez” [vuzεme] <あなたは愛する>における [vu]: [vuz] の違いに朝鮮語の“엿”/엿/<そば>と“집 엿”/집넬/<家のそば>における/엿//yɔb/ : /넬//nyɔb/ の違いが対応する. すなわちフランス語のリエーゾンが 2 つの形態素のうち前のものの末音が付け加わるのに対して朝鮮語のそれは後ろのものの頭に音素が付け加わるという違いがあることになる. 朝鮮語ではリエーゾンの起きる位置は弱い.

(2) 用言連体形“-ㄹ”+口音

↓
激音

これは速い発音では義務的に起こる. また合成語化した形態素の間でも起こる. 以下の例を参照(下線部に注意).

“갈 이 갈 사 람 의 열 쇠 가 없 어 .”

/가 치 갈 싸라 메 열 췌가 업 써 /

「一緒に行く人の鍵がないよ。」

この濃音化はすでに 2.2.3.2.(2) (i), (ii) に述べた漢字語における濃音化と同じく義務的である. 以下の図を参照せよ. 漢濃:漢字音における≡の後ろの濃音化, ≡濃:用言連体形“-≡”の後ろの濃音化.

他の単語 | 接頭辞 語幹 接尾辞 語尾 | 他の単語
(形態素+形態素)
漢濃 漢濃
≡濃 ≡濃

これ以外の濃音化は合成語化した形態素の間でも 2 単語の間でも起き得るが, 法則性に欠けると言ってもよい.

“일 본 -사람 (日本一)"/일 본 싸람 /<日本人>, “내 것”/내 꺼 / (速 い 発音 /내 꺼 /)<わたしのもの>, “한 달 동안”/한 달 똥안 /<1 箇月間>.

2.2.3.6. 音素の交替—位置の強さの位階—

すでに 1.2.3.5.でリエーゾン, enchaînement, 濃音化の起こる位置を示したが, 今までに述べたすべての音素の交替の起こる位置を図示してみる. 表の縦の線は形態素の境界を示し(縦の線の左の子音は終声, 右の子音は初声), 下線部は交替を起こす音素を示す. 初声としての/≡/を持つものは漢字語か外来語である. E: enchaînement, 리:リエーゾン, 平:平音, 口:口音, 鼻:鼻音(初声は/ㄹ/と/ㄴ/, 終声は/ㄹ/と/ㅇ/), 母:母音. 左端の数字は本書で当該事項を扱った箇所の番号.

	他の 単語	単語					他の 単語	
		接頭辞	語 幹		接尾辞	語 尾		
			形態素+形態素					
2.2.3.5.(1)	E	E	E	E	E	E		a
2.2.3.5.(1)		リ	リ		リ		リ	a
2.2.3.5.(2)	≡	平	≡	平		≡	平	a

2.2.3.1.(1)	口	<u>平</u>	口	<u>平</u>	口	<u>平</u>	口	<u>平</u>	口	<u>平</u>	口	<u>平</u>	a
2.2.3.1.(2)①	<u>口</u>	<u>鼻</u>	<u>口</u>	<u>鼻</u>	<u>口</u>	<u>鼻</u>	<u>口</u>	<u>鼻</u>	<u>口</u>	<u>鼻</u>	<u>口</u>	<u>鼻</u>	a
2.2.3.1.(2)②	<u>口</u>	<u>ㄹ</u>	<u>口</u>	<u>ㄹ</u>	<u>口</u>	<u>ㄹ</u>	<u>口</u>	<u>ㄹ</u>		<u>口</u>	<u>ㄹ</u>		a ⁺
2.2.3.1.(3)Ⅱ	<u>鼻</u>	<u>ㄹ</u>	<u>鼻</u>	<u>ㄹ</u>	<u>鼻</u>	<u>ㄹ</u>	<u>鼻</u>	<u>ㄹ</u>		<u>鼻</u>	<u>ㄹ</u>		a ⁺
2.2.3.1.(3)Ⅰ				<u>ㄴ</u>		<u>ㄹ</u>							c
2.2.3.1.(3)Ⅱ	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>		<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>		a ⁺
2.2.3.1.(3)Ⅰ	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>		<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>		a
2.2.3.1.(4)	口	<u>ㅎ</u>	口	<u>ㅎ</u>	口	<u>ㅎ</u>	口	<u>ㅎ</u>	口	<u>ㅎ</u>	口	<u>ㅎ</u>	a
2.2.3.2.(1)		<u>ㄹ</u>		<u>ㄹ</u>									c [*]
2.2.3.2.(1)		<u>ㄹ</u>		<u>ㄹ</u>									c [*]
2.2.3.2.(1)		<u>ㄴ</u>		<u>ㄴ</u>									c [*]
2.2.3.2.(2)				<u>ㄹ</u>		<u>ㄴ</u>	<u>ㄹ</u>	<u>ㄴ</u>					c
2.2.3.2.(3)				<u>母</u>		<u>ㄹ</u>	<u>母</u>	<u>ㄹ</u>					c [*]
2.2.3.2.(4)				<u>母</u>		<u>ㄴ</u>							c
2.2.3.3.Ⅰ(1)								<u>ㅍ</u>					b
2.2.3.3.Ⅰ(2)								<u>ㅅ</u>					b
2.2.3.3.Ⅱ(3)								<u>ㅂ</u>	<u>ㅅ</u>				b
2.2.3.3.Ⅱ(4)								<u>ㄹ</u>	<u>ㄱ</u>				b
2.2.3.3.Ⅲ								<u>ㄴ</u>	<u>이</u>				b
2.2.3.4.								<u>ㅎ</u>	<u>ㄷ</u>				b
2.2.3.4.								<u>ㄹ</u>	<u>ㅎ</u>				b

[注]* 韓国の正書法でのみ。+ 北朝鮮の正音法では≡は交替を起こさない。

あらゆる位置で 2.2.2.5.(x), (xi), (xii), (xiii) に示した速い発音が起こり得る。

上の表で a はあらゆるものに優先する交替, b は終声に関するもの, c は漢字音に関するものである. このうち b は次の表のように位置の強さに位階がある(上から第1次的に強い位置, 第2次的に強い位置, 弱い位置). 1.2.3.4.参照.

ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㆁ	ㄷ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㆁ																
ㄱ					ㄴ					ㄷ					ㄹ					ㅁ					ㅂ					ㅅ					ㅇ				
ㄱ					ㄴ					ㄷ					ㄹ					ㅁ					ㅂ					ㅅ					ㅇ				

単語間にあらわれる上の表にある交替の一端を以下に示す.

“편지를 이 책”. “곧 나올 거야.” “여기 있는 라디오”

/ 퍽 쫘 은 책 / / 곤 나 올 꺼 야 / / 여 긴 느 나 디 오 /
「とてもよい本」「すぐ出てくるよ.」「ここにあるラジオ」

“갈 나 위 도 없 어.” “막 하 면 안 돼.”

/갈라 위 도 업 씨./ 마 카 면 안 돼./

「行く余地もない。」「でたらめにやったら駄目だ。」

“값-없다” /가 벌 따 /＜値が高い＞, “젓-어미” /저 더 미 /＜乳母＞, “울-오르
다” /오 도 르 다 /＜漆にかぶれる＞, “팔-알” /파 달 /＜小豆の粒＞,
“앞-앞이” /아 바 피 /＜各々に＞, “구인-란 (求人欄)” /구 인 난 /＜求人欄＞.

만 형 /만 텅 /＜長兄＞, cf. 굳 히 다 /굳 치 다 /＜固める＞, 맏 이 /마 지 /＜長子＞.

母音の前に来られない, 交替を起こさない品詞(副詞等)の口音終声は鼻音との交替をおこすのみであり, 口音自体が常に弱いから(すなわち第2次的に強い位置の音素), この場合の /ㄷ/ は“ㄴ”と書くことになっている. “갓”/갈 /＜たった今＞, “갓
났 다” /간 나 따 /＜たった今生れた＞; “못”/몰 /＜(不可能の副詞)＞, “못 본다”
/몰 뿐 다 /～/모 뿐 다 /＜見られない＞, “못 온 다” /모 돈 다 /＜来られない＞, 못
한 다 /몰 탄 다 /＜来られない＞; “헛-”/헛 - /＜接頭辞(中身の無い)＞,
“헛-되 다” /헛 댜 다 /～/허 댜 다 /＜むなしい＞, “헛-맹 세” /헛 맹 세 /＜無駄な誓い
＞, “헛-웃 음” /허 두 슴 /＜作り笑い＞.

形態素を成す異形態の間の音素の交替を扱う学問を形態音素論という. またそのような交替を形態音素論的交替と呼ぼう. 現代朝鮮語の形態音素論的交替はほぼ出
尽くしたが, それらを以下のように分類する(記号は上の表を参照).

I. 形態音素論的交替

(1) 音韻論的交替(交替が音論的に説明し得るもの):

(a) ㄱ平, ㄱ鼻, ㄱㄹ, 鼻ㄹ, ㄴㄹ, ㄹㄴ, ㄱㅎ, (b) ㅍ, ㅅ, ㅃ, ㄷ, ㅎㄷ,
ㄹㅎ.

(2) 非音韻論的交替(交替が音論的に説明し得ないもの):

(i) 位置的交替(交替が一定の規則性を持つもの): (a) 리 어 조
ン, (b) 드 이 (c) ㄴㄹ, ㄹ, 리, ㄴ, ㄹㄷ, 母ㄹ, 母ㄴ.

(ii) 非位置的交替(交替に規則性が見られないもの): 語彙的濃音化(1.2.3.5.参
照).

II. 形態音素論的交替を成さない音素

例えば日本語で /syacyoozuki/ は下線部が /suki/ と交替している時は「社長好
き」, /cuki/ と交替している時は「社長付」であり, これは形態音素論的交替を成す例
である. 「いなりずし」の下線部は「すし(寿司)」との交替をなすが, 「おずし(御厨子)」
の下線部は交替をなさない. また「みず(水)」の「ず」は初めから交替とは関係がない.
すなわち次のようになる.

/z/ — /s/と交替を起こすもの(「じ」, 「ず」で表記される).

/c/ と交替を起こすもの(「ち」, 「づ」で表記される).

/z/ — 交替を起こさないもの(「じ」, 「ず」で表記される).

まったく同じ関係が朝鮮語にもある. 例えば /집 만 / の下線部は /집 / と交替を起

こすものと起こさないものとあり前者の場合はさらに집<家>と交替を起こすものと 짚<藁>と交替を起こすものとがあり, 後者は /짐/<荷物>と関係付けられるが, 交替は成さない. さらに /얼만/<お母ちゃんは> の下線部の終声は交替とは初めから関係がない. すなわち次のようになる.

/m/ — /b/ と交替を起こすもの(“ㅁ”と表記される).

— /p/ と交替を起こすもの(“ㅍ”と表記される).

/m/ — ① 交替を起こさないもの(“ㅁ”と表記される).

— ② 初めから交替と関係がないもの(“ㅁ”と表記される).

2.2.3.7. 音素の交替—ソウル方言の場合—

2.2.3.3. (1), (2), (3), (4) のうち体言に現われるものはソウル方言では以下のように特別な様相を呈する. ソ:ソウル方言.

(1)

/ㅁ/+/ㅍ/: /집 픈/, ソ /지 븐/“짚은”<藁は>:/집/“짚”<藁>.

/ㄷ/+/ㅌ/: /발 틈/, ソ /바 슌/“밭은”<畑は>:/발/“밭”<畑>.

/ㄱ/+/ㅋ/: /부엌 큰/, ソ/부어 큰/“부엌은”<台所は>:/부엌/“부엌”<台所>

(2)

/ㅈ/: /나 즌/, ソ /나 슌/“낮은”<昼は>:/날/“낮”<昼>.

/ㄷ/+/ㅌ/: /빛 즌/, ソ /비 슌/“빛은”<光は>:/빛/“빛”<光>.

(3)

/ㅁ/+/ㅍ/: /값 슌/あるいは ソ /가 븐/“값은”<値段は>:/값/“값”<値段>.

/ㄱ/+/ㅋ/: /삭 슌/あるいは ソ/사 큰/“샅은”<賃金は>:/삭/“샅”<賃金>.

(4)

/ㅊ/+/ㅋ/: /달 큰/, ソ /다 큰/“닭은”<鶏は>:/닭/“닭”<鶏>.

これを要するにソウル方言では終声は実質的に非常に簡単になっていることを知る. “ㄱ”, “ㄷ”を除いて体言におけるほとんどの特殊な終声は実質的に差がなくなっているということである.

/ㅁ/ ㅁ, ㅍ, ㅂ

/ㅈ/ ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㅍ

/ㄱ/ ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ

ただし“ㅁ”と“ㄷ”は簡単化したものとそうでないものと双方が共存し, “ㅍ”, “ㅌ”の場合も全面的に簡単化したわけではない(“앞”<前>, “옆”<横>, “끝”<はじ, 終り>, “결”<わき>等). “ㄷ”は日常的でない単語では簡単化が行われない(“기슭”<山麓>等). 助詞 /-에/, /-으로/ (方向) が付いた時は簡単化しない場合が年寄りの言葉に見られる(“밭에”<畑に>, “밭으로”<畑に>, “부엌에”<台所に>). “낮에”<昼に>は常に/나 제/ と言われる.

なお現代朝鮮語には /ㅁ/ 終声は体言に現われず, /ㅈ/ がその役割をになっている. 外来語“포켓”/포켄/<ポケット>, “포켓은”/포케슨/<ポケットは>参照. ま

た次の例参照(韓国人の英語の発音から): “굿”/굳/<good>, “굿은”/구슨/<good は>.

ソウル方言は発音どおりに書かれることはないが, 朝鮮人が本を読む時にしばしば書き言葉どおりの発音がなされる.

2.2.3.8. 音素の交替—語彙的濃音化—

すでに 2.2.3.5., 2.2.3.6. で言及した語彙的濃音化について述べる. 濃音化は「母音, 鼻音, 流音+平音」の場合に平音が濃音に変わるものを言う. 言い換えるなら母音, 鼻音, 流音の後ろでの平音と濃音の交替(代表は濃音)と言える.

語彙的濃音化とここで呼ぶものはいろいろのパターンがあり得る.

(1) 比較的規則性があると思われるもの:

(a) 一部の名詞の頭音で. “내 것”/내꺼/<わたしのもの>, “선생님 것”/선생님께/<先生のもの>; “한 해 동안”/한해동안/<1年の間>, “일 년 동안”/일년동안/<1年間>; “배 속”/배속/~/뱃속/<腹の中>. “물 속”/물속/<水の中>.

(b) 合成語の中の第2要素の頭音で. “일본사람(日本—)”/일본사람/<日本人>, “몽골사람”/몽골사람/<モンゴル人>; “길가”/길가/<道端>, “강가”/강가/<川辺>, “바닷가”/바닷가/<海辺> [北] “바다가”; “온돌방(一房)”/온돌방/<オンドル部屋>, “문간방(門間房)”/문간방/<門のそばの部屋>.

(2) ほとんど規則性を求められないもの: 合成語の中の第2要素の頭音で.

“물병(一瓶)”/물병/<水入れの瓶>, 등불/등불/<灯火>, “봄바람”/봄바람/<春風>, “치맛바람”/치맛바람/<颯爽としたチマ姿> [北] “치마바람”.

ほとんど規則性を求められないものにも規則性にはさまざまな段階があり得る. しかしいずれにせよ確とした規則が見出せない以上辞書にないこの種の単語での濃音化についてはいちいち朝鮮人に尋ねるしかない. 日本語には連濁という現象があるが(「たな(棚)」—「ほんだな(本棚)」, 「はこ(箱)」—「ほんばこ(本箱)」, 「かわ(革)」—「ほんがわ(本革)」, 規則があるようでないのと似ている. 日本語では仮名で書く時は発音どおりに(すなわち音素の通りに)書くが, 漢字で書くと濁音化を無視する. この際正確に読めるのが日本人だけであるのはこれに規則性がないことによる.

この連濁と似た朝鮮語の濃音化では表記は日本語の連濁における漢字表記と似ている. つまり濃音を表記しないのである. ただし韓国では母音の後ろだけは“ㄴ”終声を書く. これは第2次的な強い位置の音素/ㄴ/に対応すると考えたらよく, 従って/ㄴ/は鼻音の前で/ㄴ/となる. 韓国ではこの場合も“ㄴ”終声が書かれる. 次を参照せよ. ①はかつて北朝鮮が採用したことがあり, ②と③は韓国が採用したことがある.

	韓国	北朝鮮	①	②	③
/길가/<道端>	길가	길가	길'가	길ㅅ가	길ㅎ가

/바닷까/<海辺> 바닷가 바다가 바다'가 바다스가 바다ㅎ가
/바닷물/<意味の水> 바닷물 바다물 바다'물 바다스물 바다ㅎ물

①の「'」という記号はかつて北朝鮮で“사이표(一票)”<間の記号>と呼ばれたが, 漢字語やその他の規則性ある濃音化の表記としては用いられなかった. これはまた単語の中のリエーゾンの表記(漢字語以外)としても用いられた. “콩'엿”/콩넬/<大豆の朝鮮飴>. また次の場合は濃音化とリエーゾンが重なったものである. “아랫니”/아랜니/</아래+ㄷ+ㄴ+이/><下の歯>(北 “아래이”, かつて“아래'이”); “윗니”/윈니/</위+ㄷ+ㄴ+이/><上の歯>(北 “우이”, かつて“우'이”). 韓国でなぜこの場合“니”と書くのかは不可解である. 中期朝鮮語では“니”だったが, 現代語では“이”<歯>である.

しかし韓国では母音の後ろで“ㄴ”終声を書くという規則もきちんと守られないことが多く, 濃音化は, やはり表記されないリエーゾンとともに, 外国人泣かせである. しかもそのことに気づかない朝鮮人が多い.

2.3.1. 正書法

今まで朝鮮語の複雑な形態音素論的交替について述べてきた. 近代国家はその言語の表記の体系をある程度科学的に研究し, 法制化している. そのような規則の総体を正書法という. 正字法ともいう. 南北朝鮮とも極めて厳密な正書法を定めている. 日本語の場合は現代仮名遣いが正書法といえるが, これは歴史的仮名遣いの表記を改訂するという方法で行われたため, いろいろと問題がある.

正書法には形態音素論的交替の表記が問題となる. 例えば英語の過去形と過去分詞形 /steɪd/ {stayed}<滞在した>, /bɛgd/ {begged}<請うた>, /geɪzd/ {gazed}<凝視した>—/ɪmˌbedɪd/ {embedded}<埋めた>, /ˌstɑːtɪd/ {started}<動き出した>—/laɪkt/ {liked}<好んだ>, /dɑːnst/ {danced}<踊った>; 3 人称単数現在形 /steɪz/ {stays}<滞在する>, /bɛgz/ {begs}<請う>, /ɪmˌbedz/ {embeds}<埋める>—/ˌdɑːnsɪz/ {dances}<踊った>/ˌgeɪzɪz/ {gazes}<凝視する>—/laɪks/ {likes}<好む>, /stɑːts/ {starts}<動き出す>; 名詞複数形 /bɔɪz/ {boys}<少年>, /dɒgz/ {dogs}<犬>, /hændz/ {hands}<手>—/desks/ {desks}<机>, /kæts/ {cats}<猫>—/ˌbʌsɪz/ {buses}<バス>, /ˌrouzɪz/ {roses}<バラ>の表記は不完全ながらも形態音素論的なものと言える. 以下を参照せよ.

表記 “-ed” — 音韻論的交替 [-t]~[-d], 位置的交替 [-t]/[-d]~[-ɪd].

表記 “-s”, “-es” — 音韻論的交替 [-s]~[-z], 位置的交替 [-s]/[-z]~[-ɪz].

朝鮮語 /질만/ <荷物だけ / 家だけ / 藁だけ>に関しては以下を参照. /ㅅ/ ~ /ㅍ/ , /ㅂ/ ~ /ㅍ/ は音韻論的交替である.

表記 “ㅁ” — “짐” <荷物>.

表記 “ㅂ” — “집” <家>.

表記 “ㅅ” — “짚” <藁>.

ここで表記 “ㅁ”, 表記 “ㅂ”, 表記 “ㅅ” は各々の交替のうち(表記 “ㅁ” の場合を除

き)正書法で選ばれた表記であるが,このように正書法のために選ばれた表記を正字素(орфографема, orthographeme)と呼ぼう. 正字素とは複数の異形態から代表形として選ばれるもののの中の音素に対応する文字のことである. 言語学的に確定し得る代表形と正書法による正字素とが必ずしも一致するとは限らない.

世界の正書法にはいろいろな原則に基づくものがある.

音韻論的原則:スペイン語, フィンランド語, インドネシア語, エスペラント, トルコ語, サンスクリット語, 中国語(注音符號), 日本語(現代仮名遣い).

音韻論的原則(短母音を除き):アラビア語, ペルシア語.

形態音素論的原則:ドイツ語, ロシア語, 朝鮮語.

歴史的原則:日本語(歴史的仮名遣い), 英語, フランス語, タイ語, モンゴル語(モンゴル文字).

音声的原則:中国語(拼音(ピンイン)), モンゴル語(キリル字).

正書法のないもの:中国語(漢字).

英語などは正しい綴りは辞典の中にあるとさえ言え, いちいち発音辞典がなければ正確に読めもせず, 極めて無原則である. かつて日本の歴史的仮名遣いもそうだった. 中国語の漢字はもともと表意文字だから, 正書法とはなんらの関係もない. 日本語の現代仮名遣いは概して音素論的原則によるが, いわゆる四つ仮名, すなわち「じ」:「ぢ」, 「ず」:「づ」の用法に関する限り形態音素論的原則に従う(1.2.3.6.参照). 日本語の現代仮名遣いは助詞の「は」, 「へ」, 「を」; 長母音での「えい」:「ええ」, 「おう」:「おお」の書き分けは歴史的原則に従う. 東京で普通 /yuu/ という動詞を「いう(言う)」と書くのもここに属するか?

朝鮮語の綴りも極めて複雑で, 朝鮮人にとっても甚だ書きづらく間違えやすいものだが, 英語とは違って極めて論理的だから, 論理的にさえ考えれば, 必ず正確に書ける. とはいえここにはまださまざまな理論的問題が残されている.

形態音素論的原則を採用する言語はいずれも形態音素論的交替の甚だしい言語である. 朝鮮語もかつては音韻論的原則に基づく正書法が用いられていた(朝鮮総督府のもの). それは書きやすいが読みにくく, 現行の正書法(朝鮮語学会のものに基礎を置く)は書きにくい読みやすい.

このように正書法は一度確定したら, 今度は書かれたものをどのように読むかという問題が起こるわけである. 朝鮮人にとっては自分の知っている言語の諸現象を分析して無意識のうちに形態音素論的交替を考慮して表記するわけだが, 外国人にとってはあらかじめ決められた表記を読むという作業をすればよいだけである. よく朝鮮人は外国人にこの難しい正書法をあなたはなぜ正しく書けるのかという質問をするが, それは外国人が正しい表記から学び, 正しい形しか知らないからである.

正書法を扱う学問を正書法論という. 朝鮮語の正書法は形態音素論的に極めて複雑であるにも拘わらず, 今まで経験的に論ぜられただけで, 学問としてきちんと論ぜられたことがない. この点でロシア語の正書法のようにきちんとした学問的基礎を持ったものにもっと見習う必要がある.

形態音素論の原則を採用する正書法はどの言語でも強い位置の音素を正字素とする(上記の朝鮮語 /짚만/ における“짚”, “짹”, “짹”の終声の表記を参照). 朝鮮語も原則として同じだが(1.2.3.6. の表参照), 交替のない位置(すなわち強いかわ弱いかわ決められない場合)では音素がそのまま表記されるのである(/엄만/ “엄만” <お母ちゃんは>). ただし「口音+平音」では注意を要する.

/몫ㅅ / “몫ㅅ” <とても>の“ㅅ”は歴史的には /ㅅ/ に符合し, さらに現代語の音素もそうであるのに“ㅅ”と書かれるのだが, /참ㅅ / “참ㅅ” <もち米>では“ㅅ”は歴史的に /ㅅ/ に符号し, さらに現代語の音素もそうである. /낙ㅅ / “낙ㅅ” <釣り>は古くは“낙이”に符号したと思われ, 発音もそのままだが, 現代語の動詞“낙-”にただ“-ㅅ”なる要素を付けた. /닥ㅅ리다 / “닥ㅅ리다” <直面する>は接尾辞 /-ㅅ리다/ を生かしてこう書かれた. ただし/막ㅅ대기 / “막ㅅ대기” <棒>参照.

つまり現代語の正書法では「口音+濃音」はその「濃音」が他の異形態で「濃音」と確認される場合はそれを表記し(“ㅅ” <米>, “-ㅅ리다” <-させる>), そうでない場合は「平音」を書くものである(“몫ㅅ” <とても>, “낙ㅅ” <釣り>, “막ㅅ대기” <棒>). つまり“몫ㅅ”の/ㅅ/ はもはやいかなる形態素ともつながりが感じられないのである.

要するに/口音+濃音/の表記“口音+濃音”は交替を起こさないもの(先の/짚만 / “짚만” <荷物だけ>の終声), “口音+平音”は初めから交替と関係のないもの(先の /엄만 / “엄만” <お母ちゃんは>の終声)にあたる.

一般に次のように言い得る. 弱い位置の音素がある形態素の音素と一致する時, その音素は正字素として採用し得る(“참ㅅ”, “닥ㅅ리다”参照). しかし弱い位置の音素が交替を起こさないがためにその基本形が不明の場合は弱い音素でも強い音素でも正字素として採用し得る(“엄만” [弱い音素], しかし“몫ㅅ”, “낙ㅅ”, “막ㅅ대기” [強い音素]). 現代朝鮮語の正書法はこの点で特異だと言ってよい. 多分ここでも朝鮮語の歴史的な表記が関係しているのだろう.

2.3.2. 正字素 / 音素の対応

以下に正字素と音素の対応を示すが, 記号“ ”を省略する.

ハングルは正字素を表す.

[]は文字の置かれた条件を示す. // : 上と同じ.

+A: Aの前. A+: Aの後ろ.

初: 初声, 終: 終声. E: enchaînement.

[北]: 北朝鮮, [南]: 韓国; [漢]: 漢字語, [外]: 外来語のみ.

[速]: 速い発音, [話]: 話し言葉, [ソ]: ソウルの話し言葉, [書]: 書きことば.

鼻音(初声は/ㄴ /, /ㄴ /, 終声は/ㄴ /, /ㄴ /, /ㄴ /), 流音/ㄹ /, 母音, 口音 /ㄴ /, /ㄴ /, /ㄴ /等はいずれも文字を示す.

鼻音は終声ㄴ, ㄴ, ㄴを含む. 流音は終声ㄹ, ㄹ, ㄹ, ㄹを含む. 口音はㄴ,

ㄹ, ㄷ; ㄷ, ㅌ, ㄷ, ㅌ, ㅌ, ㅌ; ㄱ, ㄴ, ㄴ, ㄴ 終声を含む.

連体ㄹ: 用言連体形Ⅱ-ㄹ 形.

下線部はその音節の中の終声あるいは初声が早い発音で変化をこうむる可能性を示す.

(1) 子音字

ㄱ 初 [語頭]/ㄱ/ 길 /길/<道>, 구 (九)/구/<九>.

[ㄱ. 口音+]/ㄱ/ 곧 길 떠나 /곧길떠나/<すぐ出発するよ>.

[ㄱ. 連体ㄹ+]/ㄱ/ 갈 길 /갈길/<行くべき道>.

[ㄱ. 一部の単語. 固有語数詞+]/ㄱ/ 한 칸 (一間)/한칸/<一間>, 두 칸 (一間)/두칸/<二間>.

[ㄱ. ㄱ. 名詞, 代名詞(名格, 属格)+]/ㄱ/ 제 것 /제것/<わたくしのもの>, 선생님 건 /선생님건/<先生のものは>, 선생님의 것 /선생님께건/<先生のもの>.

[ㄱ. 名数詞. 여덟, 열+]/ㄱ/ 여덟 권 (一卷)/여덟권/<八冊>, 열 권 (一卷)/열권/<十冊>.

[語中. 形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+]/ㄱ/ 가구 (家具)/가구/<家具>, 신고 (申告)/신고/<申告>, 살균 (殺菌)/살균/<殺菌>.

[ㄱ. ㄱ. 口音+]/ㄱ/ 골목길 /골목길/<路地>, 입국 (入國)/입국/<入国>, 각국 (各國)/각국/<各国>.

[ㄱ. ㄱ (用言語尾). 母音, 鼻音, 流音+]/ㄱ/ 가고 /가고/<行つて>, 알고 /알고/<知つて>, 감기다 /감기다/<巻かれる>.

[ㄱ. ㄱ (一部の接尾辞). 母音, 鼻音, 流音+ 漢]/ㄱ/ 인사과 (人事課) /인사과/<人事課>, 안과 (眼科)/안과/<眼科>, 엄격 (嚴格)/엄격/<嚴格>, 입장권 (入場券)/입장권/<入場券>, 탈격 (脱格)/탈격/<脱格>.

[ㄱ. ㄱ (一部の用言語尾). 流音+ 北]/ㄱ/ 갈가 /갈까/<行こうか> (南)갈까 /갈까/).

[ㄱ. ㄱ (用言語尾). ㄱ, ㄷ, ㄷ, ㄷ, ㄴ, ㄴ+]/ㄱ/ 넘고 /넘고/<越えて>, 삶고 /삶고/<煮て>, 얇고 /얇고/<薄くて>, 핥고 /핥고/<なめて>, 신고 /신고/<履いて>, 앉고 /안고/<座つて>.

[ㄱ. ㄱ (ㄱ). ㅎ, ㄴ, ㄷ+]/ㄱ/ 넣고 /넣고/<入れて>, 많고 /만고/<多くて>, 앓고 /알고/<病んで>.

[ㄱ. ㄱ (ㄱ). 口音+]/ㄱ/ 입고 /입고/<着て>, 깎고 /깎고/<削つて>, 벗고 /벗고/<脱いで>.

[ㄱ. ㄱ (用言接尾辞). ㄱ, ㄷ, ㄴ+]/ㄱ/ 남기다 /남기다/<残す>, 옮기다 /옮기다/<移す>, 안기다 /안기다/<抱かれる, 抱かせる>.

>.

[〃. 〃 (用言接尾辞). 신 +]/ㄱ, ㄴ/ 신기다 /신기다, 신끼다/
<履かせる>.

[〃. 〃 (一部の単語で). 鼻音, 流音 +]/ㄴ/ 산길 /산길/<山道
>, 강가 /강까/<川辺>, 길가 /길까/<道 端>.

[〃. 〃 (北 一部の単語で). 母音の後 +]/ㄷ ㄴ/ 바다가 /바달
까/<海辺> (南 바닷가 /바달까/).

[〃. 形態素の中間]/ㄱ/ 바구니 /바구니/<籠>, 당기다 /당기다/
<引っ張る>, 갈기다 /갈기다/<ひっぱたく>.

終 [語末]/ㄱ/ 국 /국/<スープ>, 각 (各)/각/<各々>.

[〃. +鼻音, 流音]/ㅇ/ 국 먹어 /국머거/<スープを飲む>.

[〃. +母音]E /ㄱ/ 국 있어 /구길써/<スープがある>.

[〃. +/i/, /j/]/ㅇ ㄴ/ 국 옆 /국옆/<スープの横>.

[〃. +ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㅎ 速]/ㄷ ㄴ/ 국 가지고/구까지고/<スープでもっ
て> (/국까지고/), 국 하나 /구카나/<スープ一つ> (/국
카나/).

[語中(形態素末). +口音]/ㄱ/ 먹다 /먹따/<食 べ る >, 먹고
/먹꼬/<食 べ て >, 먹지 /먹찌/<食 べ る よ >, 먹습니다
/먹습니다/<食べます>, 각도 (角度)/각또/<角度>, 국가
(國家)/국까/<国家>, 각지 (各地)/각찌/<各地>,
각별 (格別)/각뿔/<格別>, 각성 (覺醒)/각甦/<覺醒>.

[〃 (〃). +ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㅎ 速]/ㄷ ㄴ/ 국까지<スープまで
>/구까지/(/국까지/), 국하고 /구카고/ <スープと> (/국카
고/), 국가 (國家)/구까/(/국까/)<国家>, 국화 (國花)/구과/<国花
> (/국과/), 식칼 (食一)/시칼/<包丁> (/식칼/),
먹고 /머꼬/<食べて> (/머꼬/).

[〃 (〃). +鼻音, 流音]/ㅇ/ 국물 /국물/<スープ>, 탁류 (濁
流)/탕류/<濁流> (北/탕류/), 국만 /국만/<스ूप도>, 먹는
/멍는/<食べる>.

[〃 (〃). +母音]E /ㄱ/ 국은 /구근/<スープは>, 국어 (國語
) /구거/<國語>, 속이다 /소기다/<騙す>, 먹은 /머근/<食べた
>.

[〃 (〃. 一部の単語で) +/i/, /j/]/ㅇ ㄴ/ 가족용 (家族用)/가족용/
<家族用>, 악영향 (惡影響)/악영향/<惡影響>.

ㄴ 初 [語頭]/ㄴ/ 까치 /까치/<かささぎ>.

[語中(形態素の頭)]/ㄴ/ 집까지 /집까지/<家まで>.

[〃 (形態素の中間)]/ㄴ/ 아까 /아까/<さっき>.

終 [語末]/ㄴ/ 밖 /밖/<外>.

- [" . + 鼻音, 流音] / ㅁ / 밖 밀고 /방 밀고 / <外を押して> .
- [" . + 母音] E / ㅁ / 밖 안고 /바깸고 / <外を抱いて> .
- [" . + ㅁ [速]] / 제로 / 밖 가지고 /바까지고 / <外でもって> .
- [語中 (形態素末) . + 口音] / ㅁ / 닦다 / 닦따 / <磨く> , 닦고 / 닦
고 / <磨いて> , 닦지 / 닦찌 / <磨くよ> , 닦습니다 / 닦습니다 /
<磨きます> .
- [" (") . + ㅁ , ㅁ [速]] / 제로 / 닦고 / 닦고 / <磨いて> (/ 닦고 /
) , 밖까지 /바까지 / <外まで> (/ 밖까지 /) .
- [" (") . + 鼻音] / ㅁ / 닦는 / 닦는 / <磨く> , 밖만 /방만 / <外だけ> .
- [" (") . + 母音] / ㅁ ㅁ / 닦아 / 닦까 / <磨いて> , 밖에 / 밖에 /
<外に> , 깎이다 / 깎까다 / <削られる> .
- [" (") . " [速]] E / ㅁ / 닦아 / 닦까 / <磨いて> (/ 닦까 /) , 밖에
/바께 / <外に> (/ 바께 /) , 깎이다 / 깎까다 / <削られる> (/ 깎
까다 /) .
- [" . (") . + ㅁ [速]] / 제로 / 밖하고 /바카고 / <外と> (/ 바카고 /
) .
- ㄴ 終 [語末] / ㅁ / 닳 / 닳 / <魂> .
- [" . + 鼻音, 流音] / ㅁ / 닳 만 닳다 / 닳 만 닳따 / <魂に会った> .
- [" . + 母音] E / ㅁ / 닳 없어 /사겔씨 / <給料はないよ> .
- [" . + ㅁ , ㅁ] / 제로 / 닳 가지고 /사까지고 / <給料でもって> (/
/ 닳까지고 /) , 닳 하나 /사카나 / <給料ひとつ> (/ 닳카나 /) .
- [語中 (形態素末) . + 口音] / ㅁ / 닳도 / 닳또 / <魂 も > , 닳까지
/ 닳까지 / <魂まで> .
- [" (") . + ㅁ , ㅁ [速]] / 제로 / 닳까지 / 닳까지 / <魂まで> (/ 닳
까지 /) , 닳하고 / 닳카고 / <魂と> (/ 닳카고 /) .
- [" (") . + ㅁ] / ㅁ / 닳만 / 닳만 / <魂だけ> .
- [" (" . + 語尾) . + 母音] / ㅁ ㅁ / 닳은 / 닳은 / <魂は> (/ 닳은 /) , 닳이
/ 닳씨 / <魂まで> (/ 닳기 /) .
- [" (" . ") + 母音 [ㅅ]] E / ㅁ / 닳은 / 닳은 / <魂は> (/ 닳은 /) ,
다 / 닳기 / <魂が> (/ 닳씨 /) .
- [" (" . + 自立語) + /i/, /j/ 以外の母音] E / ㅁ / 닳없이 / 닳겔씨 / <ぼ
んやりと> .
- [" (" . + 自立語) + /i/, /j/] / ㅁ ㅁ / 닳일 / 상닐 / <賃仕事> .
- ㄷ 初 [語頭] / ㅁ / 나라 / 나라 / <国> , 남 (南) / 남 / <南> , [北] 漢 노동
(労働) / 노동 / <労働> ([南] 로동 (労働) / 로동 /) , [北] 녀성 (女性
) / 녀성 / <女性> ([南] 여성 (女性) / 여성 /) .
- [" (連体 ㅁ +)] / ㅁ / 갈 나라 / 갈라라 / <行くべき国> .
- [語中 (形態素の頭)] / ㅁ / 분노 (憤怒) / 분노 / <憤り, 憤怒> .

[ㄴ(ㄴ). ㄹ, ㄹㄹ, ㄹㅎ, ㄹㅎ+]/ㄹ/ 칼날 /칼날/<刀の刃>, 핏는 /할른/<なめる>, 앓는 /알른/<病む>, 얇네 /열레/<薄い>, 팔년(八年)/팔런/<八年>, [北] 한난계(寒暖計)/할란계/<寒暖計>([南] 한란계 /할란계/).

[ㄴ(形態素の中間). ㄹ, ㄹㄹ, ㄹㅎ以外+]/ㄴ/ 자네 /자네/<君>, 언니 /언니/<(女の)姉>, [南] 아내 /아내/<妻>([北] 안해 /안해, 아내/).

終 [語末]/ㄴ/ 안 /안/<内>, 산(山)/산/<山>.

[語末. +ㅁ, ㅁ, ㅁㅁ, ㅁㅁ [速]]/ㅁ/ 안 본다 /안본다/<見ない>(/안본다/), 안 뻐다 /안뻐다/<吸わない>(/안뻐다/), 안 판다 /안판다/<売らない>(/안판다/), /산 보고(山一) /삼보고/<山を見て>(/산보고/).

[語末. +ㄱ, ㄱ, ㄱㅁ [速]]/ㅇ/ 안 간다 /안간다/<行かない>(/안간다/), 안 깎는다 /안깎는다/<削らない>(/안깎는다/), 암 캔다 /암캔다/<掘らない>(/암캔다/), 산 가고 /상가고/(山一)<山に行つて>(/상가고/).

[ㄴ. +/i/, /j/ 以外の母音]E/ㄴ/ 산 위(山一)/사뉘/<山の上>, 안 온다 /아논다/<来ない>.

[ㄴ. +/i/, /j/]/ㄴㄴ/ 산 옆(山一)/산넙/<山の横>, 안 연다 /안넙다/<開けない>.

[語中(形態素の中間)]/ㄴ/ 언니 /언니/<姉(妹から見て)>.

[ㄴ(形態素末)+ㄹ以外の子音]/ㄴ/ 신문(新聞)/신문/<新聞>, 산만(山一)/산만/<山だけ>, 산비탈(山一)/산비탈/<山の傾斜面>, 한국(韓國)/한국/<韓国>, 산까지(山一)/산까지/<山まで>, 천킬로(千一)/천킬로/<千キロ>, 안기다 /안기다/<抱かれる, 抱かせる>, 신기다 /신기다, 신끼다/<履かせる>, 신고 /신고/<履いて>, 신지 /신찌/<履くよ>, 신습니다 /신습니다/<履きます>, 산지(山地)/산지/<山地>, 산소(山所)/산소/<墓>, 전화(電話)/전화/<電話>.

[ㄴ(ㄴ). +ㅁ, ㅁ, ㅁㅁ, ㅁㅁ [速]]/ㅁ/ 신문(新聞)/신문/<新聞>(/신문/), 산만(山一)/삼만/<山だけ>(/삼만/), 산비탈(山一)/삼비탈/<山の傾斜面>(/삼비탈/).

[ㄴ(ㄴ). +ㄱ, ㄱ, ㄱㅁ [速]]/ㅇ/ 한국(韓國)/한국/<韓国>(/한국/), 산까지(山一)/상까지/<山まで>, 천킬로(千一)/청킬로/<千キロ>(/천킬로/), 안기다 /안기다/<抱かれる, 抱かせる>(/안기다/), 신기다 /싱기다, 신끼다/<履かせる>(/신기다, 신끼다/), 신고 /싱고/<履いて>

- > (/신꼬/).
- [“(”). +ㄷ [漢]/ㄷ/ 신라 (新羅)/실라/<新羅>.
- [“(”). +ㄷ (接尾辞) [漢]/ㄴ/ 생산량 (生産量)/생산량/<生産量> (北 /생산량/).
- [“(”). +母音]E/ㄴ/ 산이 /사니/<山が>, 관여 (關與)/과녀/<關與>, 신은 /시느/<履いた>.
- [“(”). 接頭辞, 自立語+ + /i/, /j/]/ㄴㄴ/ 신여성 (新女性)/신녀성/<新女性> (北 신녀성 /신녀성/).
- [“(”). +ㅌ [速]E/ㄴ/ 산하교 /사나고/<山が> (/산하교/), 전화 (電話)/저냐/<電話> (/전화/).
- ㄴ 終 [語中(形態素末). +口音]/ㄴ/ 앉다 /안따/<座る>, 앉고 /안꼬/<座って>, 앉지 /안찌/<座るよ>, 앉습니다 /안쓰니다/<座ります>.
- [“(”). +ㅍ [速]/ㅇ/ 앉고 /앙꼬/<座って> (/안꼬/).
- [“(”). +母音]/ㄴㅈ/ 앉은 /안즌/<座った>.
- [“(”). +ㅁ]/ㄴㅈ/ 앉히다 /안치다/<座らせる>.
- ㄴ 終 [語中(形態素末). +子音]/ㄴ/ 많다 /만타/<多い>, 많고 /만코/<多くて>, 많지 /만치/<多いよ>, 많습니다 /만쓰니다/<多いです>.
- [“(”). +ㅍ [速]/ㅇ/ 많고 /망코/<多くて> (/만코/).
- [“(”). +母音]E/ㄴ/ 많은 /마느/<多い>, 앓은 /아느/<しなかった>, 끊이다 /끄니다/<絶える>.
- ㄷ 初 [語頭]/ㄷ/ 달 /달/<月>.
- [“(”). 口音+]/ㄷㅌ/ 석달 /석딸/<三月>.
- [“(”). 連体ㅈ+]/ㄷㅌ/ 우리가 볼 달 /우리가 볼딸/<われわれの見るだろ
う月>.
- [“(”). 一部の単語. 名詞+]/ㄷㅌ/ 오년 동안 /오년똥안/<5年の間>, 일주일 동안 /일쥬일똥안/<1週間の間>.
- [“(”). 名数詞. 여덟, 열+]/ㅌ/ 여덟 달 /여덜딸/<八ヶ月>, 열 달 /열딸/<十ヶ月>.
- [語中(形態素の頭)母音, 鼻音, 流音+]/ㄷ/ 가다 /가다/<行く>, 알다 /알다/<知る>, 감동 (感動)/감동/<感動>, 말도 /말도/<馬も>, 여덟도 /여덜도/<八つも>.
- [“(”)口音+]/ㄷㅌ/ 입다 /입따/<着る>, 듣다 /들따/<聞く>, 읽다 /익따/<読む>, 각도 (角度)/각또/<角度>, 밥도 /밥또/<飯も>, 옷도 /오틈/<服も>.
- [“(”). 用言語尾)鼻音, ㄹ, ㄹㅈ+]/ㄷㅌ/ 넘다 /넌따/<越える>, 삶다 /삼따/<煮る>, 얇다 /열따/<薄い>, 핏다 /할따/

- <なめる>, 신다 /신타/<履く>, 앉다 /안타/<座る>.
 [“(”. ”). ㅎ, ㄴㅎ, ㄹㅎ +]/ㄷ/ 넣다 /넉타/<入れる>, 많다 /만타/<多い>, 앓다 /알타/<病む>.
 [“(”. 単語히울のみ). ㅎ +]/ㄷ/ 히울도 /히을또/<히을も>.
 [“(”). 漢 ㄹ +]/ㄷ/ 일단 (一旦)/일판/<一旦>.
 [“(”. 一部の単語で). 鼻音, 流音 +]/ㄷ/ 다음달 /다음딸/<翌月>, 일월달 (一月一)/이월딸/<一月>.
 [“(”)北 一部の単語で. 母音 +]/ㄷ/ 오래동안 /오래또안/<長い間> (南 오랫동안 /오랫동안/).
 [“(”(形態素の中間)母音, 子音 +]/ㄷ/ 가득 /가득/<いっぱい>, 막대기 /막때기/<棒>, 겨드랑이 /겨드랑이/<わき腹>.
 終 [語末]/ㄷ/ 곧 /곧/<すぐ>.
 [“(”. +鼻音, 流音]/ㄷ/ 곧 나와 /곧나와/<すぐ出て来い>.
 [“(”. +母音]E /ㄷ/ 곧 와 /고와/<すぐ来る>.
 [“(”. +/i/, /j/]/ㄷ/ 곧 열어 /곧녀러/<すぐ開けろ>.
 [“(”. +口音, ㅎ 速]/ㄷ/ 곧 가 /고까/<すぐ行け>(/곧까/), 곧 닦아 /고따까/<すぐ拭け>(/곧딱까/), 곧 받아 /고빠다/<すぐ受け取れ>(/곧빠다/). 곧 자 /고짜/<すぐ寝ろ>(/곧짜/), 곧 사 /고싸/<すぐ寝ろ>(/곧싸/), 곧 해 /고태/<すぐしろ>(/곧태/).
 [語中(形態素末). +口音]/ㄷ/ 굳다 /굳따/<固い>, 굳고 /굳꼬/<固くて>, 굳지 /굳찌/<固いよ>, 굳습니다 /굳습니다/<固いです>, 맏딸 /맏딸/<長女>, 맏사위 /맏싸위/<長女の嫁>, 뜯기다 /뜯끼다/<むしられる>.
 [“(”). +口音速]/ㄷ/ 굳다 /구따/<固い>(/굳따/), 굳고 /구꼬/<固くて>(/굳꼬/), 굳지 /구찌/<固いよ>(/굳찌/), 굳습니다 /구습니다/<固いです>(/굳습니다/), 맏딸 /마딸/<長女>(/맏딸/), 맏사위 /마싸위/<長女の嫁>(/맏싸위/), 뜯기다 /뜨끼다/<むしられる>(/뜯끼다/).
 [“(”)+鼻音]/ㄷ/ 굳네 /군네/<固い>, 맏며느리 /만며느리/<長男の嫁>, 이튿날 /이튼날/<翌日>.
 [“(”)+ㅁ 速]/ㅁ/ 맏며느리 /맏며느리/<長男の嫁>(/만며느리/).
 [“(”)+이以外 の 母音]E /ㄷ/ 굳은 /구든/<固い>, 맏아들 /마다들/<長男>.
 [“(”)+이]E /ㅈ/ 굳이 /구지/<固く>, 맏이 /마지/<長子>.
 [“(”. +接尾辞)+히]/ㄷ/ 굳히다 /굳치다/<固める>.

- [〃 (〃 . + 自立語) + 히] / ㄷ 티 / 만 형 / 만 형 / < 長兄 > .
- ㄸ 初 [語頭] / ㄸ / 딸 / 딸 / < 娘 > .
 [語中 (形態素 の 頭)] / ㄸ / 만 딸 / 만 딸 / < 長女 > .
 [〃 (形態素 の 中間)] / ㄸ / 보 따 리 / 보 따 리 / < 風呂敷 包 み > .
- ㄹ 初 [語頭] / ㄹ / 南 外 라 디 오 / 라 디 오 / < 라 ジ オ > (北 라 지 오 / 라 지 오 /); 北 漢 로 동 (勞 動) / 로 동 / < 勞 働 > (南 노 동 (勞 動) / 노 동 /), 北 료 리 (料 理) / 료 리 / < 料 理 > (南 요 리 (料 理) / 요 리 /).
- [〃 . ㄴ + 南] / ㄴ / 여 기 있 는 라 디 오 / 여 기 인 는 나 디 오 / < こ こ に あ る ラ ジ オ > (北 라 지 오 / 라 지 오 /).
- [〃 . 〃 北] / ㄹ / 여 기 있 는 라 지 오 / 여 기 인 는 라 지 오 / < こ こ に あ る 라 ジ オ > (南 라 디 오 / 나 디 오 /). 漢 힘 든 로 동 (勞 動) / 힘 든 로 동 / < き つ い 勞 働 > (南 노 동 (勞 動) / 노 동 /), 맛 있 는 료 리 (料 理) / 마 신 는 료 리 / < お い し い 料 理 > (南 요 리 (料 理) / 요 리 /).
- [語中 (漢 形態素 の 頭) . ㄹ , ㄴ +] / ㄹ / 물 리 (物 理) / 물 리 / < 物 理 > , 신 라 (新 羅) / 실 라 / < 新 羅 > , 南 한 란 계 / 할 란 계 / < 寒 暖 計 > (北 한 난 계 (寒 暖 計) / 할 란 계 /).
- [〃 (漢 〃) ㄴ + 南] / ㄴ / 생 산 량 (生 産 量) / 생 산 량 / < 生 産 量 > (北 / 생 산 량 /).
- [〃 (漢 〃) 〃 北] / ㄹ / 생 산 량 (生 産 量) / 생 산 량 / < 生 産 量 > (南 / 생 산 량 /).
- [〃 (漢 〃) ㄹ , ㄴ 以外 の 子 音 + 南] / ㄴ / 심 리 (心 理) / 심 니 / < 心 理 > (北 / 심 리 /), 독 립 (獨 立) / 동 립 / < 獨 立 > (北 / 동 립 /).
- [〃 (漢 〃) 〃 北] / ㄹ / 심 리 (心 理) / 심 리 / < 心 理 > (南 / 심 니 /), 독 립 (獨 立) / 동 립 / < 獨 立 > (南 / 동 립 /).
- [〃 (漢 〃) 鼻 音 , ㄴ , ㄴ + 렌 , 를 北] / ㄹ / 분 렌 (分 裂) / 분 렌 / < 分 裂 > (南 / 부 념 /), 행 렌 (行 列) / 행 렌 / , 선 를 (旋 律) / 선 를 / < 旋 律 > (南 / 서 념 /), 격 렌 (激 烈) / 경 렌 / (南 / 경 념 /).
- [〃 (漢 〃) 母 音 + 렌 , 를 北] / ㄹ / 계 렌 (系 列) / 계 열 / < 系 列 > (南 계 렌 / 계 열 /), 비 를 (比 率) / 비 율 / < 比 率 > (南 비 율 / 비 율 /).
- 終 [語末] / ㄹ / 날 / 날 / < 日 > , 굴 (橘) / 굴 / < 蜜 柑 > .
 [〃 . + /i/, /j/ 以外 の 母 音] E / ㄹ / 칼 앞 / 카 랍 / < 刀 の 前 > .
 [〃 . + /i/, /j/] / ㄹ ㄹ / 칼 옆 / 칼 럽 / < 刀 の 横 > .
- [語中 (形態素 末) . + 子 音] / ㄹ / 달 갈 / 달 갈 / < 卵 > (北 닭 알 / 달 갈 /), 결 핵 (結 核) / 결 핵 / < 結 核 > , 알 고 / 알 고 / < 知 っ て > , 알 지 / 알 지 / < 知 る よ > .

[“(”). +母音]E /ㄹ/ 날이 /나리/<日が>, 굴욕(屈辱)/구
 록/<屈辱>, 기울이다 /기우리다/<傾ける>.

[“(”).一部の単語で +/i/, /j/]/ㄹㄹ/ 물약(一藥)/물락/<水
 藥>.

[“(”). +ㄹ [速]E /ㄹ/ 칼하고 /카라고/ /칼하고/ <刀と>, 결핵
 (結核)/겨랙/<結核>(/결핵/).

ㄹ 終 [語末]/ㄹ/ 닭 /닥/<鶏>.

[“(”. +鼻音, 流音]/ㅇ/ 닭 먹어 /당머거/<鶏を食え>.

[“(”. +/i/, /j/ 以外の母音]E /ㄹ/ 닭 앞 /다갑/<鶏の前>.

[“(”. +/i/, /j/]/ㅇㄹ/ 닭 옆 /당넵/<鶏の横>.

[“(”. +ㄹ, ㄹ [速]/ㄹ로/ 닭 가지고 /다까지고/<鶏でもって>
 (/닥까지고/), 닭 한 마리 /다캄마리/<鶏一羽>(/닥칸마리
 /).

[語中(形態素末). +鼻音 と ㄹ 以外の 子音]/ㄹ/ 읽다 /익따/<読む
 >, 읽지 /입찌/<読むよ>, 읽습니다 /익습니다/< 읽습니다
 >.

[“(”)+ㄹ [北]/ㄹ/ 읽고 /익꼬/<読んで>([南] /일꼬/).

[“(”)“(” [北] [速]/ㄹ로/ 읽고 /이꼬/<読んで>([南] /일꼬
 /).

[“(”. 用言で]+ㄹ [南]/ㄹ/ 읽고 /일꼬/<読んで>.

[“(”)+ㅇ, ㄹ]/ㅇ/ /ㄹ/ 닭만/당만/<鶏 だけ >, 읽는다
 /잉는다/<読む>.

[“(”. 用言で). +母音]/ㄹ/ 읽은 /일근/<讀んだ>.

[“(”. 一部の体言で). “ [書]/ㄹㄹ/ 닭은 /달근/<鶏は>
 ([話] /다근/).

[“(”. “). “]/ㄹㄹ/ 기슭은 /기슬근/<麓は>.

[“(”. “). “ [話]E /ㄹ/ 닭은 /다근/<鶏は>([書] /달근/).

[“(”. 体言)+ㄹ, ㄹ [速]/ㄹ로/ 닭고기 /다꼬기/<鶏肉>(
 /닥꼬기/), 닭하고 /다카고/<鶏と>(/닥카고/).

[“(”. 用言)+ㄹ]/ㄹㄹ/ 읽히다 /일키다/<読まれる>.

ㄷ 終 [語末]/ㅇ/ /삼/ 삶<生>.

[“(”. +母音]E /ㅇ/ 삶 앞에 /사말페/<生の前に>.

[語中(形態素末). +子音]/ㅇ/ 삶만 /삼만/<生 だけ >, 삶다
 /삼따/<煮る>, 삶고 /삼꼬/<煮て>, 삶지 /삼찌/<煮るよ
 >, 삶습니다 /삼습니다/<煮ます>.

[“(”)+母音]/ㄹㅇ/ 삶은 /살은/<生は>, <煮た>.

[“(”)+ㄹ [速]/ㅇ/ 삶고 /상꼬/<煮て>(/삼꼬/), 옮기다
 /옹기다/<移す>(/올기다/).

- [" (") + ㄹ [速] / ㄹ / 삶하고 / 사마고 / <生と> / 삼하고 / .
- ㄹ 終 [語末] / ㄹ / 여덟 / 여덜 / <八つ> .
- [" . + 母音] / ㄹ / * 여덟 위 / 여더위 / <八つの上> .
- [語中(形態素末. 形容詞). + 子音 [南] / ㄹ / 얇다 / 열따 / <薄い> (北 / 열따 /), 얇고 / 열고 / <薄くて> (北 / 열고 /), 얇지 / 열찌 / <薄いよ> (北 / 열찌 /), 얇습니다 / 열습니다 / <薄いです> (北 / 열습니다 /) .
- [" (" . ") . + ㄴ , ㄹ 以外の子音 [北] / ㄹ / 얇다 / 열따 / <薄い> (南 / 열따 /), 얇고 / 열고 / <薄くて> (南 / 열고 /), 얇지 / 열찌 / <薄いよ> (南 / 열찌 /), 얇습니다 / 열습니다 / <薄いです> (南 / 열습니다 /) .
- [" (" . 動詞). + ㅁ 音] / ㄹ / 밟다 / 밥따 / <踏む> .
- [" (" . 形容詞). + ㄴ [北] / ㄹ / 얇네 / 염네 / <薄いね> (南 / 열네 /) .
- [" (" . 動詞). + ㄴ] / ㄹ / 밟네 / 밤네 / <踏むね> .
- [" (" . ") . + ㄴ [速] / ㄹ / 밟고 / 바고 / <踏んで> (/ 밟고 /) .
- [" (" . 用言) + 母音] / ㄹ ㅁ / 얇은 / 열븐 / <薄い> , 밟은 / 발븐 / <踏んだ> .
- [" (" . 体言) + 母音 [書] / ㄹ ㅁ / 여덟은 / 여덜븐 / <八つは> (話 / 여더븐 /), 여덟으로 / 여덜브로 / <八つでもって> (話 / 여덜로 /) .
- [" (" . ") + 母音 [話] / ㄹ / 여덟으로 / 여덜로 / <八つでもって> (書 / 여덜브로 /) .
- [" (" . ") + 母音 [話] E / ㄹ / 여덟은 / 여더븐 / <八つは> (書 / 여덜븐 /) .
- [" (" . ") + ㅁ 音] / ㄹ / 여덟도 / 여덜도 / <八つも> , 여덟조차 / 여덜조차 / <八つさえ> .
- [" (" . ") + ㄹ [話] / ㄹ / 여덟하고 / 여덜하고 / <八つと> .
- [" (" . ") + ㄹ [話] [速] E / ㄹ / 여덟하고 / 여더라고 / <八つと> (/ 여덜하고 /) .
- [" (" . 用言) + ㄹ] / ㄹ ㅁ / 넓히다 / 널피다 / <広げる> , 밟히다 / 발피다 / <踏まれる> .
- ㄹ 終 [語末] / ㄹ / 윗 / 올 / <償い> , 곧 / 골 / <道筋> .
- [語中(形態素末). + 母音 [書] / ㄹ ㅁ / 외곶으로 / 웨골쓰로 / <一筋に> (話 / 웨골로 /) .
- [語中(形態素末). + 母音 [話] / ㄹ / 외곶으로 / 웨골로 / <一筋に> (書 / 웨골쓰로 /) .
- ㄹ 終 [語中(形態素末). + 子音] / ㄹ / 핏다 / 핏따 / <なめる> , 핏고 / 핏고 / <

なめて>, 할지 /할찌/<なめるよ>, 합니다 /합니다/<なめします>.

[ㄴ(ㄴ). +/i/, /y/ 以外の母音]/ㄹㄹ/ 할은 /할튼/<なめた>.

[ㄴ(ㄴ). +/i/, /y/]/ㄹㅌ/ 할이다 /할치다/<なめられる>.

- ㄹㄹ 終 [語中(形態素末). +平音]/ㄹ/ 읊다 /읊따/<詠ずる>, 읊고 /읊꼬/<詠じて>, 읊지 /읊찌/<詠ずるよ>, 읊습니다 /읊습니다/<詠じます>.

[ㄴ(ㄴ). +ㄴ]/ㄹ/ 읊는 /음는/<詠ずる>.

[ㄴ(ㄴ). +母音]/ㄹㅌ/ 읊은 /을픈/<詠じた>.

- ㄹㅌ 終 [語中(形態素末). +平音]/ㄹ/ 앓다 /알타/<病む>, 앓고 /알코/<病んで>, 앓지 /알찌/<病むよ>, 앓습니다 /알습니다/<病みます>, 뚫리다 /뚫리다/<(穴が)あけられる>, 参考: [北] 옳바르다 /올바르다/<正しい> [南] 옳바르다), 싫증 /실증/<嫌気>.

[ㄴ(ㄴ). +母音]E /ㄹ/ 앓은 /아른/<病んだ>, 끓이다 /끄리다/<沸かす>.

- ㄹ 初 [語頭]/ㄹ/ 말 /말/<馬>, 막 (幕)/막/<幕>.

[語中(形態素の頭)]/ㄹ/ 말만 /말만/<馬だけ>, 우마 (牛馬) /우마/<牛馬>.

[語中(形態素の中間)]/ㄹ/ 어머니 /어머니/<母>.

- 終 [語末]/ㄹ/ 섬 /섬/<島>, 삼 (三)/삼/<三>.

[ㄴ. +/i/, /j/ 以外の母音]E /ㄹ/ 섬 앞 /서앞/<島の前>.

[ㄴ. +/i/, /y/]/ㄹ/ 섬 옆 /섬옆/<島の横>.

[ㄴ. +ㅌ [速]E /ㄹ/ 섬 하나 /서마나/<島一つ> (/섬하나/).

[ㄴ. +ㄱ, ㄴ, ㄷ [速]E /ㄹ/ 섬 가지고 /성가지고/<島でもって> (/섬가지고/).

[語中(形態素の中間)+子音]/ㄹ/ 섬기다 /설기다/<仕える>.

[ㄴ(ㄴ). +ㄱ, ㄴ, ㄷ [速]/ㄹ/ 섬기다 /성기다/<仕える>

(/설기다/), 삼키다 /상키다/<飲み込む> (/삼키다/).

- [ㄴ(形態素末). +子音]/ㄹ/ 검다 /검따/<黒い>, 검고 /검꼬/<黒く>, 검지 /검찌/<黒いよ>, 검습니다 /검습니다/<黒いです>.

[ㄴ(ㄴ). +ㄱ, ㄴ, ㄷ [速]/ㄹ/ 검고 /경꼬/<黒く> (/검꼬/

), 섬까지 /성까지/<島まで> (/설까지/), 삼킬로 (三一)

/상킬로/<三キロ> (/삼킬로/), 남기다 /남기다/<残す> (/남기다/).

[ㄴ(ㄴ). +ㅌ [速]E /ㄹ/ 섬하고 /서마고/<島と> (/섬하고/)

- [ㄴ(形態素末). +母音]E /ㄹ/ 검은 /거른/<黒い>, 암약 (暗躍)

/아막/<暗躍>.

ㄷ 初 [語頭]/ㅍ / 바다 /바다/<海>, 방 (房)/방/<部屋>.

[ㄴ. 口音+]/ㅍ / 곧 방에 갈게 /곧방에 갈게/<すぐ部屋に行くよ>.

[ㄴ. 連体+]/ㅍ / 갈 바 /갈빠/<行くべきこと>.

[ㄴ. 名数詞. 여덟, 열+]/ㅍ / 여덟 번 (一番)/여덟번/<八回>, 열 번 (一番)/열번/<十回>.

[語中. 形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+]/ㅍ / 나보다 /나보다/<わたしより>, 산비탈 (山一)/산비탈/<山の傾斜面>, 아침부

터 /아침부터/<朝から>, 뚱뚱보 /뚱뚱보/<太っちよ>, 안부 (安否)/안부/<安否, 消息>.방법 (方法)/방법/<方法>. 参

考:[南]올바르다 /올바르다/<正しい>[北]올바르다 /올바르다/).

[ㄴ. ㄴ. 口音+]/ㅍ / 앞바다 /앞빠다/<沖>, 낮보다 /날보다/<昼より>, 악법 (惡法)/악법/<惡法>.

[ㄴ. ㄴ (一部 の 接尾辞). 母音, 鼻音, 流音+漢]/ㅍ / 소아병 (小兒病)/소아병/<小兒病>, 정신병 /정신병/(精神病)<精神病>, 전염병 (傳染病)/전염병/<伝染病>, 조울병 (躁鬱病)/조울병/<躁鬱病>, 헌법 (憲法)/헌법/<憲法>.

[ㄴ. ㄴ (一部の単語で). 鼻音, 流音+]/ㅍ / 안방 (一房)/안방/<朝鮮式家屋の居間>, 심보 /심보/<根性>, 땅바닥 /땅빠닥/<地面>, 발병 /발병/<足の病>.

[ㄴ. ㄴ ([北] 一部の単語で). 母音の後+]/ㅍ / 뒤바침 /뒤빠침/<裏づけ>[南]뒤틀바침 /뒤빠침/).

[ㄴ. 形態素の中間]/ㅍ / 나비 /나비/<蝶々>, 심부름 /심부름/<使い>, 갈비 /갈비/<あばら肉を焼いた料理>.

終 [語末]/ㅍ / 집 /집/<家>, 십 (十)/십/<十>.

[ㄴ. +鼻音, 流音]/ㅍ / 집 많아 /집마나/<家がいっぱいある>, 우리 집 라디오 /우리집나디오/<うちのラジオ>[北]라디오/).

[ㄴ. +/i/, /y/ 以外の母音]E /ㅍ / 집 앞 /지바/<家の前>.

[ㄴ. +/i/, /y/]/ㅍ / 집 옆 /짐넙/<家の横>.

[ㄴ. +ㅍ, ㅍ, ㅍ; ㅍ, ㅍ, ㅍ; ㅎ [速]/ 제로 / 집 본다 /지본다/<留守番をする>(/집본다), 집 가지고 /지까지고 <家で持って>(/집까지고/), 집 한 채 /지판채/<家一軒>(/집판채/).

[語中(形態素末). +口音] /ㅍ / 집들이 /집뜨리/<新居への入居>, 입국 (入國)/입국/<入国>, 입고 /입고/<着て>, 입지 /입찌/<着るよ>, 입습니다 /입습니다/<着ます>.

[ㄴ (ㄴ). +ㅍ, ㅍ, ㅍ, ㅎ [速]/제로/ 입국 (入國)/이국/<入

国>(/일국/), 집까지 /지까지/<家まで>(/집까지/), 십킬로
(十一)/시킬로/<十 キ ロ>(/십킬로/), 입고 /이꼬/<着 て>(/일꼬/) 집하고 /지파고/<家と>(/집파고/), 집합(集合)
)/지팍/<集合>(/집팍/), 뽑히다 /뽑피다/<引き抜かれる>(/뽑피다/).

[“(”). +鼻音, 流音]/ㅁ/ 집모기 /짐모기/<家蚊>, 집록(輯
錄)/짐록/(北 /짐록/<集録>. 집만 /짐만/<家だけ>.

[“(”). +母音]E /ㅁ/ 집안 /지반/<身内>, 답안(答案)/다
반/<答案>.

[“(”. 自立語)+ /i/, /j/]/ㅁ / 집일 /짐닐/<家の仕事>.

ㄴ 終 [語末]/ㅁ/ 값 /갑/<値段>.

[“(”. +鼻音, 流音]/ㅁ/ 값 몰라 /감몰라/<値段を知らないよ>

[“(”. +/i/, /y/ 以外の母音]/ㅁ/ 값 위 /가뷔/<値段の上>.

[“(”. +/i/, /y/]/ㅁ/ 값 옆 /감녘/<値段の横>.

[“(”. +ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㅎ [速]/ゼロ/ 값 가지고/가까지고/<値段でもって>
>(/갈까지고/), 값 하나 /가파나/<値段一つ>(/갑파나
/).

[語中(形態素末. 存在詞). +口音]/ㅁ/ 없다 /업따/<ない>,
없고 /업꼬/<なく>, 없지 /업찌/<ないよ>, 없습니다
/업쌔/<ありません>.

[“(”. ”). +ㄱ[速]/ゼロ/ 없고 /어꼬/<ない>(/업꼬/).

[“(”. ”). +鼻音]/ㅁ/ 없네 /엄네/<ないね>, 값만
/감만/<値段だけ>.

[“(”. 体言)+母音]/ㅁㅅ/ 값은 /갑슨/<値段は>. 参考:값
어치 /가버치/<値打ち>.

[“(”. ”)+“(書]E /ㅁ/ 값은 /가븐/<値段は>([書/갑슨/).

[“(”. ”)+ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㅎ [速]/ゼロ/ 값까지/가까지<値段まで>
>(/갈까지/), 값하고 /가파고/<値段と>(/갈파고/
).

[“(”. ”. 自立語)+母音]E /ㅁ/ 값없다 /가범따/<高価 だ>.
参考:값어치 /가버치/<値打ち>.

ㄷ 初 [語頭]/ㅅ/ 소 /소/<牛>, 산(山)/산/<山>.

[“(”. 口音+]/ㅅ/ 곧 사 /곧싸/<すぐ買え>.

[“(”. 連体=+]/ㅅ/ 갈 사람 /갈싸람/<行く人>.

[“(”. 名数詞. 여덟, 열+]/ㅅ/ 여덟 살 /여덜쌀/<八歳>, 열 살
/열쌀/<十歳>.

[語中. 形態素の頭 母音, 鼻音, 流音+]/ㅅ/ 마소 /마소/<牛馬>,
인삼(人蔘)/인삼/<朝鮮人蔘>, 밤새/밤새/<夜中>, 앙심(快

心)/양심/<恨み>, 잘살다 /잘살다/<よい暮らしをする>.

[ㄴ. ㄴ. 口音, ㅎ+]/ㄴ/ 목소리 /목소리/<声>, 밥상 (一床)/
 밥상/<膳>, 옷소매 /올소매/<袖>, 앞산 (一山) /앞산/<南の
 山>, 낯설다/낯설다/<見慣れない>, 학생 (學生)/학생/<学
 生>, 있습니다 /있습니다/<あります>, 좋습니다 /좋습니다/<よ
 いです>.

[ㄴ. ㄴ (用言語尾). 鼻音, 流音+]/ㄴ/ 심습니다 /심습니다/<植えます
 >, 옮습니다 /옮습니다/<移します>, 신습니다 /신습니
 다/<履きます>, 얇습니다 /안습니다/ <しません>, 얇습니다
 /얇습니다/<薄い>, 핥습니다 /핥습니다/<舐めます
 >, 많습니다 /만습니다/<多いです>.

[ㄴ. ㄴ. 漢 ㅎ+]/ㄴ/ 일신 (一新)/일신/<一新>.

[ㄴ. ㄴ (一部の接尾辞). 母音, 鼻音+ 漢]/ㄴ/ 유사성 (類似性
)/유사성/<類似性> (北 류사성/류사성/), 안전성 (安全性)/안
 전성/<安全性>, 공공성 (公共性)/공공성/<公共性>.

[ㄴ. ㄴ (一部の単語で). 鼻音, 流音+]/ㄴ/ 안사람 /안사람/
 <家内>, 열쇠 /열쇠/<鍵>, 알사탕 (一砂糖)/알사탕/<飴玉
 >.

[ㄴ. ㄴ (北 一部の単語で). 母音+]/ㄴ/ 우사람 /올사람/<目
 上の人> (南 웃사람 /웃사람/).

[ㄴ. ㄴ (北 一部の単語で). 母音+ 速]/ㄴ/ 우사람 /우사람/
 <目上の人> (/올사람/) (南 웃사람 /웃사람, 위사람/).

[ㄴ. 形態素の中間]/ㅅ/ 가시 /가시/<棘>, 염소 /염소/<山羊
 >, 앙살 /앙살/<大げさな反抗> 낚시 /낚시/<釣り>, 몹시
 /몹시/<非常に>.

終 [語末]/ㄷ/ 옷 /옷/<服>.

[ㄴ. +鼻音, 流音]/ㄷ/ 옷 많아 /온마나/<服がいっぱいある>, 못
 넘는다 <越えられない>/못넘는다/, 못묻는다 /묻는다
 다/<問えない>.

[ㄴ. +ㅁ 速]/ㅁ/ 옷 많아 /온마나/<服がいっぱいある> (/온마
 나/) 못묻는다 /묻는다/<問えない> (/묻는다/).

[ㄴ. +/i/, /y/ 以外の母音]E /ㄷ/ 옷 안 /오단/<服の内側>, 못 온다
 /모든다/<来られない>.

[ㄴ. +/i/, /y/]/ㄷ/ 옷 옆 /온옆/<服の横>, 못 연다 /문낸다/
 <開けられない>.

[ㄴ. +口音, ㅎ 速]/ㄷ/ 옷 가지고 /오까디고/<服でもって
 > (/올까지고/), 옷 한 벌 /오탄벌/<服一着> (/올탄벌/
), 옷 받고 /오빠꼬/<服を受け取って> (/올빨꼬/), 옷 받는다

/모뻐는다/<受 け 取 れ な い >(/몰뻐는다/), 못 뻐다 /모뻐다/<吸えない>(/몰뻐다/), 못 판다 /모판다/<売れない>(/몰판다/), 못 듣는다 /모듣는다/<聞けない>(/몰듣는다/), 못 탄다 /모탄다/<摘めない>(/몰탄다/), 못 준다 /모준다/<与えられない>(/몰준다/), 못 찬다 /모찬다/<寝られない>(/몰찬다/), 못 간다 /모간다/<行けない>(/몰간다/), 못 깎는다 /모깎는다/<削れない>(/몰깎는다/), 못 캔다 /모캔다/<掘れない>(/몰캔다/), 못 한다 /모한다/<出来ない>(/몰한다/).

[語中(形態素末). +口音, ㅎ] /ㄷ/ 웃걸이 /올꺼리/<ハンガー>, 웃도 /올또/<服も>, 웃고 /올꼬/<笑って>, 웃지 /올찌/<笑うよ>, 웃습니다 /올씁니다/<笑います>, 웃하고 /올타고/<服と>, 다섯날 /달썩날/<五日>.

[ㄴ(ㄴ). +口音, ㅎ [速]/ㄷ/ 웃걸이 /오꺼리/<ハンガー> (/올꺼리/), 웃도 /오또/<服も> (/올또/), 웃고/우꼬/<笑って> (/올꼬/), 웃지 /우찌/<笑うよ> (/올찌/), 웃습니다 /우씁니다/<笑います> (/올씁니다/), 웃하고 /오타고/<服と> (/올타고/), 다섯날 /다썩날/<五日> (/달썩날/).

[ㄴ(ㄴ). +鼻音, 流音]/ㄴ/ 웃는 /운는/<笑う>, 웃만/온만/<服だけ>, 다섯날 /달썩날/<五日>.

[ㄴ(ㄴ). +母音]E /ㅅ/ 웃은 /오슨/<服は>, 웃은 /우슨/<笑った>.

[ㄴ(ㄴ. 自立語)+/i/, /j/ 以外の母音]E /ㄷ/ 웃안 /오단/<服の内側>.

[ㄴ(ㄴ. ㄴ)+/i/, /j/]/ㄴㄴ/ 웃잇몸 /원닌몸/<上の歯茎> (北 우이몸 /운닌몸/).

ㄴ 初 [語頭]/ㄴ/ 쌀 /쌀/<米>, 씨족(氏族)/씨족/<氏族>.

[語中(形態素の頭)]/ㄴ/ 좁쌀 /좁쌀/<粟>, 성씨(姓氏)/성씨/<姓氏>.

[ㄴ(形態素の中間)]/ㄴ/ 아가씨 /아가씨/<お嬢さん>.

終 [語中(形態素末). +口音]/ㄷ/ 있다 /을따/<いる>, 있고 /을꼬/<いて>, 있지 /을찌/<いるよ>, 있습니다 /을씁니다/<います>.

[ㄴ(ㄴ). +ㄴ [速]/ㄷ/ 있다 /이따/<いる> (/을따/), 있고 /이꼬/<いて> (/을꼬/), 있지 /이찌/<いるよ> (/을찌/), 있습니다 /이씁니다/<います> (/을씁니다/).

[ㄴ(ㄴ). +鼻音]/ㄴ/ 있는 /인는/<いる>.

[ㄴ(ㄴ). +母音]/ㄷㅅ/ 있어 /을써/<いて>.

- [〃 (〃). 〃 [速]E /ㅍ/ 있어 /이써/<いて>(/일써/).
- 初 [語頭]/ㄱ/ 아이 /아이/<子供>, 약 (藥)/약/<藥>, 漢 [南]
 요리 (料理)/요리/<料理>([北] 료리 (料理)/요리/), 漢 [南]
 여성 (女性)/여성/<女性>([北] 녀성 (女性)/녀성/).
- [語中(一部の自立語の頭)]≡以外の子音+ +/i/, /j/]/ㄴ/ 밤일
 /밤닐/<夜の 仕事>. 반일 /반닐/<半分 の 仕事>, 앞일
 /앞닐/<将来のこと>, 밭일 /반닐/<畑仕事>, 부엌일 /부엌닐/
 <台所仕事>, 정열 (情熱)/정닐/<情熱>, [南] 분열 (分裂)
 /부닐/<分裂>([北] 분렬 (分裂)/분렬/), [南] 운율 (韻律
)/우닐/<韻律>([北] 운률 (韻律)/운률/).
- [〃 (〃) ≡ + +/i/, /j/]/ㄹ/ 물약 (藥)/물락/<水藥>.
- [〃 (〃) 母音+ 〃 [北]/ㄴㄴ/ 우이 /운니/<上齒>([南] 윗니
 /윈니/).
- [〃 (形態素の中間)]아이 /아이/<子供>.
- 終 [語末]/ㅇ/ 똥 /똥/<糞>, 강 (江)/강/<河>.
- [〃 . +/i/, /y/]/ㅇㄴ/ 강 옆 (江 一)/강넙/<河の横>.
- [語中(形態素の中間)]/ㅇ/ 종이 /종이/<紙>.
- [〃 (形態素末)]/ㅇ/ 종이 (鍾一)/종이/<鐘が>, 종말 (終末
)/종말/<終末>.
- ㄸ 初 [語頭]/ㄸ/ 자 /자/<ものさし>, 잔 (盞)/잔/<杯>.
- [〃 . 口音+]/ㅈㅈ/ 곧 자 /곧짜/<すぐ寝る>.
- [〃 . 連体≡+]/ㅈㅈ/ 설 자리 /설짜리/<立つべき場>.
- [〃 . 名数詞. 여덟, 열+]/ㅈㅈ/ 여덟 잔 (一盞)/여덟잔/<八杯>, 열
 잔 (一盞)/열잔/<十杯>.
- [語中. 形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+]/ㅈㅈ/ 가지 /가지/<行くよ>,
 알지 /알지/<知る よ >, 안전 (安全)/안전/<安全>,
 영수증 (領收證)/영수증/<領收証>([北] 령수증 /령수짱/), 말
 조차/말조차/<馬さえ>, 여덟조차 /여덟조차/<八つさえ>, 다
 람쥐 /다람쥐/<栗鼠>.
- [〃 . 〃 . 口音+]/ㅈㅈ/ 곧장 /곧짱/<すぐさま>, 입지 /입찌/<着るよ
 >, 듣지 /듣찌/<聞く よ >, 읽지 /익찌/<読む よ >, 학자
 (學者)/학짜/<學者>.
- [〃 . 〃 (用言語尾). 鼻音, ㄹ, ㄹ+]/ㅈㅈ/ 심지 /심찌/<植えるよ>, 옮지
 /옮찌/<移すよ>, 신지 /신찌/<履くよ>, 핥지 /할찌/<舐めるよ>,
 얇지 /얇찌/<薄いよ>.
- [〃 . 〃 (用言語尾). ㅎ, ㄴ, ㄴ+]/ㅈㅈ/ 좋지 /죵치/<よいよ>, 많지
 /만치/<多い よ >, 앓지 /알치/<病 む よ >. 参考:싫증
 /실짱/<嫌気>.

- [〃, 〃 (単語히을のみ). ㅎ +]/ㄸ/ 히을조차 /히을또차/<히을さえ>.
- [〃. 〃. 漢 ㄹ +]/ㄸ/ 발전(發展)/발뎌/<発展>.
- [〃. 〃 (一部の接尾辞). 母音, 鼻音 + 漢]/ㄸ/ 한자 (漢字)/한
ㅈ자/<漢字>, 문자(文字)/문ㅈ자/<文字>, 면허증(免許證)/면
허ㅈ증/<免許証>, 학생증(學生證)/학쌩ㅈ증/<学生証>, 살인죄
(殺人罪)/사린췌/<殺人罪>.
- [〃. 〃 (一部の単語で). 鼻音, 流音 +]/ㄸ/ 손짓 /손ㅈ짓/<手振り
>, 몸짓 /몸ㅈ짓/<身振り>, 술집 /술ㅈ집/<飲み屋>.
- [〃. 〃 (北 一部の単語で). 母音 +]/ㄷ ㄸ/ 담배재 /담뽠재/<タバコの
灰>(南 담뽠재 /담뽠재/).
- [〃. 〃 (北 一部の単語で). 母音 + 速]/ㄸ/ 담배재 /담배재/<タバコ
の灰>(南 담뽠재 /담뽠재, 담배재/).
- [〃. 形態素の中間]/ㅍ/ 가지 /가ㅈ지/<茄子>, 던지다 /던ㅈ지다/
<投げる>, 이바지 /이ㅈ바지/<貢献>.
- 終 [語末]/ㄷ/ 젓 /절/<乳>.
- [〃. + 鼻音, 流音]/ㄴ/ 젓 많아 /젼마나/<乳がいっぱいある>.
- [〃. + ㅁ 速]/ㄹ/ 젓 많아 /점마나/<乳がいっぱいある>(/젼마
나/).
- [〃. + /i/, /y/ 以外の母音]E /ㄷ/ 젓 안 /저단/<乳の中>.
- [〃. + /i/, /y/]/ㄴ ㄴ/ 젓 옆 /전넙/<乳の横>.
- [〃. + ㅁ 速]/ㄹ/ 젓 가지고 /저까지고/<乳でもって
>(/젼까지고/), 젓 한 모금 /저탐모금/<乳一含み>(/젼탐모
금/), 젓 빈다 /저뽠다/<乳の出を神に祈る>(/젼뽠다/).
- [語中(形態素末). + ㅁ 速]/ㄷ/ 젓도 /젼또/<乳も>, 젓고 /젼
꼬/<濡れて>, 젓지 /젼지/<濡れるよ>, 젓습니다
/젼ㅅㅂ니다/<濡れます>, 늦추다 /느추다/<遅らせる>.
- [〃 (〃). + 〃 速]/ㄹ/ 젓도 /저또/<乳も>(/젼또/), 젓고
/저꼬/<濡れて>(/젼꼬/), 젓지 /저ㅈ지/<濡れるよ>(/젼지/
>), 젓습니다 /저ㅅㅂ니다/<濡れます>(/젼ㅅㅂ니다/), 늦추다
/느추다/<遅らせる>(/느추다/).
- [〃 (〃). + 鼻音]/ㄴ/ 젓만 /젼만/<乳だけ>, 젓는 /전는/<濡れる>.
- [〃 (〃). + ㅁ 速]/ㄹ/ 젓만 /점만/<乳だけ>(/젼만/).
- [〃 (〃. 用言) + 母音]E /ㅍ/ 젓은 /저즌/<濡れた>, 낮은 /나즌/<低
い>.
- [〃 (〃. 体言) + /i/, /j/ 以外の母音]E /ㅍ/ 젓은 /저즌/<乳は
>, 낮은 /나즌/<昼は>, 낮에 /나제/<昼に>.
- [〃 (〃. 〃). 〃 ㅈ]E /ㅍ/ 젓은 /저슨/<乳は>, 낮은 /나슨/<昼は
>.

- [〃 (〃 . 〃 . 自立語) . + /i/, /j/ 以外の母音] E / ㄷ / 젓 어 미 / 저 더 미 /
 <乳母> .
- [〃 (〃 . 〃) . + ㅎ] / ㄷ ㅅ / 젓 하 고 / 젓타 고 / <乳と> .
- [〃 (〃 . 〃) . 〃 速] E / ㅅ / 젓 하 고 / 저 타 고 / <乳と> (/ 젓타 고 /
) .
- [〃 (〃 . 用言) . + ㅎ] / ㄷ ㅅ / 젓 히 고 / 젓치 고 / <反らせて> .
- [〃 (〃 . 用言) . 〃 速] E / ㅅ / 젓 히 고 / 저 치 고 / <反 ら せ て
 >) (/ 젓치 고 /) .
- ㅅ 初 [語頭] / ㅅ / 짜 르 다 / 짜 르 다 / <短い> .
 [語中(形態素の頭)] / ㅅ / 첫 째 / 첫째 / <一番目> .
 [〃 (形態素の中間)] / ㅅ / 어 째 / 어 째 / <どうして> .
- ㅈ 初 [語頭] / ㅈ / 참 / 참 / <本当に> , 차 (茶) / 차 / <茶> .
 [語中(形態素の頭)] / ㅈ / 걸 치 다 / 걸 치 다 / <かかる> , 어 차 피
 (於此彼) / 어 차 피 / <どっちみち> .
 [〃 (形態素の中間)] / ㅈ / 아 침 / 아 침 / <さつき> .
- 終 [語末] / ㄷ / 꽃 / 끝 / <花> .
 [〃 . + 鼻音, 流音] / ㄴ / 꽃 많 아 / 꽃마 나 / <花が多いね> .
 [〃 . + ㄹ 速] / ㄹ / 꽃 많 아 / 꽃마 나 / <花が多いね> (/ 꽃마 나 /
) .
- [〃 . + /i, j/ 以外の母音] E / ㄷ / 꽃 안 고 / 꽃단 고후 / <花を抱いて> .
 [〃 . + /i, j/] / ㄴ ㄴ / 꽃 옆 / 꽃넙 / <花の横> .
 [〃 . + ㅈ 速] / ㄹ / 꽃 가 지 고 / 꽃까 지 고 / <花でもって> (/ 꽃
 까 지 고 /) .
- [語中(形態素末) . + ㄹ 音] / ㄷ / 꽃 구 경 / 꽃꾸 경 / <花見> , 꽃 꽃
 이 / 꽃꼬 지 / <生 け 花> , 꽃 다 / 꽃따 / <追 う > , 꽃 고
 / 꽃꼬 / <追って> , 꽃 지 / 꽃찌 / <追うよ> , 꽃 기 다 / 꽃끼 다 / <終
 われる> , 꽃 습 니 다 / 꽃습 니 다 / <追います> .
- [〃 (〃) . + 〃 速] / ㄹ / 꽃 구 경 / 꽃꾸 경 / <花見> (/ 꽃꾸 경 /
) , 꽃 꽃 이 / 꽃꼬 지 / <生 け 花> (/ 꽃꼬 지 /) , 꽃 다 / 꽃따 / <追 う
 > (/ 꽃따 /) , 꽃 고 / 꽃꼬 / <追って> (/ 꽃꼬 /) , 꽃 지 / 꽃찌 /
 <追うよ> (/ 꽃찌 /) , 꽃 기 다 / 꽃끼 다 / <終われる> (/ 꽃끼 다
 /) , 꽃 습 니 다 / 꽃습 니 다 / <追います> (/ 꽃습 니 다 /) .
- [〃 (〃) . + 鼻音] / ㄴ / 꽃 만 / 꽃만 / <花だけ> , 꽃 는 / 꽃는 / <
 追う> .
- [〃 (〃) . + ㄹ 速] / ㄹ / 꽃 만 / 꽃만 / <花だけ> (/ 꽃만 /) .
- [〃 (〃) . + 母音] / ㄷ ㅅ / 꽃 아 / 꽃차 / <追って> , 꽃 은 / 꽃춘 /
 <花は> .
- [〃 (〃) . 〃 速] E / ㅅ / 꽃 아 / 꽃차 / <追 っ て > (/ 꽃차 /) , 꽃 은

- /꼬춘/<花は>(/꽃춘/).
- [“(”, 体言). “ ”]E /ㄴ/ 꽃은 /꼬슨/<花は>(/꽃춘/).
- [“(”, “”). +ㅁ]/ㄷㅁ/ 꽃하고 /꽃타고/<花と>.
- [“(”, “”). +ㅁ [速]/ㄷㅁ/ 꽃하고 /꼬타고/<花と>(/꽃타고/).
- [“(”, 自立語). +/i/, /j/ 以外の母音]/ㄷ/ 꽃오르다 /오도르다/<漆にかぶれる>.
- [“(”, “”). +/i/, /j/]/ㄴㄴ/ 꽃잎 /꼇닙/<花びら>.
- ⇒ 初 [語頭]/ㄴ/ 칼 /칼/<刀>.
- [語中(形態素の頭)]/ㄴ/ 식칼 (食一)/식칼/<包丁>.
- [“(”, 形態素の中間)]/ㄴ/ 조카 /조카/<甥>.
- 終 [語末]/ㄴ/ 부엌 /부엌/<台所>.
- [“(”, +鼻音, 流音]/ㅇ/ 부엌 많아 /부엌마나/<台所が多いね>.
- [“(”, +母音]E /ㄴ/ 부엌 있고 /부어길꼬/<台所があつて>.
- [“(”, +ㅁ [速]/ㄷㅁ/ 부엌 가지고 /부어까지고/<台所でもって>(/부엌까지고/).
- [語中(形態素末). +口音]/ㄴ/ 부엌간 (一間)/부엌관/<炊事場>, 부엌칼 /부엌칼/<包丁>, 부엌데기 /부엌떼기/<飯炊き女>, 부엌까지 /부엌까지/<台所まで>.
- [“(”, “”). +ㅁ, ㅁ, ㅁ [速]/ㄷㅁ/ 부엌간 (一間)/부어관/<炊事場>(/부엌관/), 부엌칼/부어칼/<包丁>(/부엌칼/), 부엌까지 /부어까지/<台所まで>(/부엌까지/).
- [“(”, “”). +鼻音]/ㅇ/ 부엌만 /부엌만/<台所だけ>.
- [“(”, “”). +母音]/ㄴㅁ/ 부엌은 /부엌큰/<台所は>.
- [“(”, “”). “ ” [速]E /ㄴ/ 부엌은 /부어큰/<台所は>(/부엌큰/).
- [“(”, “”). “ ”]E /ㄴ/ 부엌은 /부어근/<台所は>(/부엌큰/).
- [“(”, “”). +ㅁ]/ㄴㅁ/ 부엌하고 /부엌카고/<台所と>.
- [“(”, “”). “ ” [速]/ㄷㅁ/ 부엌하고 /부어카고/<台所と>(/부엌카고/).
- [“(”, “”, 自立語). +/i/, /j/]/ㅇㄴ/ 부엌일 /부엌닐/<台所仕事>.
- ⇒ 初 [語頭]/ㅁ/ 탈 /탈/<事故, 病氣>, 탕 (湯)/탕/<スープ>.
- [語中(形態素の頭)]/ㅁ/ 배탈 /배탈/<食あたり>, 곰탕 (湯)/곰탕/<コムタン(料理名)>.
- [“(”, 形態素の中間)]/ㅁ/ 꼬트머리/꼬트머리/<端>, 흐트러지

다/흐트러지다/<散らばる>.

終 [語末]/ㄷ/ 발 /발/<畑>, 끝 /끝/<終わり>.

[ㄴ. +鼻音, 流音]/ㄴ/ 발 많아 /반마나/<畑が多いね>.

[ㄴ. +ㄹ[速]]/ㄹ/ 발 많아 /밤마나/<畑が多いね>(/반마나/).

[ㄴ. +母音]E/ㄷ/ 발 있고 /바딜꼬/<畑があって>.

[ㄴ. +口音 [速]]/ㄹ/ 발 가지고 /바까지고/<畑でもって>(/발까지고/).

[語中(形態素末). +口音]/ㄷ/ 말다 /말따/<引き受ける>, 말고 /말꼬/<引き受けて>, 말지 /말찌/<引き受けるよ>, 말합니다 /말습니다/<引き受けます>, 밭고랑 /밭꼬랑/<畝と畝との間>, 밭벼 /밭빠/<陸稲>, 끝손질 /끝손질/<仕上げ>, 끝끝내 /끝끝내/<ついに>, 맡기다 /맡끼다/<任せる>.

[ㄴ(ㄴ). +ㄴ[速]]/ㄹ/ 말다 /마따/<引き受ける>(/말따/), 말고 /마꼬/<引き受けて>(/말꼬/), 말지 /마찌/<引き受けるよ>(/말찌/), 말합니다 /마습니다/<引き受けます>(/말습니다/), 밭고랑 /바꼬랑/<畝と畝との間>(/밭꼬랑/), 밭벼 /바빠/<陸稲> (/밭빠/), 끝손질 /고손질/<仕上げ>(/끝손질/), 끝끝내 /고끝내/<ついに>(/끝끝내/), 맡기다 /마끼다/<任せる>(/맡끼다/).

[ㄴ(ㄴ). +鼻音]/ㄴ/ 발만 /반만/<畑だけ>, 맡는 /만는/<引き受ける>, 끝내다 /끈내다/<終える>.

[ㄴ(ㄴ). +ㄹ[速]]/ㄹ/ 발만 /밤만/<畑だけ>(/반만/).

[ㄴ(ㄴ). +/i, j/ 以外の母音]/ㄷㅓ/ 말아 /말타/<引き受けて>, 밭은 /밭튼/<畑は>, 끝에 /끝테/<末に>, 끝으로 /끝트로/<終わりに>.

[ㄴ(ㄴ). ㄴ [速]E/ㅓ/ 말아 /마타/<引き受けて>(/말타/), 밭은 /바튼/<畑は>(/밭튼/), 끝에 /고테/<末に>(/끝테/), 끝으로 /고트로/<終わりに>(/끝트로/).

[ㄴ(ㄴ). +/i, j/]/ㄷㅈ/ 발이 /밭치/<畑が>, 밭이다 /밭치다/<畑だ>, <濾させる>, 낱알이 /난닐치/<一つ一つ>.

[ㄴ(ㄴ). ㄴ [速]E/ㅈ/ 발이 /바치/<畑が>/밭치/), 밭이다 /바치다/<畑だ>, <濾させる>(/밭치다/), /난나치/ 낱알이<一つ一つ>(/난닐치/).

[ㄴ(ㄴ, 体言). ㄴ [ソ]E /ㅅ/ 밭은 /바슨/<畑は>(/밭튼, 바튼/), 밭이 /바시/<畑が>/밭치, 바치/), 밭이다 /바시다/<畑だ>(/밭치다, 바치다/).

[ㄴ. (ㄴ. ㄴ). +ㅎ]/ㄷㅓ/ 밭하고 /밭타고/<畑と>.

- [〃 . (〃 . 〃) . + ㄹ [速] /ゼロ/ 발 하고 /바 타고 /<畑と> (/받 타고 /).
- [〃 (〃 . 自立語) . + /i/, /j/ 以外の母音] E /ㄷ / 팔 알 /파 달 /<小豆の粒>.
- [〃 (〃 . 〃) . + /i/, /j/] /ㄴ ㄴ / 발 이 랑 /반 니 랑 /<畑の畔>.
- ㄷ 初 [語頭] /ㄷ / 파 /파 /<ねぎ>, 편 지 (便紙) /편 지 /<手紙>.
- [語中(形態素の頭)] /ㄷ / 양 파 (洋—) /양 파 /<たまねぎ>, 어 차 피 (於此彼) /어 차 피 /<どっちみち>.
- [〃 (形態素 の 中間)] /ㄷ / 글 피 /글 피 /<しあさって>, 지 푸 라 기 /지 푸 라 기 /<藁くず>.
- 終 [語末] /ㄷ / 앞 /앞 /<前>, 무릎 /무릎 /<膝>.
- [〃 . + 鼻音, 流音] /ㄹ 앞 못 보다 /암 못 뵈 다 /<盲目だ>.
- [〃 . + 母音] E /ㄷ / / 무릎 위 /무르뵈 /<膝の上>.
- [〃 . + ㄱ, ㄴ, ㄷ [速] /ゼロ/ 무릎 꿇 고 /무르꿇 고 /<膝まづいて /무릎꿇 고 /).
- [語中(形態素末) . + 口音, ㄹ] /ㄷ / 갠 다 /갠 따 /<報いる>, 갠 고 /갠 고 /<報いて>, 갠 지 /갠 찌 /<報いるよ>, 갠 습 니 다 /갠 습 니 다 /, 앞 바 다 /앞 빠 다 /<沖>, 앞 폭 /앞 폭 /<前身ごろの幅>, 옆 구 리 /옆 구 리 /<わき腹>, 앞 하 고 /앞 파 고 /<前と>.
- [〃 (〃) . + ㄷ, ㅂ, ㅍ; ㄱ, ㄴ, ㄷ; ㅎ [速] / ZERO / 앞 바 다 /아 빠 다 /<沖> (/알 빠 다 /), 앞 폭 /아 폭 /<前身ごろの幅> (/알 폭 /), 갠 고 /가 고 /<報いて> (/갠 고 /), 옆 구 리 /여 구 리 /<わき腹> (/옆 구 리 /), 앞 하 고 /아 파 고 /<前と> (/알 파 고 /).
- [〃 (〃) . + 鼻音] /ㄷ / 앞 만 /암 만 /<前だけ>, 갠 는 /감 는 /<報いる>, 앞 문 /암 문 /<表口>, 앞 날 /암 날 /<将来>.
- [〃 (〃) . + 母音] /ㄷ ㅍ / 갠 아 /갈 파 /<報いて>, 앞 은 /알 픈 /<前は>, 앞 에 /알 페 /<前に>, 앞 으 로 /알 프 로 /<これから 先>, 덮 이 다 /덜 피 다 /<覆われる>.
- [〃 (〃) . 〃 [速] E /ㄷ / 갠 아 /가 파 /<報いて> (/갈 파 /), 앞 은 /아 픈 /<前は> (/알 픈 /), 앞 에 /아 페 /<前に> (/알 페 /), 앞 으 로 /아 프 로 /<これから 先> (/알 프 로 /), 덮 이 다 /더 피 다 /<覆われる> (/덜 피 다 /).
- [〃 (〃 , 一部 の 体言) . 〃 [ソ] E /ㄷ / 무릎 은 /무르븐 /<膝 は> (/무릎 픈, 무르 픈 /), 무릎 이 /무르비 / /무릎 피, 무르 피 /<膝が>.
- [〃 (〃 . 自立語) . + /i/, /j/] /ㄷ ㄴ / 앞 일 /암 닐 /<将来のこと>.
- ㅎ 初 [語頭] /ㅎ / 하 나 /하 나 /<一つ>, 한 /한 /<一つの>, 학 (鶴) /학 /<鶴>.

- [〃 母音, 鼻音, 流音+]/ㄷ/ 한 해 /한해/ <一年>.
- [〃. 〃 速]/ゼロ/ 한 해 /하내/ <一年> (/한해/),
- [〃. ㅂ, ㅅ, ㅍ+]/ㅍ/ 집 한 채 /집판채/ <家一軒>.
- [〃. ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄷ, ㅌ, +]/ㅌ/ 발 한 평 (一坪)/발탄평
/ <畑一坪>, 옷 한 벌 /올탄벌/ <服一着>, 꽃 한 송이
/ 꽃탄송이/ <花一輪>.
- [〃. ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㄴ+]/ㄴ/ 닭 한 마리 /달칸마리/ <鶏一羽>.
- [語中. 形態素の頭 母音. 鼻音, 流音+]/ㄷ/ 짐 하고 /짐하고/ <
荷物と>, 산 하고 (山一)/산하고/ <山と>, 방 하고 (房一)/
방하고/ <部屋と>, 말 하고 /말하고/ <馬と>, 北 안 해 /안해,
아 내/ <妻> (南 아 내 /아 내/), 암 호 (暗號)/암호/ <暗号>,
산 호 (珊瑚 /산호/ <珊瑚>, 결 핵 (結核)/결핵/ <結核>.
- [〃. 〃. 〃 速]/ゼロ/ 짐 하고 /지마고/ <荷物と>/짐하고/, 산 하
고 (山一)/시나고/ <山と> (/산하고/), 방 하고 (房一)/방 아
고/ <部屋と> (/방하고/), 말 하고 /마라고/ <馬と> (/말하고/
, 암 호 (暗號)/아 모/ <暗号> (/암호/), 산 호 (珊瑚 /사
노/ <珊瑚> (/산호/), 결 핵 (結核)/겨랙/ <結核> (/결핵/), 北
안 해 /아 내/ (/안해/ 南 아 내 /아 내/) <妻>.
- [〃. 〃. ㅂ+]/ㅍ/ 집 하고 /집파고/ <家と>, 입 히 다 /입피다/ <
着せる>, 입 학 (入學)/입팍/ <入学>.
- [〃. 〃 (体言助詞). ㅅ, ㅍ+]/ㅍ/ 값 하고 /갈파고/ <値段 と>,
앞 하고 /알파고/ <前と>.
- [〃. 〃 (〃). ㄹ+]/ㄹ/ 여덟 하고 /여덜하고/ <八つと>.
- [〃. 〃 (接尾辞). ㄹ+]/ㄹㅍ/ 넓 히 다 /넌피다/ <広める>.
- [〃. 〃 (体言助詞, 自立語). ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄷ, ㅌ, +]/ㅌ/ 발 하
고 /발타고/ <畑 と>, 옷 하고 /올타고/ <服 と>, 따 뜻 하 다
/ 따뜻타다/ <暖 か い>, 젓 하고 /절타고/ <乳 と>, 꽃 하고
/ 꽃타고/ <花と>, 맞 흥 정 /말흥정/ <直接の取引>.
- [〃. 〃 (接尾辞). ㄷ, ㅌ, +]/ㅌ/ 굳 히 다 /굳치다/ <固 め る>, 맞 히 다
/ 말치다/ <言い当てる>.
- [〃. 〃. ㄴ, ㄷ, ㄴ+]/ㄴ/ 국 하고 /국카고/ <スープと>, 먹 히
다 /먹키다/ <食べられる>, 국 화 (菊花)/국과/ <菊>, 밖 하
고 /밖카고/ <外と>, 부 억 하고 /부억카고/ <台所と>.
- [〃. 〃 (体言助詞). ㄹ+]/ㄴ/ 닭 하고 /닭카고/ <鶏と>.
- [〃. 〃 (接尾辞). ㄹ+]/ㄹㅍ/ 읽 히 다 /일카다/ <読まれる>.
- [〃. 〃 (体言助詞) ㅌ+]/ㅌ/ 히 율 하고 /히율타고/ <히 율>.
- 終 [語末]/ㄷ/ 히 율 /히율/ <히 율の字母名>.
- [〃. +/i, j/ 以外の母音]E /ㄷ/ 히 율 아 래 /히으다래/ <히 율の下>.

[ㄴ. +/i, j/]/ㄴㄴ/ 히을 옆 /히은넙/<히을의橫>.

[ㄴ. +ㄱ [速]/ゼロ/ 히을 가지고 /히으까지고/<台所でもって>(/히으까지고/).

[語中(形態素末)+口音, ㅎ]/ㄷ/ 히을도 /히은또/<히을 も >, 히을조차 /히은또차/<히을さえ>, 좋다 /죤타/<よい>, 좋지 /죤치/<よいよ>, 좋습니다 /죤습니다/<よいです>.

[ㄴ(ㄴ)+鼻音, 流音]/ㄴ/ 히을만 /히은만/<히을 だけ>, 좋네 /죤네/<よいね>.

[ㄴ(ㄴ)+[速]/ㄴ/ 히을만 /히은만/<히을だけ>(/히은만/).

[ㄴ(ㄴ. 用言)+母音]/ゼロ/ 좋은 /조은/<よい>, 놓이다 /노이다/<置かれる>.

[ㄴ(ㄴ. 히을のみ)+母音]E /ㅅ/ 히을은 /히으슨/<히을は>.

(2) 母音字

ㅏ /ㅏ/ 아마 /아마/<多分>, 말 /말/<馬>, 사(四)/사/<四>, 남(南)/남/<南>, 산(山)/산/<山>, 강(江)/강/<河>, 갑(甲)/갑/<甲>, 발달(發達)/발딸/<發達>, 각(各)/각/<各>, 친아버지(親一)/치나버지/<実父>, 각하(閣下)/각카/<閣下>, 받아 /바다/<受け取って>, [北] 라침판(羅針盤)/라침판/<羅針盤>([南] 나침판(羅針盤)/나침판/), [北] 남비(濫費)/람비/<濫費>([南] 남비(濫費)/남비/), [北] 란간(欄干)/란간/<欄干>([南] 난간(欄干)/난간/), [北] 랑독(朗讀)/랑독/<朗讀>([南] 낭독(朗讀)/낭독/), [北] 랍치(拉致)/랍치/<拉致>([南] 납치(拉致)/납치/), [北] 렉제(落第)/락제/<落第>([南] 낙제(落第)/낙제/).

ㅗ /ㅗ/ 애초 /애초/<始め>, 개 /개/<犬>, 대국(大國)/대국/<大國>, 산맥(山脈)/산맥/<山脈>, 앵무(鸚鵡)/앵무/<鸚鵡>, 딸애 /따래/<自分の娘>, 할애(割愛)/하래/<割愛>, 따듯해 /따뜨태/<暖かくて>, [北] 래일(來日)/래일/<明日>([南] 내일/내일/), [北] 랭방(冷房)/랭방/<冷房>([南] 냉방(冷房)/냉방/).

[ㄴ] /ㄴ/ 애초 /에초/<始め>(/애초/), 개 /게/<犬>(/개/), 대국(大國)/데국/<大國>(/대국/), 산맥(山脈)/삼맥/<山脈>(/산맥/), 앵무(鸚鵡)/앵무/<鸚鵡>(/앵무/), 딸애/따래/<自分娘>(/따래/), 할애(割愛)/하래/<割愛>(/하래/)따듯해 /따뜨태/<暖かくて>(/따뜨태/).

ㅓ /ㅓ/ 야생(野生)/야생/<野生>, 약(藥)/약/<藥>, 언약(言約)/어낙/<誓い>, [北] 락어(略語)/랴거/<略語>([南] 약어(略

語)/야거/), 양력(陽曆)/양력/, [北] 량반(兩班)/량반/<兩班(ヤンバン)>([南]양반(兩班)/양반/).

ㅅ /ㅅ/ 애 /애/<この子>, 개 /개/<その子>.

[ソ] /ㅅ/ 애 /애/<この子>(/애/), 개 /개/<その子>(/개/).

ㅌ /ㅌ/ 어머니 /어머니/<母>, 먹 /먹/<墨>, 처리(處理)/처리/<處理>, 점(占)/점/<占い>, 천(千)/천/<千>, 정(情)/정/<情>, 첩(妾)/첩/<妾>, 설명(說明)/설명/<説明>, 억(億)/억/<億>, 친어머니(親一)/치너머니/<実母>, 신어(新語)/시너/<新語>, 읽어 /읽어/<読んで>.

[ソ] /ㅌ/(用言第 III 語基で. I +)[南] 피어 /피어/<咲いて>([北] 피어 /피어/), [南] 내어 /내어/<出して>([北] 내어 /내어/), [南] 세어 /세어/<立てて>([北] 세어 /세어/), [南] 꺾어 /꺾어/<集まって>([北] 꺾어 /꺾어/), [南] 쉬어 /쉬어/<休んで>([北] 쉬어 /쉬어/), [南] 희어 /히어/<白くて>([北] 희어 /히어/)..

ㅍ /ㅍ/ 게 /게/<蟹>, 게재(掲載)/게재/<掲載>, 딸에게 /따래게/<娘に>, 함께 /함께/<共に>.

ㄷ /ㄷ/ 여러 /여러/<いろいろな>, 겨레/겨레/<同胞>, 여당(與黨)/여당/<与党>, 참여(參與)/차며/<参与>, 염색(染色)/염색/<染色>, 연구(研究)/연구/<研究>, 영향(影響)/영향/<影響>, 엽서(葉書)/엽서/<葉書>, 열심(熱心)/열심/<熱心>, 역할(役割)/역할/<役割>, [北] 념려(念慮)/념려/<心配, 配慮>([南] 영려(念慮)/영려/), [北] 년대(年代)/년대/<年代>([南] 연대(年代)/연대/), [北] 안녕(安寧)/안녕/<安寧>, [北] 려치(廉恥)/려치/<恥>([南] 영치(廉恥)/영치/), [北] 려락(連絡)/려락/<連絡>([南] 연락(連絡)/연락/), [北] 려토(領土)/려토/<領土>([南] 영토(領土)/영토/), [北] 려기적(獵奇的)/려기적/<獵奇的>([南] 엤기적(獵奇的)/엤기적/), [北] 려녀(烈女)/려녀/<烈女>([南] 열녀(烈女)/열녀/), [北] 파렬(破裂)/파렬/<破裂>([南] 파열(破裂)/파열/), [北] 려사(歷史)/려사/<歷史>([南] 역사(歷史)/역사/).

[漢](固有名詞で「寧」母音十) [北] 회녕(會寧)/훼령/<会寧(地名)>([南] 회령(會寧)/훼령/). [北] 리어녕(李御寧)/리어령/<李御寧(人名)>([南] 이어령(李御寧)/이어령/).

/ㅌ/(用言第 III 語基で)저 /저/<負って>, 찌 /찌/<蒸して>, 쳐 /쳐/<打って>, 앉혀 /안쳐/<座らせて>, 받쳐 /받쳐/<支えて>, 받혀 /받혀/<突かれる>, 핥여 /할쳐/<舐められて>, 알아맞혀 /아라맞쳐/<言い当てる>.

ㄱ / ㄱ / 예약 (豫約)/예약/<予約>, 계약 (契約)/계약/<契約>, 혜택 (惠澤)/혜택/<恵み>, 은혜 (恩惠)/은혜/<恩>, 北례의 (禮義)/례의/<礼儀> (南) 예의 (禮義)/예의/, 노예 (奴隸)/노예/<奴隸>, 예순 /예순/<六十>, 문예 (文藝)/무네/<文芸>.

ㄴ (子音+)/ ㄱ / 계약 (契約)/계약/<契約> (/계약/), 혜택 (惠澤)/혜택/<恵み> (/혜택/), 은혜 (恩惠)/은혜, 으네/<恩> (/은혜/), 문예 (文藝)/무네/<文芸> (/무네/).

ㄷ / ㄷ / 오빠 /오빠/<兄(妹の)>, 집오리 /지보리/<アヒル>, 오 (五)/오/<五>, 혼 (魂)/혼/<魂>, 공짜 (空一)/공짜/<ただ(無料)>, 골자 (骨子)/골짜/<骨子>, 곡식 (穀食)/곡씩/<穀物>, 北로동 (勞動)/로동/<労働> (南) 노동 (勞動)/노동/, 北론쟁 (論爭)/론쟁/<論争> (南) 론쟁 (論爭)/논쟁/, 北롱락 (籠絡)/롱락/<籠絡> (南) 롱락 (籠絡)/롱낙/, 北록두 (綠豆)/록뚜/<綠豆> (南) 녹두 (綠豆)/녹뚜/).

/ ㅍ / ㅍ (用言語尾. ㅍ+)가십시오 /가십시오/<行つて下さい>.

ㄴ / ㄴ / 기와 /기와/<かわら>, 사과 (沙菓)/사과/<林檎>, 관리 (管理)/괌리/<管理>, 왕 (王)/왕/<王>, 활동 (活動)/활동/<活動>, 학답 (確答)/학답/<確答>.

ㄴ / ㄴ / 왜 /왜/<何故>, 꽤 /꽤/<かなり>, 왜곡 (歪曲)/왜곡/<歪曲>.

ㅍ / ㅍ / 왜 /왜/<何故> (/왜/), 꽤 /꽤/<かなり> (/꽤/), 왜곡 (歪曲)/왜곡/<歪曲> (/왜곡/).

ㄴ / ㅍ / 외우다 /웨우다/<覚える> (北) /웨우다/ 웨우다), 궤 /궤/<知恵>, 외국 (外國)/웨국/<外国>, 획득 (獲得)/획득/<獲得>, 횡행 (橫行)/횡행/<橫行>.

ㅍ / ㅍ / 北요 /요/<敷布団>, 욕심 (欲心)/욕심/<欲>, 용기 (勇氣)/용기/<勇氣>, 北료리 (料理)/료리/<料理> (南) 요리 (料理)/요리/, 北룡궁 (龍宮)/룡궁/<竜宮> (南) 용궁 (龍宮)/용궁/).

漢(固有名詞で「龍」母音+) 北리재룡 (李在龍)/리재룡/<李在龍(人名)> (南) 이재용 (李在龍) /이재용/).

ㅍ / ㅍ / 우리 /우리/<われわれ>, 자주 /자주/<しばしば>, 우표 (郵票)/우표/<郵便切手>, 문화 (文化)/문화/<文化>, 궁전 (宮殿)/궁전/<宮殿>, 울분 (鬱憤)/울분/<鬱憤>, 건축 (建築)/건축/<建築>, 北루설 (漏洩)/루설/<漏洩> (南) 누설 (漏洩)/누설/).

거 /거/ 원숭이 (猿一)/원숭이/<猿>, 위낙 /위낙/<もともと>, 권리 (權利)/권리/<權利>, 월요일 (月曜日)/월요일/<月曜日>.

게 /게/ 월일 /웬닐/<何事>.

귀 /귀/ 쥐 /쥐/<鼠>, [南] 위 /위/<上> ([北] 우 /우/), 쉬다 /쉬다/<休む>.

ㅠ /ㅠ/ 유리 /유리/<ガラス>, 우유 (牛乳)/우유/<牛乳>, 평균 (平均)/평균/<平均>, 귤 (橘)/귤/<蜜柑>, 융합 (融合)/융합/<融合>, 교육 (教育)/교육/<教育>, [北] 류의 (留意)/

류의, 류이/<留意> ([南] 유의 (留意)/유의, 유이/), [北] 른곽 (輪郭)/륜곽/<輪郭> ([南] 윤곽 (輪郭)윤곽 /윤곽/), [北] 룡성 (隆盛)/룡성/<隆盛> ([南] 융성 (隆盛)/융성/), [北] 륵지 (陸地)/륙찌/<陸地> ([南] 육지 (陸地)/육찌/), [北] 룰동 (律動)/룰똥/<律動> ([南] 율동 (律動)/율똥/), [北] 비률 (比率)/비률/<比率> ([南] 비율 (比率)/비율/), [北] 선률 (旋律)/선률/<旋律> ([南] 선율 (旋律)/서늘/).

ㅡ /ㅡ/ 으뜸 /으뜸/<一番>, 그림 /그림/<絵>, 금액 (金額)/그액/<金額>, 은행 (銀行)/은행,으녕/<銀行>, 흥분 (興奮)/흥분/<興奮>, 급행 (急行)/급행/<急行>, 갑을 (甲乙)/가불/<甲乙>, 흑백 (黑白)/흑백/<黑白>.

[話] /ㅏ/(ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ)이쁘다 /이뿌다/<きれいだ>(/이쁘다/), 아프다 /아푸다/<痛い>(/아프다/), 집은 /지븐/<家は>, <つまんだ>(/지분/), 앞은 /아픈/<前> (아픈/), 짐은 /지문/<荷は>(/지문/).

ㄴ /ㄴ/ (語頭, 母音+) 거의 /거의/<ほとんど>, 의미 (意味)/의미/<意味>, 주의 (主義)/주의/<主義>.

/ㅣ/ (子音+)무늬 /무니/<模様>, 띄우다 /띠우다/<浮かべる>, 씹우다 /씨우다/<かぶせる>, 희망 (希望)/히망/<希望>, 각의 (閣議)/가기/<閣議>, 합의 (合意)/하비/<合意>, 악의 (惡意)/아기/<惡意>, 참의 (參議)/차미/<參議>, 난의 (難義)/나니/<難義>, 살의 (殺意)/사리/<殺意>, 항의 (抗議)/항이/<抗議>.

(母音+)[話] 거의 /거이/<ほとんど>(/거의/), 주의 (主義)/주이/<主義>(/주의/).

/ㅐ/ (助詞)나의 /나에/<わたしの>, 집의 /지메/<家の>, 안의 /아네/<内の>, 방의 (房一)/방에/<部屋の>, 말의 /마레/<馬の>, 집의 /지베/<家の>, 앞의 /알페/<前の>, 옷의 /오세/<服の>, 낮의 /나제/<昼の>, 꽃의 /꽃체/<花の>, 발의 /발테/<畑の>, 악의 (惡一)/아게/<惡の>, 밖의

/밖에/<外の>, 부엌의 /부엌케/<台所の>.

ㅣ /ㅣ / 이 /이/<齒>, 미리 /미리/<あらかじめ>, 이상 (以上)/이상 /
<以上>, 리유 (理由)/리유/<理由> (南) 이유 (理由)/이유
/, 니탄 (泥炭)/니탄/<泥炭> (南) 이탄 (泥炭)/이탄/).

2.3.3.音素 / 正字素の対応

* 初声, 連体₂: 用言連体形 II-₂ 形.

(1) 子音音素

/ㅁ/* [語頭]ㅁ* /바다/ 바다<海>, /반/ 반(班)<班>.

[語中(形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+)]ㅁ* /장보다/ 장보다
<市に行く>, /안부/ 안부 (安否)<安否>.

[ㄴ(形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)]ㅁ* /아버지/ 아버지
<父>, /굴비/ 굴비<いしもちの干物>.

[ㄴ(形態素末. 母音+, +母音)]ㅁ /이븐/ 입은<口 は>, <着 た>
>, /이븐/ 입원(入院)<入院>.

[ㄴ(ㄴ. ㄴ, ㄴ)]ㅁ [ㄴ] /이븐/ 앞은<葉 は>(/일픈/), /아باط피/
앞앞이<各々に対して>, /이뵈/ 앞 위<口の上>.

[ㄴ(ㄴ. ㄴ, ㄴ)]ㅁ [ㄴ] /가븐/ 값은<値段は>(/값 쓴/), /가버치/
값어치<値打ち>.

[ㄴ(ㄴ. ㄴ+, +母音)]ㅁ /열븐/ 엷은<薄 い>, [書] /여덜븐/
여덟은<八は>([話] /여더른/).

/ㅂ/ [語末]ㅂ /입/ 입<口>, /추립/ 출입(出入)<出入り>.

[ㄴ]ㅁ /입/ 앞<葉>.

[ㄴ]ㅁ /값/ 값<値段>.

[語中. 形態素の中間. +濃音, 激音]ㅂ /몹씨/ 몹시<酷く>, /참
쌀/ 참쌀<もち米>.

[ㄴ. ㄴ. +ㅅ]ㅁ /업씨/ 없이<なしに>.

[ㄴ. 形態素末. +濃音, 激音]ㅂ /입따/ 입다<口>, /입꼭/ 입국
(入國)<入国>, /엽차/ 엽차(葉茶)<綠茶>.

[ㄴ. ㄴ. +濃音]ㅁ /깊따/ 깊다<深い>.

[ㄴ. ㄴ. ㄴ]ㅁ /업따/ 없다<ない>.

[ㄴ. ㄴ. ㄴ]ㅁ /밟따/ 밟다<踏む>.

[ㄴ. ㄴ. ㄴ]ㅁ /음따/ 읊다<詠ずる>.

/ㅃ/* [語頭]ㅃ* /빠르다/ 빠르다<速い>.

[ㄴ. 連体₂+]ㅃ* /어찌할빠를 모른다/ 어찌할 바를 모른다<どうする
すべも知らない>.

[語中(形態素の頭)]ㅃ* /입빠를/ 입버릇<口癖>, /막빠지/

막바지 <行き止まり>, /찐빵 / 찐빵 <蒸しパン>.

[〃 (〃 . 口音 +)] ㅃ * /국밥 / 국밥 <クッパ(朝鮮式おじや)>,
/압쌀 / 앞발 <前足>, /값싸다 / 값비싸다 <値が高い>,
/압박 / 압박 (壓迫) <圧迫>, /각본 / 각본 (脚本) <脚本>.

[〃 (〃 . 鼻音, 流音 +)] ㅃ * /안방 / 안방 (一房) <アンパン(朝鮮式家屋の居間)>, /등불 / 등불 <灯火>.

[〃 (形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音 +)] ㅃ * /아빠 / 아빠 <お父ちゃん>, /올빼미 / 올빼미 <ふくろう>, /짬뽕 / 짬뽕 <チャンポン>.

/ㅍ / * [語頭] ㅍ * /파리 / 파리 <蠅>, /팔 / 팔 (八) <八>.

[語中(形態素の頭)] ㅍ * /새파랗다 / 새파랗다 <真っ青だ>, /앞쪽 / 앞쪽 (一幅) <服の前に当てる布>, /차표 / 차표 (車票) <切符>.

[〃 (形態素の中間)] ㅍ * /갈피 / 갈피 <要領>.

[〃 (形態素末. ㅃ +, +母音)] ㅍ /앞은 / 앞은 <前 は >, /깊은 / 깊은 <深い>, /깊다 / 깊이다 <深める>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㅃ ㅎ /입다 / 입히다 <着せる>, /입학 / 입학 (入學) <入学>, /영업하다 / 영업하다 (營業一) <營業 する>, /입과고 / 입과고 <口と>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㅃ ㅎ /앞과고 / 앞과고 <前と>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㅃ ㅎ /값과고 / 값과고 <値段と>.

[〃 (〃 . ㄹ +, 〃)] ㅍ /을른 / 을른 <詠じた>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㅃ ㅎ /넓다 / 넓히다 <広げる>.

/ㅁ / * [語頭] ㅁ * /말 / 말 <馬>, /마차 / 마차 (馬車) <馬車>.

[語中(形態素の頭)] ㅁ * /알몸 / 알몸 <真っ裸>, /짐만 / 짐만 <荷物だけ>, /집만 / 집만 <家だけ>, /짚만 / 짚만 <藁だけ>, /영만 / 영만 (億萬) <億万>.

[〃 (形態素の中間)] ㅁ * /얼마 / 얼마 <いくら>.

[〃 (形態素末. 母音 +, +母音)] ㅁ /기름 / 기름 <海苔 は >, /삼일 / 삼일 (三日) <三日>.

[〃 (〃 . ㄹ +, +母音)] ㅁ /살은 / 삶은 <煮た>, <生は>.

/ㅁ / [語末] ㅁ /김 / 김 <海苔>, /삼 / 삼 (三) <三>.

[〃] ㄹ /삼 / 삶 <生>.

[語中(形態素の中間. +流音以外の子音)] ㅁ /엄마 / 엄마 <お母ちゃん>, /삼키다 / 삼키다 <飲み込む>.

[〃 (形態素末. +子音)] ㅁ /김만 / 김만 <海苔だけ>, /삼만 / 삼만 (三萬) <三万>, /삼각 / 삼각 (三角) <三角>, /남자 / 남

자 (男子) <男>.

[〃 (〃 . 〃)]_ㄹ /삼만/ 삶만 <生だけ>, /삼따/ 삶다 <煮る>.

[〃 (〃 . +鼻音, 流音)]_ㄹ /임만/ 입만 <口>, /임는/ 입는 <着
る>, /심만/ 십만 (十萬) <三万>, /심니/ 십리 (十里) (北
/심리/) <一里>, /심니/ 심리 (心理) (北 /심리/) <心理
>.

[〃 (〃 . +鼻音)]_ㅍ /김네/ 깊네 <深いよ>.

[〃 (〃 . 〃)]_ㅁ /엄네/ 없네 <ないよ>.

[〃 (〃 . 〃)]_ㄹ /밤네/ 밟네 <踏むよ>.

[〃 (〃 . 〃)]_ㄹ /음는/ 읊는 <詠ずる>.

/ㄷ/* [語頭]_ㄷ* /달/ 달 <月>, /달쌩/ 달성 (達成) <達成>.

[語中(形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+)]_ㄷ* /이달/ 이달 <今月
>, /반달/ 반달 (半一) <半月>.

[〃 (形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)]_ㄷ* /가득/ 가득 <いっぱい
>, /겨드랑이/ 겨드랑이 <わき腹>.

[〃 (形態素末. 母音+, +母音)]_ㄷ /마다들/ 맏아들 <長男>,
/구든/ 굳은 <固い>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)]_ㄴ /오단/ 옷안 <服の内側>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)]_ㄴ /저더미/ 젖어미 <乳母>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)]_ㄴ /오도르다/ 옷오르다 <漆にかぶれる>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)]_ㄴ /파달/ 팔알 <小豆の粒>.

/ㄷ/ [語末]_ㄴ /올/ 옷 <服>.

[〃]_ㄴ /젖/ 젖 <乳>.

[〃]_ㄴ /올/ 옷 <漆>.

[〃]_ㄷ /곧/ 곧 <すぐ>.

[〃]_ㄴ /팔/ 팔 <小豆>.

[〃]_ㅎ /히을/ 히을 <히을 (字母名)>.

[語中. 形態素末. +濃音]_ㄷ /굳따/ 굳다 <固い>.

[〃 . 〃 . 〃]_ㄴ /맏따/ 맏다 <引き受ける>.

[〃 . 〃 . 〃]_ㄴ /웃따/ 웃다 <笑う>.

[〃 . 〃 . 〃]_ㄴ /있따/ 있다 <ある>.

[〃 . 〃 . 〃]_ㄴ /젼따/ 젼다 <濡れる>, /낮따/ 낮다 <低い>.

[〃 . 〃 . 〃]_ㄴ /쫼따/ 쫼다 <追う>.

/ㄸ/* [語頭]_ㄸ* /딸/ 딸 <娘>.

[〃 . 連体_ㄷ +]_ㄷ* /갈때/ 갈 데 <行くべき所>.

[語中(形態素の頭)]_ㄸ* /산딸기/ 산딸기 <山イチゴ>, /맏딸/
맏딸 <長女>.

[〃 (〃 . 口音+)]_ㄷ* /올판장/ 옷단장 (一丹粧) <正装>, /늘

- 떠워 / 늦더워 <残暑>, /꽃다발 / 꽃다발 <花束>, /압도 / 압도 (壓倒) <圧倒>, /각도 / 각도 (角度) <角度>.
- [〃 (〃 . 鼻音, 流音+)] ㄷ * /넘따 / 넘다 <越える>, /점따 / 점다 <若い>, /안따 / 안다 <抱く>, /열따 / 얇다 <薄い>, /할따 / 핥다 <舐める>, /발달 / 발달 (發達) <發達>.
- [〃 (形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)] ㄷ * /남떠러지 / 남떠러지 <崖>, /알뜰하다 / 알뜰하다 <つつましい>.
- /ㄹ / * [語頭] ㄹ * /탈 / 탈 <仮面>, /탕 / 탕 (湯) <スープ>.
- [語中(形態素の頭)] ㄹ * /꼬트머리 / 꼬트머리 <端>, /설탕 / 설탕 (雪糖) <砂糖>.
- [〃 (〃 . 母音, ㄴ, ㄹ +, +母音)] ㄹ * /잘타 / 잘다 <よい>, /안타 / 앓다 <しない>, /알타 / 앓다 <病む>.
- [〃 (形態素の中間)] ㄹ * /바탕 / 바탕 <素質>.
- [〃 (形態素末. ㄴ +, +母音)] ㄹ * /받튼 / 받튼 <畑は>, /말튼 / 말튼 <引き受けた>.
- [〃 (形態素末. 〃, +母音)] ㄹ * /못타다 / 못하다 <出来ない>.
- [〃 (形態素末. 〃, +母音)] ㄹ * /맞통정 / 맞통정 <直接の取引>.
- [〃 (形態素末. 〃, +母音)] ㄹ * /히을타고 / 히을하고 <히을と>.
- [〃 (〃 . ㄹ +, +母音)] ㄹ * /할튼 / 핥튼 <舐めた>.
- /ㄴ / * [語頭] ㄴ * /날 / 날 <日>, /남자 / 남자 (男子) <男>.
- [語中(形態素の頭) 母音+, 鼻音+] ㄴ * /수녀 / 수녀 (修女) <修道女>, /심네 / 심네 <植えるよ>, /임네 / 임네 <着るよ>, /십년 / 십년 (十年) <十年>, /감네 / 감네 <報いるよ>, /삼네 / 삼네 <煮るよ>, /밤네 / 밤네 <踏むよ>, /신는 / 신는 <履く>, /듣는 / 듣는 <聞く>, /만는 / 만는 <引き受ける>, /웃는 / 웃는 <笑う>, /인는 / 인는 <ある>, /인는 / 잊는 <忘れる>, /쫓는 / 쫓는 <追う>, /논는 / 논는 <置く>, /끈는 / 끈는 <絶つ>, /이튿날 / 이튿날 <翌日>, /멍는 / 멍는 <食べる>, /당는 / 당는 <磨く>, /잉는 / 잉는 <読む>.
- [〃 (〃) 鼻音+ 漢] ㄴ * /심니 / 심리 (心理) (北 / 심리 / 심리) <心理>, /임력 / 임력 (入力) (北 / 임력 / 임력) <入力>, /강령 / 강령 (綱領) (北 / 강령 / 강령) <綱領>, /동립 / 독립 (獨立) (北 / 동립 / 독립) <獨立>.
- [〃 (〃) 鼻音+, +/i/, +/j/] ㄴ * /엄니 / 엄니 (北 / 엄니 / 엄니) <牙>, /집닐 / 집일 <家の仕事>, /짚녀울 / 짚여울 <稻の藁によるまぐさ>, /반니랑 / 반이랑 <畑の畔>, /늦여름 / 늦여름 <晩夏>, /난년 / 난년 <松の実の朝鮮飴>, /논닐 /

- 논 일 <田仕事>. /능 망 념/ 늑 막 염 (肋膜炎) (北) /릉 망 념/ 릅 막 염 <肋膜炎>, /부 영 닐/ 부 역 일 <台所仕事>, /콩 념/ 콩 엇 <大豆の朝鮮飴>, /맹 장 념/ 맹 장 염 (盲腸炎) <盲腸炎>.
- [〃 (〃) ㄴ + 漢] ㄹ * /생 산 냥/ 생 산 량 (生産量) <生産量> (北) /생 산 량/).
- [〃 (形態素の中間)] ㄴ * /하 나/ 하 나 <一つ>.
- [〃 (〃 . + ㅏ)] ㅓ /안 자 서/ 앓 아 서 <座って>.
- [〃 (形態素末. 母音ㅏ, + 母音)] ㄴ /시 는/ 신 은 <朝鮮靴は>, /사 는/ 산 은 <山は>, /사 낙/ 산 악 (山岳) <山岳>.
- [〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㅓ /마 는/ 많 은 <多い>.
- /ㄴ/ [語末] ㄴ /신/ 신 <朝鮮靴>, /산/ 산 (山) <山>.
- [語中(形態素の中間. + 流音以外の子音)] ㄴ /언 니/ 언 니 <姉(妹から見)て>, /반 드 시/ 반 드 시 <必ず>.
- [〃 (形態素末. + 流音以外の子音)] ㄴ /한 때/ 한 때 <ひと時>, /신 네/ 신 네 <履くよ>, /신 따/ 신 다 <履く>, /한 국/ 한 국 (韓國) <韓国>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅓ /만 네/ 많 네 <多いよ>, /만 타/ 많 다 <多い>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅓ /안 네/ 앓 네 <座るよ>, /안 따/ 앓 다 <座る>.
- [〃 (〃 . + 鼻音)] ㄴ /듣 네/ 듣 네 <聞くよ>, /이 튜 날/ 이 튜 날 <翌日>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㄴ /반 만/ 발 만 <畑だけ>, /만 네/ 말 네 <引き受けるね>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅓ /온 만/ 옷 만 <服だけ>, /운 네/ 웃 네 <笑うよ>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅓ /인 네/ 있 네 <あるよ>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅓ /난 만/ 낮 만 <昼だけ>, /인 네/ 잊 네 <忘れるよ>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅓ /꼰 만/ 꽃 만 <花だけ>, /죃 네/ 쫓 네 <追うよ>.
- [〃 (〃 . 〃)] ㅎ /존 네/ 좋 네 <いいよ>.
- /ㄹ/* [語頭 外, 北 漢] ㄹ * [南] /라 디 오/ 라 디 오 (北) /라 지 오/ 라 지 오 <ラジオ>, [北] /로 동/ 로 동 (勞動) (南) /노 동/ 노 동 <労働>, [北] /려 행/ 려 행 (旅行) (南) /여 행/ 여 행 <旅行>).
- [語中(形態素の頭) 母音, ㄹ +] ㄹ * /기 로/ 기 로 (岐路) <岐路>, /발 로/ 발 로 (發露) <發露>, /뚫 리 다/ 뚫 리 다 <(穴を)開けられる>.
- [〃 (〃) ㄹ +] 으 로 * /여 덜 로/ 여덟 으 로 <八 つ で も っ て > (書) /여 덜 브 로/), /웨 골 로/ 외 굴 으 로 <一筋に> (書) /웨 골 쓰 로/)
- [〃 (〃) ㄴ + 漢] ㄹ * /실 라/ 신 라 (新羅) <新羅>
- [〃 (〃) ㄴ + 漢] ㄹ * [北] /생 산 량/ 생 산 량 (生産量) (南) /생 산 냥/ 생 산 량 <生産量>.
- [〃 (〃) 〃 , 母音ㅏ. + /i/, /j/] ㄹ * [北] /선 렬/ 선 렬 (先烈) (南) /서 념,

- 선널 / 선열)) <烈士>, [北] /운를 / 운를 (韻律)
 ([南] /우눌, 운눌 / 운율) <韻律>, [北] /우열하다 / 우열하다
 (愚劣一) ([南] /우열하다 / 우열하다) <愚劣だ>, [北] /비를 /
 비를 (比率) ([南] /비율 / 비율) <比率>.
- [〃 (〃) ㄷ +] ㄴ * /날샅력 / 날샅넉 <夜明け頃>, /찰라 / 찰나 (刹
 那) <刹那>, /얼레 / 얹네 <薄いね>, /할레 / 핏네 <舐めるね>,
 /일레 / 잃네 <失うね>.
- [〃 (〃) ㄷ +, +/i/, /j/] ㄹ * /물락 / 물약 <水薬>, /서울력 / 서울역
 (一驛) <ソウル駅>.
- [〃 (〃) 鼻音 + [北] [漢] ㄹ * /심리 / 심리 (心理) ([南] /심니 /
 심리) <心理>, /임력 / 입력 (入力) ([南] /임넉 / 입력) <入
 力>, /생산량 / 생산량 (生産量) ([南] /생산냥 / 생산량) <
 生産量>, /선열 / 선열 (先烈) ([南] /서널 / 선열) <烈士>
 >, /운를 / 운를 (韻律) ([南] /우눌 / 운를) <韻律>, /강
 령 / 강령 <綱領> ([南] /강녕 / 강령) <綱領>, /동립 /
 독립 (獨立) ([南] /동닙 / 독립) <獨立>.
- [〃 (形態素の中間)] ㄹ * /흐르다 / 흐르다 <流れる>, /빨리 / 빨리 <速く>.
- [〃 (形態素末. 母音 +, +母音)] ㄹ /마른 / 말은 <馬 は>, /바락 /
 발악 (發惡) <あがき>, /아라서 / 알아서 <分かって>.
- [〃 (〃, 〃, 〃)] ㄹ /아라서 / 알아서 <病んで>.
- /ㄷ / [語末] ㄹ /달 / 달 <月>, /일 / 일 (一) <一>.
- [語末] ㄹ /여덟 / 여덟 <八つ>.
- [語末] ㄹ /곶 / 곶 <道筋>.
- [語中 (形態素の中間. +ㄷ)] ㄹ /빨리 / 빨리 <速く>, /설마 / 설마 <まさ
 か>.
- [〃 (〃, +ㄷ)] ㄹ /열븐 / 얹은 <薄い>.
- [〃 (〃, +ㄴ)] ㄹ /일근 / 읽은 <読んだ>.
- [〃 (〃, +ㄹ)] ㄹ /할튼 / 핏은 <舐めた>.
- [〃 (〃, +ㄴ)] ㄹ /웨곶쓰로 / 외곶으로 <一筋に>.
- [〃 (形態素末. +ㄴ 以外の子音)] ㄹ /알다 / 알다 <知る>, /달력 /
 달력 (一曆) <カレンダー>, /팔만 / 팔만 (八萬) <八万>
 >, /팔방 / 팔방 (八方) <八方>, /발견 / 발견 (發見) <發
 見>, /발로 / 발로 (發露) <發露>, /발달 / 발달 (發達) <
 發達>, /발편 / 발전 (發展) <發展>, /발송 / 발송 (發送)
 <發送>.
- [〃 (〃, 〃)] ㄹ /알레 / 얹네 <病むよ>, /알타 / 알다 <病む>.
- [〃 (〃, 〃)] ㄹ /열레 / 얹네 <薄いよ>, /열따 / 얹다 <薄い>.

- [〃 (〃 . + ㄹ)] ㄴ /실라/ 신라 (新羅) <新羅>.
- / ㅈ / * [語頭] ㅈ * /잘/ 잘 <よく>, /자기/ 자기 (自己) <自分>.
- [語中 (形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+)] ㅈ * /가지/ 가지 <行くよ>, /알지/ 알지 <知るよ>, /토지/ 토지 (土地) <土地>, /간장/ 간장 (干醬) <醬油>, /공장/ 공장 (工場) <工場>.
- [〃 (形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)] ㅈ * /아버지/ 아버지 <父親>.
- [〃 (形態素末. 母音+, +母音)] ㅈ /나제/ 낮에 <昼 に>, /지존/ 짓은 <吼えた>.
- [〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㄷ /마지/ 맏이 <長子>.
- / ㅈㅈ / * [語頭] ㅈㅈ * /쪽/ 쪽 <側>.
- [〃 . 連体 ㄹ +] ㅈ * /할찌게/ 할 적에 <する時に>.
- [語中 (形態素の頭)] ㅈㅈ * /복찌개/ 복찌개 <ふぐち>.
- [〃 (〃 . 口音+)] ㅈ * /먹찌/ 먹지 <食 べるよ>, /닥찌/ <磨くよ>, /익찌/ 읽지 <読むよ>, /입찌/ 입지 <着るよ>, /갑찌/ <報いるよ>, /업찌/ 없지 <ないよ>, /밟찌/ 밟지 <踏むよ>, /읍찌/ 읊지 <詠 ずるよ>, /듣찌/ 듣지 <聞くよ>, /말찌/ 말지 <引き受けるよ>, /웃찌/ 웃지 <笑うよ>, /잊찌/ 잊지 <忘れるよ>, /쫓찌/ 쫓지 <追うよ>, /날짬/ 낮잠 <昼寝>, /집찌비/ 집집이 <家 ご と に>, /입짬/ 입장 (入場) <入場>, /앞쪽/ 앞쪽 <前側>, 짬/장 <先頭>, /첫째/ 첫째 <第1の>, /울짬/ 옷장 (一機) <箆笥>, /늦짬/ 늦잠 <朝寝, 朝寝坊>/막짬/ 막집 (幕一) <仮小屋>, /학찌/ 학자 (學者) <學者>.
- [〃 (〃 . 鼻音, 流音+)] ㅈ * /넘찌/ 넘지 <越えるよ>, /점찌/ 젊지 <若いよ>, /안찌/ 안지 <抱くよ>, /열찌/ 얇지 <薄いよ>, /할찌/ 핥지 <舐めるよ>, /발췌/ 발전 (發展) <發展>.
- [〃 (形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)] ㅈㅈ * /어찌/ 어찌 <どうして>, /언짬타/ 언짬다 <すつきりしない>.
- / ㅈ / * [語頭] ㅈ * /참/ 참 <本当に>, /차/ 차 (茶) <茶>.
- [語中 (形態素の頭)] ㅈ * /갈채/ 갈채 (喝采) <喝采>.
- [〃 (〃 . 母音, 子音+, +母音)] ㅈ * /합치다/ 합치다 (合一) <合わせる>, /잡채/ 잡채 (雜菜) <챱츬 (春雨を使った料理)> . /첫차/ 첫차 (一車) <始発 の 車>/말추다/ 맞추다 <合わせる> . /막차/ 막차 (一車) <終車>, /악취/ 악취 (惡臭) <惡臭>.

- [“(” . ㄷ, ㄴ, ㄹ +, + 母音)]ㅎㅈ / 즐치/ 즐지<よいよ>, /안치/ 않지<しないよ>, /알치/ 알지<病むよ>.
- [“(” . ㄷ +, “”)]ㅈㅎ / 절치다/ 젯히다<反らす>.
- [“(” . “” , “”)]ㄷㅎ / 굳치다/ 굳히다<固める>.
- [“(” . “” , “”)]ㅌ / 난날치/ 날날이<一つ一つ>.
- [“(” . “” , “”)]ㅈ / 꽃춘/ 꽃은<花は>.
- [“(” . ㄴ +, + 母音)]ㅈㅎ / 안치다/ 앉히다<座らせる>.
- [“(” . ㄹ +, + 母音)]ㅌ / 할치다/ 핥이다<舐められる>.
- [“(” (形態素の中間)]ㅈ* / 아침/ 아침<朝>.
- [“(” . ㄹ +, + 母音)]ㅌ / 할치다/ 핥이다<舐められる>.
- /ㅅ/* [語頭]ㅅ* / 살/ 살<肌>, /산/ 산 (山)<山>.
- [語中(形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+)]ㅅ* / 도시/ 도시 (都市)<都市>, /인삼/ 인삼 (人蔘)<朝鮮人蔘>, /밤새/ 밤새<夜中>, /앙심/ 앙심 (怏心)<恨み>, /잘살다/ 잘살다<よい暮らしをする>.
- [“(” (形態素の中間. 母音, 鼻音+)]ㅅ* / 가시/ “가시”<棘>.
- [“(” (形態素末. 母音+, + 母音)]ㅅ / 오슨/ 웃은<服は>, /우슨/ 웃은<笑った>.
- [“(” . 히을のみ)+ 母音]ㅎ / 히으슨/ 히을은<히을は>.
- /ㄴ/* [語頭]ㄴ* / 쌀/ “쌀”<米>.
- [“(” . 連体ㄹ +)]ㅅ* / 갈싸람/ 갈 사람<行くべき人>.
- [語中(形態素の頭)]ㄴ* / 좁쌀/ 좁쌀<粟>, /성씨/ 성씨 (姓氏)<姓氏>.
- [“(” . ㅁ音+)]ㅅ* / 밥쌈/ 밥상 (一床)<膳>, /압싼/ 앞산 (一山)<南の山>, /밟습니다/ 밟습니다<踏みます>, / 읊습니다/ 읊습니다<詠じます>, / 엽습니다/ 엽습니다<ありません>, /올쏘매/ 웃소매<袖>, /날설다/ 낯설다<見慣れない>, /울습니다/ 웃습니다<笑います>, /일습니다/ 있습니다<あります>, /일습니다/ 잊습니다<忘れめます>, /쫓습니다/ 쫓습니다<追います>, /들습니다/ 들습니다<聞きます>, /말습니다/ 말습니다<引き受けます>, /좃습니다/ 좃습니다<よいです>, /목소리/ 목소리<声>, /학쌈/ 학생 (學生)<学生>, /먹습니다/ 먹습니다<食べます>, /닳습니다/ 닳습니다<磨きます>, /익습니다/ 읽습니다<読みます>.
- [“(” . 鼻音, 流音+)]ㅅ* 심습니다 /심습니다/<植 え ま す>, 옮습니다 /옮습니다/<移します>, 신습니다 /신습니다/<履きます>, 안습니다 /안습니다/<しません>, 웁습니다

/열습니다/<薄いです>, 웁습니다 /할습니다/<舐めます>, 알습니다 /알습니다/<病みます>, /발썌/ 발신(發信)
<發信>, /위험썌/ 위험성(危險性)<危險性>, /안전썌/ 안전성(安全性)<安全性>, /공공썌/ 공공성(公共性)<公共性>.

[〃(形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)]ㄴ* 아가씨 /아가씨/<お嬢さん>.

[〃(形態素末. ㄷ+, +母音)]ㄴ 값이 /값씨/<値段が>.

[〃(〃. ㄴ+, +母音)]ㄴ 샅이 /샅씨/<賃金が>.

[〃(〃. ㄹ+, +母音)]ㄴ 외곶으로 /외곶쓰로/<一筋に>.

[〃(〃. ㄷ+, +母音)]ㄴ 있는 /일썌/<あった>.

/ㄴ/* [語頭]ㄴ* /가을/ 가을<秋>, /강/ 강(江)<川>.

[語中(形態素の頭. 母音, 鼻音, 流音+)]ㄴ* /화가/ 화가(畫家)<画家>/넘기다/ 넘기다<渡す>, /감기/ 감기(感氣)<風邪>.
/안기다/ 안기다<抱かれる>, /건강/ 건강(健康)<健康>, /멍개/ 멍개<ホヤ>, /공개/ 공개(公開)<公開>.
/발견/ 발견(發見)<發見>.

[〃(形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)]ㄴ* /아가씨/ 아가씨<娘>, /살구/ 살구<アンズ>.

[〃(形態素末. 母音+, +母音)]ㄴ /아공/ 악용(惡用)<惡用>, /싸근/ 싸은<芽は>.

[〃(〃. 〃, 〃)]ㄴ [ㄴ] /부어근/ 부엌은<台所は>(/부엌큰/).

[〃(〃. 〃, 〃)]ㄴ [ㄴ] /사근/ 샅은<賃金は>(/샅쓰/).

[〃(〃. ㄹ+, +母音)]ㄴ /일근/ 읽은<呼んだ>.

/ㄴ/ [語末]ㄴ /속/ 속<中, 内>, /약/ 약(藥)<藥>.

[〃]ㄴ /밖/ 밖<外>.

[〃]ㄴ /부엌/ 부엌<台所>.

[〃]ㄴ /샅/ 샅<賃金>.

[〃. 形態素の中間. +ㄴ]ㄴ /샅씨/ 샅이<賃金が>.

[〃. 〃. +ㄴ]ㄴ* /낙씨/ 낙시<釣り>.

[〃. 形態素末. +濃音, 激音]ㄴ /닥치다/ 닥치다<近づく>, /삭씨/ 삭제(削除)<削除>, /먹따/ 먹다<食べる>.

[〃. 〃. +濃音]ㄴ /닥따/ 닥다<磨く>.

[〃. 〃. 〃]ㄴ /익따/ 읽다<読む>.

/ㄴ/* [語頭]ㄴ* /꼬리/ 꼬리<尾>.

[〃. 連體ㄹ+]ㄴ* /갈길/ 갈 길<行くべき道>.

[語中(形態素の頭)]ㄴ* /아까/“아까”<さっき>.

[〃(〃. 口音+)]ㄴ* /일꼬/ 입고<着て>, /갈꼬/ 갖고<報いて>

>, /없고/ 없고<なくて>, /밟고/ 밟고<踏んで>, / 읊고/ 읊고<詠じて>, /입국/ 입국(入國)<入国>, /앞길/ 앞길<将来>, /웃고/ 웃고<笑って>, /잊고/ 잊고<忘れて>
>, /쫓고/ 쫓고<追って>, /들고/ 들고<聞いて>, /맡고/ 맡고<引き受けて>, /늦가을/ 늦가을<晩秋>.

[〃 (〃 . 〃)] ㄴ * /늦까이/ 늦까이<晩学の人>. /북까지/ 북까지
<北まで>, /밖까지/ 밖까지<外まで>, /부엌까지/ 부엌까지
<台所まで>, /부엌간/ 부엌간(一間)<台所>.

[〃 (〃 . 鼻音, 流音+)] ㄴ * /잠깐/ 잠깐(北 잠간)<しばらく>, /넘고/ 넘고<越えて>, /삼고/ 삼고<煮て>. /관까니/ 관까이<し
つこい人>, /만깍/ 만깍(滿喫)<満喫>, /안과/ 안과(眼科)<眼科>, /안고/ 안고<抱いて>, /안고/ 앉고
<座って>, /쌍꺼풀/ 쌍꺼풀(雙一)<二重まぶた>, /성과/ 성과(成果)<成果>, /학생과/ 학생과(學生課)<学生課
>, /갈까/ 갈까(北 갈가)<行こうか>, /얇고/ 얇고<薄くて>
>, /일고/ 읽고(北 /익고/ 읽고)<読もうか>, /물까/ 물가(物價)<物価>.

[〃 (形態素の中間. 母音, 鼻音, 流音+)] ㄴ * /아까/ 아까<さっき>.

[〃 (形態素末. ㄴ+ +母音)] ㄴ /밖께/ 밖에<外に>, /깎까다
/ 깎이다<削られる>.

/ ㄴ / * [語頭] ㄴ * /칼/ 칼<刀>, /쾌속/ 쾌속(快速)<快速>.

[語中(形態素の頭)] ㄴ * /유쾌하다/ 유쾌하다(愉快一)<愉快だ>.

[〃 (形態素の中間)] ㄴ * /조카/ 조카<甥>.

[〃 (形態素末. ㄴ+, +母音)] ㄴ /부엌큰/ 부엌은<台所と>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㄴ ㅎ /국카고/ 국하고<スープと>, /각카/
“각하(閣下)”<閣下>, /먹키다/ 먹히다<食べられる>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㄴ ㅎ /밖카고/ 밖하고<外と>.

[〃 (〃 . 〃 , 〃)] ㄴ ㅎ /부엌카고/ 부엌하고<台所と>.

[〃 (〃 . ㄹ+, 〃)] ㄹ ㅎ /일키다/ 읽히다<詠じた>.

/ ㄹ / [語末] ㄹ /멍/ 멍<痣>, /강/ 강(江)<河>.

[語中(形態素の中間. +母音, 子音)] ㄹ /덩어리/ 덩어리<塊>,
/엉망/ 엉망<めちやくちや>, /낭떠러지/ 낭떠러지<斷崖>,
/엉터리/ 엉터리<でたらめ>, /멍개/ 멍개<ホヤ>, /냉큼/ 냉큼<直ちに>.

[〃 (形態素末. +子音)] ㄹ /장보다/ 장보다(場一)<市場で買い物をす
る>, /양반/ 양반(兩班)(北 /량반/ 량반)<兩班
(ヤンバン)>, /장뺨/ 장뺨(長一)<親指と中指を最大限に伸ばした
長さ>, /용뺨/ 용법(用法)<用法>, /양파/ 양파(洋一)<たまね

ぎ>, /상품/ 상품 (商品) <商品>, /앙
망/ 앙망 (仰望) <期待>, /강다리/ 강다리 <つっぱり>, /장단/
장단 (長短) <チャンダン, 拍子>, /강탈/ 강탈 (強奪) <強奪
>, /강냉이/ 강냉이 <とうもろこし>, /강남/ 강남 (江南) <
江南>, /강령/ 강령 (綱領) (北 /강령/“강령”) <綱領>,
/콩넝/ 콩넝 <大豆の朝鮮飴>, /맹장넝/ 맹장넝 (盲腸炎) <
盲腸炎>, /공짜/ 공짜 (空一) <ただ>, /초청짱/ 초청짱 (招
請狀 <招請狀>, /망치다/ “망치다” <駄目にする>, /경찰/
경찰 (警察) <警察>, /성씨/ 성씨 (姓氏) <姓氏>, /공공쌩/
공공쌩 (公共性) <公共性>, /공개/ 공개 (公開) <公開>.
/쌍꺼풀/ 쌍꺼풀 (雙一) <二重まぶた>, /성과/ 성과 (成果) <
成果>, /학생과/ 학생과 (學生課) <學生課>, /상쾌/ 상쾌 (<
爽快> <爽快>, /망하다/ 망하다 (亡一) <滅 び る >, /공항/
공항 (空港) <空港>.

[“ (” . + 鼻音, 流音)] ㄴ /앙몽/ 악몽 (惡夢) <惡夢>, /멍
는/ 먹는 <食べる>, /동립/ 독립 (獨立) (北 /동립/ 독립
) <獨立>, /능망넝/ 늑막넝 (肋膜炎) (北 /릉망넝/ 륑막
넝) <肋膜炎>.

[“ (” . + 鼻音)] ㄹ /잉네/ 읽네 <読むよ>.

[“ (” . ”)] ㅈ /부엌만/ 부엌만 <台所だけ>, /부엌닐/ 부엌
일 <台所仕事>.

[“ (” . ”)] ㅊ /당네/ 닥네 <磨くよ>, /방만/ 밖만 <外だけ>.

[“ (” . 母音)] ㅊ /강이/ 강의 (講義) <講義>, /멍이/ 멍이
<痣が>, /강이/ 강이 <河が>.

/ㅎ/* [語頭] ㅎ* /하나/ 하나 <1つ>, /한/ 한 (恨) <恨(ハン)>.

[語中(形態素の頭)母音, 鼻音, 流音+] ㅎ* /회견/ 회화 (會話)
<會話>, /감히/ 감히 (敢一) <敢えて>, /감행/ 감행 (敢行)
<敢行>, /안하다/ 안하다 <しない>, /은행/ 은행 (銀行) <
銀行>, (北 /안해/ 안해 (南 /아내/ 아내) <妻>, /망하다/
망하다 (亡一) <滅びる>, /공항/ 공항 (空港) <空港>, /잘하
다/ 잘하다 <上手だ>, /결핵/ 결핵 (結核) <結核>.

/ゼロ/* [語頭] ㅊ* /아이/ 아이 <子供>, /온도/ 온도 (溫度) <溫度>.

[語中(形態素の頭)母音+] ㅊ* /호응/ 호응 (呼應) <呼応>.

[“ (形態素の中間)母音+] ㅊ* /아이/ 아이 <子供>.

[“ (形態素末)母音+] ㅎ* /조은/ 좋은 <よい>.

(2) 母音音素

/ㅏ/ ㅏ /아마/ 아마 <多分>, /말/ 말 <馬>, /사/ 사 (四) <四>.

/ㅌ/ ㅌ /약/ 약 (藥) <薬>, /어낙/ 언약 (言約) <誓い>.

/ㄴ/ ㄴ /기와/ 기와 <かわら>, /사과/ 사과 (沙菓) <林檎>.

/ㄷ/ ㄷ /어머니/ 어머니 <母>, /먹/ 먹 <墨>, /처리/ 처리 (處理) <処理>

ㄷ (用言第 III 語基で) /저/ 저 (負って), /찌/ 찌 (蒸して), /쳐/ 쳐 (打って), /안쳐/ 앉혀 <座らせて>, /받쳐/ 받쳐 <支えて>, /받쳐/ 받혀 <突かれる>, /할쳐/ 핥여 <舐められて>, /아라맡쳐/ 알아 맞혀 <言い当てる>.

/ㄷ/ ㄷ /여러/ 여러 <いろいろな>, /겨레/ 겨레 <同胞>, /여당/ 여당 (與黨) <与党>

ㄷ (用言第 III 語基で. ㅅ +) [南] /피여/ 피어 <咲いて> ([北] /피여/ 피여), [南] /내여/ 내어 <出して> ([北] /내여/ 내여), [南] /세여/ 세어 <立てて> ([北] /세여/ 세여), [南] /꺾여/ 꺾어 <集まって> ([北] /꺾여/ 꺾여), [南] /쉬여/ 쉬어 <休んで> ([北] /쉬여/ 쉬여), [南] /히여/ 희어 <白くて> ([北] 희여 /히여/).

/궤/ 궤 /원숭이/ 원숭이 (猿一) <猿>, /워낙/ 워낙 <もともと>, /궤리/ 궤리 (權利) <權利>.

/ㅅ/ ㅅ /오빠/ 오빠 <兄(妹の)>, /지보리/ 집오리 <アヒル>, /오/ 오 (五) <五>

/ㅍ/ ㅍ /요/ 요 <敷布団>, /욕심/ 욕심 (欲心) <欲>.

ㄷ 오 (用言語尾. ㅅ +) /가십세요/ 가십시오 <行して下さい>.

/ㅌ/ ㅌ /우리/ 우리 <われわれ>, /자주/ 자주 <しばしば>, /우표/ 우표 (郵票) <郵便切手>

話 - (ㅂ, ㅅ, ㅍ, ㅌ +) /이쁘다/ 이쁘다 <きれいだ> (/이쁘다/), /아프다/ 아프다 <痛い> (/아프다/), /지분/ 집은 <家は>, <つまんだ> (/지분/), /아픈/ 앞은 <前> (/아픈/), /지문/ 짐은 <荷は> (/지문/).

/ㅠ/ ㅠ /유리/ 유리 <ガラス>, /우유/ 우유 (牛乳) <牛乳>

/ㅡ/ ㅡ /으뜸/ 으뜸 <一番>, /그림/ 그림 <絵>, /그액/ 금액 (金額) <金額>

/ㅣ/ ㅣ /이/ 이 <齒>, /미리/ 미리 <あらかじめ>, /이상/ 이상 (以上) <以上>

ㄴ /무니/ 무늬 <模様>, /떠우다/ 띄우다 <浮かべる>, /씨우다/ 씌우다 <かぶせる>, /희망/ 희망 (希望) <希望>, /가기/ 각의 (閣議) <閣議>, /하비/ 합의 (合意) <合意>, /아기/ 악의 (惡意) <惡意>, /차미/ 참의 (參議) <參議>, /나니/ 난의 (難義) <難義>, /사리/ 살의 (殺意) <殺意>, /항이/ 항의 (抗議) <抗議>. /거이/ 거의 <ほとんど> (/거의/), /주이/

주의 (主義) < 主義 > (/주의/).

/ㄱ/ ㄱ /쥐/ 쥐 < 鼠 >, [南] 위 /위/ < 上 > ([北] 우 /우/), 쉬다 /쉬다/ < 休む >.

/ㄴ/ ㄴ /거의/ 거의 < ほとんど >, /의미/ 의미 (意味) < 意味 >, /주의/ 주의 (主義) < 主義 >.

/ㄹ/ ㄹ /애초/ 애초 < 始め >, /개/ 개 < 犬 >, /대국/ 대국 (大國) < 大國 >.

/ㄹ/ ㄹ /애/ 애 < この子 >, /개/ 개 < その子 >.

/ㄴ/ ㄴ /왜/ 왜 < 何故 >, /꽤/ 꽤 < かなり >, /왜곡/ 왜곡 (歪曲) < 歪曲 >.

/ㄷ/ ㄷ /게/ 게 < 蟹 >, /게재/ 게재 (掲載) < 掲載 >.

[ソ] ㄷ (子音+) /계약/ 계약 (契約) < 契約 > (/계약/).

의 /나에/ 나의 < わたしの >, /지메/ 짐의 < 家の >

[ソ] ㄹ /애초/ 애초 < 始め > (/애초/), /개/ 개 < 犬 > (/개/), /대국/ 대국 (大國) < 大國 > (/대국/).

/ㄷ/ ㄷ 예약 (豫約) /예약/ < 予約 >, 계약 (契約) /계약/ < 契約 >.

[ソ] ㄹ /예/ 예 < この子 > (/예/), /게/ 개 < その子 > (/개/).

/ㄷ/ ㄷ /웬닐/ 웬일 < 何事 >.

ㄴ /웨우다/ 외우다 < 覚える > ([北] /웨우다/ 웨우다), /궤/ 궤 < 知恵 >, /웨국/ 외국 (外國) < 外國 >.

[ソ] ㄴ /웨/ 왜 < 何故 > (/왜/), 궤 /궤/ < かなり > (/궤/), 왜곡 (歪曲) /웨곡/ < 歪曲 > (/왜곡/).